

# 川柳塔

創刊大正十三年 通卷一 一三七号



日川協加盟

特集 こんにちは新同人です

No.1137

二月号

## 第十回春の川柳塔まつり誌上大会募集

川柳塔社では、日頃句会などにお出掛けになれない方々を含め、結社を越えて広く川柳をお楽しみいただく機会として、第十回誌上大会を企画いたしました。参加要領は左記のとおりです。是非皆様のご参加をお待ち申し上げます。

川柳塔社

### 課題と選者（各題2句 共選）

課題吟

「声」 広瀬 ちえみ (What, s)  
乗原 道夫 (川柳塔社)

「軽い」 濱山 哲也 (弘前川柳社)  
大久保 眞澄 (川柳塔社)

自由吟

「大西 泰世 (川柳「魚座」)  
小島 蘭 幸 (川柳塔社)

投句要領

規定の用紙(コピー可)または、用紙の入手できない場合は便箋などご使用いただいても結構です。

投句料 一〇〇〇円(切手は不可)

投句締切 令和四年二月二十八日(月)消印有効

送付先 〒543-0052

大阪市天王寺区大道一―四―一七―二〇―一

川柳塔社 誌上大会係 宛

TEL/FAX(〇六)六七七九―三四九〇

賞及び発表

各題特選に賞呈 発表は川柳塔誌五月号誌上  
川柳塔誌を購読されていない方には発表誌呈

## 急 告

2月7日(月)の本社句会は急遽中止と決定しました。

新型コロナウイルス感染症はオミクロン株に置き換わり、蔓延の勢いは止まるところを知らずん。

くれぐれも油断することなく、マスク・手洗い・消毒・換気を心掛けご安全にお過ごしください。

川柳塔社

# 一月句会

小島 蘭 幸

常任理事会を終えて、検温、手指の消毒をして受付を済ませました。

いつもより大きな会場には感染対策として、机の真ん中には仕切り板が設置されていて三名の席が二名になっていました。披講席には飛沫が飛ばないようにアクリル板が設置されていました。

令和二年の二月句会以来の句会ということと、新型コロナウイルスのオミクロン株の市中感染が徐々に拡大してましたので出席を心配しておりました。が八十八名の盛会でした。

一月句会はお亡くなりになった同人の皆さまへの黙祷から始まりました。続いて「石碑、短冊に書かれた川柳」と題して不肖私がおはなしをさせていただきました。昨年、私の川柳の先生、山内静水の遺品としていただいた短冊を是非とも紹介したかったです。

口髭を生やして猫の仔が生まれ 豆 秋

をはじめ、白柳、久米雄、正一、伯峯、梅志、小松園、文庫氏の短冊を紹介させていただきました。

山内家の仏壇の片隅に半世紀以上、手作りの桐箱に大切に保管されていました。

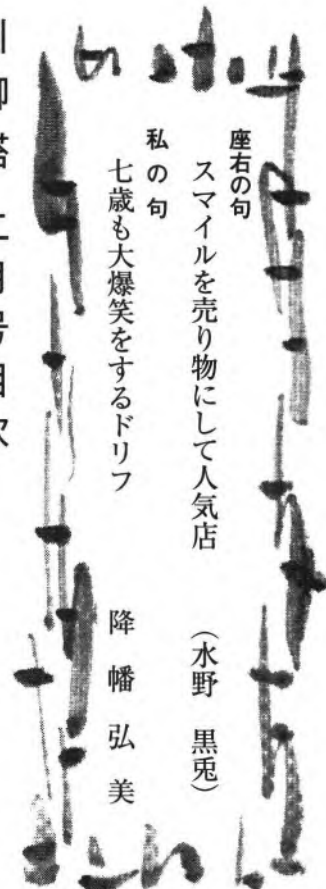
盃の順日本の祝いごと

不二也

憎越ながらクイズとして出させていただいた作品です。正解者の乗原道夫氏には、昨年の七月、私ひとりで開催した麻生路郎句碑まつりでお供したワンカップを贈呈しました。

さて、いよいよ本日出席者の皆さまお待ち兼ねの選者六名の披講です。私は句会、大会の醍醐味はなんといっても憧れの選者から直接、生で聴ける披講にあると思っていますので、久しぶりに至福のひとつでした。月間賞は、新家完司選、天位の鴨谷瑠美子さんでした。おめでとうございます。「また二月にお会いしましょう」という声飛び交うなか、一月句会は無事終了することが出来ました。

ただここに来て、沖繩、山口、広島に「まん延防止等重点措置」が適用される等、オミクロン株が急拡大しています。二月句会が心配です。



# 川柳塔 二月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「月冴ゆ大山」

■巻頭言 一月句会……………小島 蘭 幸 ……(1)

受身……………西 尾 栞 ……(2)

川柳塔(同人吟)……………小島 蘭 幸 選 ……(4)

川柳塔の川柳讃歌 ⑨……………木津川 計 ……(37)

自選集……………林 荒 介 ……(41)

句集の森……………林 荒 介 ……(41)

温故知新……………川 上 大 輪 選 ……(42)

水煙抄……………川 上 大 輪 選 ……(42)

誹風柳多留一三篇研究 18……………川 上 大 輪 選 ……(58)

西尾栞句集『水鶏笛』……………吉村 侑 久 代 ……(61)

英語 de Senryu ⑫……………吉村 侑 久 代 ……(61)

愛染帖……………新家 完 司 選 ……(62)

檸檬抄「盛 る」……………栗原道夫・久保田千代共選 ……(66)

## 受身

西 尾 栞

中学二年になると、剣道と柔道のどちらかを正科で習うのである。僕は柔道を選んだ。柔道の基本は受け身であることを、くどくどと教えられて、受身に時間をつぶされた。

受身とは投げとばされる練習である。人の前で叩きつけられる練習である。

人の前でころぶ練習である。人の前で負ける練習である。

つまり人の前で失敗したり、恥をさらす練習である。

自分のカッコ悪さを、多くの人の前で、ぶざまにさらけだす練習、それが受身である。柔道の基本では、カッコよく勝つことを教えない。

素直にころぶことを教える。

いさぎよく負けることを教える。

長い人生には、だらしなく恥をさらすことの方がはるかに多いからである。

だから柔道では初めに負け方を教える。しかも本腰を入れて負けることを教える。その代り

一路集「ずばり」	村田 博選	(70)
「理由」	能勢利子選	(71)
初歩教室「器用」	西出 楓 楽	(72)
川柳塔鑑賞	川端 一步	(74)
水煙抄鑑賞	内田志津子	(76)
せんりゆう飛行船 <sup>(73)</sup>	新家 完 司	(77)
『麻生路郎読本』余滴 <sup>(68)</sup>	乗原 道 夫	(78)
<b>特集</b> こんにちは 新同人です		(80)
十二月本社誌上句会		(89)
インスピレーション・ナビ 印象吟	大西 泰 世	(98)
一月本社誌上句会		(100)
柳界展望		(105)
二月各地句会案内		(106)
各地柳壇 (佳句地十選/竹村紀の治・古久保和子)		(108)
■編集後記 (ひとこと/柏原夕胡)	朱夏・憲彦	(122)

座右の句

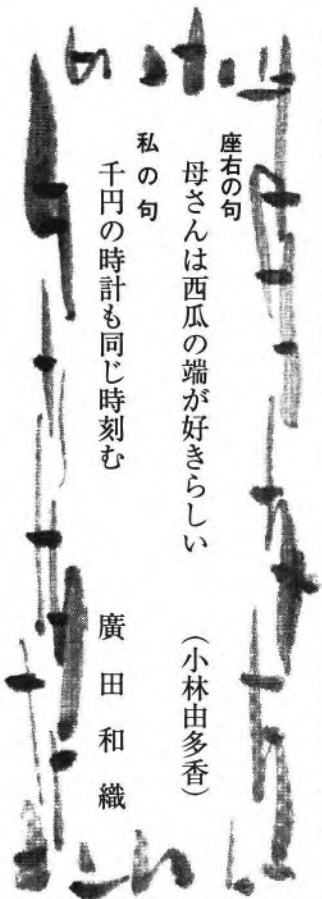
母さんは西瓜の端が好きらしい

(小林田多香)

私の句

千円の時計も同じ時刻む

廣 田 和 織



ころんでもすぐおき上る。  
負けてもすぐ立ち直る。  
それが受身の極意である。  
我々は失敗を気にしてはならない。  
負けるときはさらりと負けるがよい。  
口惜しい時は「こんちくしょ!!」と正直に叫ぶがよい。弁解など一切するな。  
泣きたい時は、思いきり泣くがよい。  
やせ我慢などすることはない。  
その代り  
スカツと泣いて、ケロリと止めよう。  
早くから勝つことを覚えてはならない。  
負けることを学んで、恥をかくことにうまくなろう。  
そして下積みや、下働きの苦しみをたっぷりと体験しよう。  
体験したものは身につく。  
そして負け方や、受身の本当に身についた人間が、世の中の悲しみや苦しみに耐えて、他人の胸の痛みを、心の底から理解できる。  
そして、やさしく温かい人間になれるのである。  
僕は受身ばかり稽古していたため二、三年は赤帯であった。  
四年生の秋にやっと茶帯になった。  
(川柳塔昭和63年5月号)



小島蘭幸選

破れジーンズアツプリケはタイガー  
どしゃ降りに復活誓うバラの棘  
耳鳴りの訳は聞かないピアス穴  
ドライフラワーまだまだ残る君の笑み  
軸足に翼の生える気がするの  
うろこ雲 茜に染まる日は確か

松山市 大内 せつ子

犬山市 金子 美千代

予定表急に埋まってきた解除  
亡夫とは十三年も会ってない  
たいていの悩みはとるに足らぬこと  
年寄りと抵抗なしにもう言える  
大掃除日和締め切り日が迫る  
断水の用心ですの無洗米

堺市 榎原道夫

ホッチキスの音も初冬に入りけり  
鉄条網に引っかかっている軍手  
お地藏さんとのたうち回りたい気分

石段にいつからしゃがんでいる鬼か  
雨催い阿鼻叫喚の一樹あり  
霧のなか胸に湧き立つものがあり

長生きをしたなと思う十二月  
なまけ者になる素質は充分にあった  
友だちはみな元氣やでと言う  
いたわられ何と申しましようか はい  
日は昇り日は沈みカラスはカアと鳴く  
改札を抜けておめでとうございます

大阪市 谷口 義

裏庭にサドルの取れた三輪車  
弟に愚痴を聞かせて縄のれん  
強いねと言われ泣けないままの夜  
断捨離の捨ててはならぬ思ばかり  
大鍋のおでん此の世は具沢山  
母さんが呼んでいるので帰ります

大阪市 平井 美智子

予定表急に埋まってきた解除  
亡夫とは十三年も会ってない  
たいていの悩みはとるに足らぬこと  
年寄りと抵抗なしにもう言える  
大掃除日和締め切り日が迫る  
断水の用心ですの無洗米

米子市 竹村紀の治

廃校にみんなの匂い木の香り  
欠席はメールで出席は電話  
聞き流すことを覚えてずらい酒

記憶には無いと確信犯が言う  
独学で顔色を読む腹を読む  
追い風のときは決まって蹴躓く

鳥取市 岸本宏章

転移なし医者が嬉しいことを言う  
値段見てすぐ諦めた松葉蟹  
駅裏のイメージ消した跨線橋

絵心がなくてサソリ座見い出せず  
その頃の世相が分かるヒット曲  
腹の虫宥めすかせるのも修行

藤井寺市 鴨谷瑠美子

丁寧に洗い福耳とりもどす  
無口だが殺し文句は知っている  
不器用に生まれわたしの損と得

とろりとチーズ尾を引く内輪もめ  
加齢だと言われ納得して帰る  
老醜にならないところ磨いてる

箕面市 中山春代

コロナめが消してしまつた神の鈴  
正月も一汁二菜発泡酒  
隠してもでる朗読のくに訛

声をかけ空き家の柚子を二つ三つ  
セーターの解れへ花のアップリケ  
凧に炬燵を出ない万歩計

雨雲をつつく裏めてくれるまでは  
健康で生きているのに宝くじ  
待合室の椅子しか愚痴を聞いてない

コンパスと計算尺を持った蜘蛛  
耐えきれずガラスの靴を脱ぎました  
波立てぬように呼吸を深くする

奈良市 大久保眞澄

トナカイが足腰強化する師走  
これ見よがしに新米というシール  
飲み物ではなかつたようねオミクロン

レジ係の仕事を増やすセルフレジ  
勝てないはずだ鉛筆の濃さ字のうまさ  
好奇心はあつても続かない根気

三田市 堀正和

花東が届く 本日妻傘寿  
バラバラと喪中ハガキが来る師走  
欲張つて五年日記を買いました

正月の大吟醸は確保済み  
手作りのしめ縄ですと自慢する  
トラ年や優勝目指せタイガース

尼崎市 山田耕治

次はいつ施設の姉のカレンダー  
キッチンがきれいとお嬢Vサイン

暖かくしてねとおやすみのメール

夕刊を待つ門柱に赤トンボ

大事な時間八十からの時間

暖かいかわりに雨が降っている

東大阪市 佐々木満作

生きる知恵母のレシピをレファレンス

いつか咲く子の成長を見極める

真の友途方に暮れた日の助言

断捨離で不明の証書見つけ出す

よくもまあ生き永らえて曾孫抱く

唐津市 坂本峰朗

高齢の兄弟多く冬に入る

年寄りの証しのようにすぐ燃える

辞書練れば若かりし日の木の葉髪

骨つばい若者もいて安堵する

正論を掲げ譲らず遠回り

生かされて今日も美味しい酒がある

三原市 鴨田昭紀

爽やかな笑いを東風が連れて来る

ストレスや鬱を縁側に吊るす

コツコツとコツコツと徳を積む

実るまで愛の追肥は絶やさない

若き日がドツと噴き出すビートルズ

にんげんが集うと戦が始まる

羽曳野市 徳山みつこ

戎っさんどうかコロナをたきあげて

CMの後もコロナのニュースです

宇宙旅行はいかないこの星が好き

ほんのりと車内に豚饅の匂い

政治にも現れないかビッグボス

一強にペコペコ野心がさせている

阿南市 小畑定弘

冬の田にまだ立たされている案山子

世の中を斬る時使うペンネーム

巣籠りの部屋からみてる昼の月

古傷の疼く日ありぬ冬半ば

医者という「老人性」という魔物

施設から友の絵手紙冬に入る

和歌山市 柏原夕胡

二十四時間では足りません読書好き

好奇心旺盛で新聞を読む

「まだ」と「もう」が言い争っている二月

ネコちゃんは暖房わたしは綿入れ

コロナ禍の近所付き合いマスク越し

仏間では寒そう如月の仏



北九州市 小松紀子

おどろいたいつの間にやら八十一

あちこちのパーツ痛むは想定内

ご飯です直訴してくるうちの犬

読めるけど書く気になれぬ「ウツ」の文字

普通というゾーンがとても幸せ

唐津市 山口高明

お隣は紫綬褒章をもらった方

九条へ悲憤慷慨 彬の碑

親友と目の保養するゴツホ展

安曇野に涙を捨てる独り旅

手の平にへのへのもへじ書く無聊

熊本市 岩切康子

ご多忙の返事元氣と安堵する

甘党に和菓子でもでも止められぬ

天草魚行列出来る朝の市

気になれば電話が出来る良いこの世

雨の中電池求める訳がある

熊本市 杉野羅天

阿蘇散歩豊後富士まで見えた「吉」

人生を狂わす伝染病一つ

秋の空晴れて心満つ虚しき

冬の兆し芒穂白く光りけり

漢字改革難解化する名の表示

札幌市 小沢淳

四ツ足に腰痛はなし真似てみる

地球儀のどこを回せば平和かな

免許返上もうすぐ自動出る筈だ

子に残す預金残高あればよし

過積載何故か私が降ろされる

男鹿市 伊藤のぶよし

人生模様さらりと聞かず駄ピアノ

凄い手品だ笑顔の花を咲かせてる

グーチョコキパー上には上がある勝負

ああ極楽イロリ囲んでやる地酒

マスクでも笑顔がいいねやと春

弘前市 稲見則彦

マッハ3 時の流れに流されて

人ひとりやと通れる譲り合い

銀世界もう嫌いです後期です

滑り止め荒縄巻いたのも 昭和

鍋奉行爺は辞退を申しでる

弘前市 今愁女

もう少しの辛抱だよとマスク縫う

虎の子貯金宇宙旅行に目が覚める

わたくしに楽を夫は有料ホーム

百歳までは生きてみせると肝に銘じ

除夜の鐘かすかに聴こえ感傷に

塩竈市 木田 比呂朗

地場産の豆にこだわる鬼遣らい  
キャンブインまねて右脳を揺り起こす  
スニーカー履いてはみたがまだ寒い  
去年より薄くなったと言う鏡  
だとしてもマスクまだまだ命綱

朝霞市 前田 洋子

吉報のティアラ召された愛子様  
皇室に慶兆の華末長く  
落ちてゐる外れるはずのないマスク

皆の頼み宇宙実験してくれる  
同席を先に逝つたら取ると友

越谷市 久保田 千代

深追いはしない浅瀬で待っている  
韓流に染まりわたしも唯の人  
雑音もある味噌汁の熱い距離  
老いの坂みんなの機嫌見て疲れ  
諦めの中で溜まっていく疲労

東京都 川本 真理子

軽傷ばかり増えて冬本番に入る  
シロクマは待つていた真冬の寒さ  
冬眠中の亀の寝顔を確かめる  
思い出すドクダミの香の秘密基地  
サヨナラと重くならないように言う

八王子市 川名 洋子

三食はレンジの世話になつてゐる  
涙がぼろり愛一つ落ちて消え  
弱虫の本音出してもいいですか  
主婦業と言えぬ一人のおままごと  
やんわりと許せるようになり傘寿

横浜市 川島 良子

居て困る居なくて困る存在感  
暗号を紐解くように若者言葉  
新米の賞味期限が分からない  
反対はしないが賛成もしない  
健診日近づき俄ダイエツト

横浜市 菊地 政勝

一筆を添えた賀状と話す  
筆勢の変わらぬ賀状へほつとする  
コロナ禍の新年会は湿つぽい  
空気まで洗い清めよ初日の出  
眼帯をかけると見える人の情

富山市 島 ひかる

白えびにイクラかずのご屠蘇を酌む  
百人一首記憶の中に父母が居る  
恋はゆめ愛はエゴだと実感す  
オミクロン株水際で防げるか  
人ごとのようにニュースを見ています

可児市 板山 まみ子

長岡京市 山田 葉子

余所事と思つたガンが我が家にも

失敗も笑いの種に草テニス

こんなにもたるんでくるか腿の肉

筋トレが徒勞に終る老いた腿

十億円無いので宇宙行けません

愛知県 早川 遡行

走つてもバトン受け取る子がいない

笑わない男となつて孤に籠り

コロナ禍の老舗旅館も力尽き

黙食の味も素っ気もないランチ

卓球で三キロ瘦せた胴回り

名古屋山本 三樹夫

元旦すぎは歳数え憂うつになる

川柳と掛けボケ防止知力一

新型コロナ型を変える知恵比べ

つるべおとし夕餉もいつか早くなる

選挙戦のろしを上げて裏がある

犬山市 関本 かつ子

お年玉準備の孫も二年振り

気忙しい一年だった医者通い

娘にはもうナツメロの聖子ちゃん

コーヒーを入れて夫婦の仲直り

更新も夜は出掛けぬ免許証

献立を思いつくから大丈夫

家服からだメンテナンスに忙しい

耳につく午前三時のチックタク

ケセラセラ片道切符あればいい

自己流でまだまだ続く綱渡り

大阪府 米澤 俣子

街いなく散る山茶花のひとり言

湯に浸りこの一年を顧みる

カタカナの名に埋もれている花屋

貰つた以上に返せてないな愛

夢にも出ぬ亡夫極楽へ着いたら

大阪市 石田 孝純

坂道を転がっている十二月

ラストスパートエンジンかける腕回す

一年の貸借表のプラス一

三・五度あらら地蔵も白い息

コロナ下のワイン空きビン二十本

大阪市 磯島 福貴子

開戦後に生を受け早や傘寿なり

この国に生れた幸を享受して

数数の恩生ある内に返さんと

老いにムチ振りかざし生く昨日今日

待ちに待った句会再開笑顔の輪

大阪市 岩崎 公誠

朝刊は大事な記事にマーク入れ  
目で語る落語家の芸年季もの  
唐突に想定外のピンチ来た  
むつかしい話続いて出口ない  
豪邸に似合わない人住んでおり

大阪市 岩崎 玲子

老いふたり半分ずつが普通なり  
外出はお医者さん行くだけになり  
マスクばかり喋る作法も忘れがち  
お喋りは元気をはかるパロメーター  
スマホなど使えないのに持たされる

大阪市 内田 志津子

散骨を選んだ亡父の日本海  
一人減り二人減りして今日は閑  
浦島になって一歩が踏み出せず  
発熱の孫に添い寝の午後三時  
ペビーカーぬり絵捜して三軒目

大阪市 宇都 満知子

風連れて子ども元気を持ち帰る  
夕焼け小焼け夢は明日へと繋がる  
ばあちゃんは失敗しないオムライス  
お正月鍋とお鮎で手を打った  
変化球阿吽のミットに吸い付く

大阪市 江島谷 勝弘

混雑が戻ってきたよ疲れれます  
降圧剤一錠飲んで普通人  
あらぬこと言うたらアカン耳がある  
電車中向かいも指を折っている  
もどかしく思うiPS効果

大阪市 榎本 舞夢

コロナに明けコロナに暮れる十二月  
老後の夢こんな筈では無かったに  
古い二人娘や孫に労られ  
節料理作らなくてもいいと言う  
茶碗蒸しだけ用意して待っててね

大阪市 奥村 五月

また新種コロナが潰す繁華街  
親の倍生きて自慢は何も無い  
オレオレと死んだ息子の名の電話  
自粛中ためたお金に羽根はえる  
下火でもコロナの火種残ってる

大阪市 小野 雅美

担当は聞き役女子会のランチ  
肥えたねと女子会容赦ないパンチ  
あなたとの記憶消すよう落葉踏む  
飛び越えよと壁一枚を贈られる  
私だけ損してるのじゃないけれど

大阪市 笠嶋 惠美

戻って来た青い自転車ありがとう

希望とか安心作るかっぽう着

若返るアイススケート見る時期は

人まかせで生きたらあかんよつこらしよ

おまわりさんとちよつと話して良かったわ

大阪市 川端 一步

いい朝だ女子学生の会釈受け

階段を一つ上って広い視野

飲むならばユーモア好きな人が好い

欲言わぬ貧しき人に陽を当てよ

「エミール」を読むのが少し遅かった

大阪市 古今堂 蕉子

ピンチにもスピードエース出せぬまま

古民家再生モダンと粋をとりませて

糸切れた凧になりたい昼下がり

心に灯つける説法寂聴さん

別れの日あなたの胸に○を書く

大阪市 近藤 正

憲法を活かし日本を立て直す

沖繩の復帰は名のみ五十年

コロナ社会笑い声無し三年目

静けさは嵐の前かオミクロン

藤井聡太四冠とつて驕り無し

大阪市 坂 裕之

寅年も元気に迎えしつかりと

今年こそみんなと会って飲み会も

好きだけど急がば回れじつと待つ

嘘少し入っているが楽しそう

食べて寝て今日も楽しく五七五

大阪市 高杉 力

善悪も凡人という幅の中

愛か死かそんな時代もありました

伸びしろのはずの余白を持って余し

おはようと大きな声で言えた朝

二三個は食べるたこやき焼きながら

大阪市 高杉 千歩

とんぼりの蟹が恋しいコマージュ

百通を越えた賀状が懐かしい

平凡な日々だと呆けるのが早い

ドクターの太鼓判です信じます

いくばくの余生眠るのが惜しい

大阪市 田中 廣子

アメリカの竜巻被害目を覆う

孫の声毎日聞けぬ淋しさよ

探し物増えて仕事がかどらさず

腰痛い早く逝けたら仕合せだ

友の声聞けば元気がわいてくる

大阪市 田中 ゆみ子

まあいいか手抜きを許す除夜の鐘  
幻を抱いて観覧車の二人  
ニュース聞く耳に優しい深夜便  
他所は他所テレビゲームは一時間  
そうじゃない日にも元氣だ大丈夫

大阪市 津村 志華子

鬼は外ここは恐いぞ魔女が棲む  
九十七の豆は到底菌が立たぬ  
いいのいいの魔女もこっそり紅を引く  
夜景がきれい此処は高層B団地  
眼下靈園いざれお世話になる所

大阪市 寺井 弘子

貸しロッカーひんやりとする指定席  
巡りくる春に五感のはたらきが  
ひそかなる幸マフラーにつつまのおく  
旧友と30年の邂逅を  
人前で笑って心上の空

大阪市 寺本 実

囁いて続く波紋を待っている  
正直な方は総理になれません  
本当は妻を愛しているのです  
お喋りがしたいが猫も寄ってこぬ  
ポケットの小銭ばかりが音をたて

大阪市 中井 萌

名も歳も答えられない姉愛し  
人間味無くし合理化セルフレジ  
長生きの血筋で皆な小太りで  
白い壁孫の落書き宝物  
年取ったおかげで日々のありがたさ

大阪市 原田 すみ子

がんばったと自分に褒美だし過ぎる  
生ききった足跡消えるのも自然  
コロナからとんぼ返りの用ばかり  
子とわたし同じやなあと孫笑う  
孫の時計三倍速で回ってる

大阪市 平賀 国和

楽しめました合同句集祝う会  
二上山仲間と登り歴史知る  
コロナの谷間今がチャンスとクラス会  
日本にも物を言えない時代あり  
原爆へと繋がっていた真珠湾

大阪市 降幡 弘美

参観日新庄並みに目立つ母  
付度を一切しない子供の絵  
恋多きボクの悩みは受験生  
見ていると眠気を誘うメトロノーム  
好きな花咲いてたとこに建ったビル

大阪市 宮崎 シマ子

柳友二人逢いに来てくれた嬉し  
句会に行くつもりへ娘あきれ顔  
父母姉妹残され一人淋しいよ  
籠の鳥や々と羽搏く友と逢う  
天道虫は羽根割つてとびたつた

大阪市 山本 加お里

あの時に勇氣出せばと悔い残る  
合掌へ心静かに生かされる  
頑張れよりお疲れさまがいい響き  
絶好のチャンスきたのに動けない  
何処にでもある幸せが待っている

大阪市 横山 里子

南海トラフ前触れもなく動き  
チラシでゴミ箱今日のノルマ三個  
高齢者ふるいにかけるデジタル化  
ヨロヨロと飛んで我が身も冬の蝶  
壊れゆく友は昔の友でなく

大阪市 若本 安代

焦らずに自分の足でゴールまで  
許すこと覚えて笑顔増えました  
手袋に怒る拳を眠らせる  
本気だな手袋はずし手を握る  
老人会誘われてああそんな齢

堺市 今井 万紗子

年賀状出したい人はもう居ない  
スズメがチュン今朝のわたしの応援歌  
ちよつとそこまで確り結ぶ靴の紐  
桜吹雪仲間が一人消えていく  
やる勇氣手遅れと言う事はない

堺市 奥 時雄

コロナ下だせめて雪でも見たいもの  
牡丹雪今となつては懐かしく  
ふるさとの冬の囲炉裏の恋しさよ  
冬の風ロシアから来る能登の海  
通学路大人のつけた雪の溝

堺市 柿花 和夫

押し花がぼとり亡母の愛読書  
休耕田を取り仕切つてる枯薄  
泣くもんか切札はまだ胸の内  
ご相談次第とやって来た笑顔  
散る時は一気呵成と決めている

堺市 源田 八千代

筆文字のかすれにも味わいが有り  
雲形に想像を逞しくする  
ええ声や元氣貰うと言うてくれ  
両足を踏んぱり曾孫立つちする  
曾孫となれば気楽なもんやノータッチ

堺市 齋藤 さくら

年賀状よりもスマホでご挨拶

コロナ禍に家計簿あくびしています

政治家のふところ謎が多過ぎる

オミクロン ジングルベルの影薄い

新庄のファイトに元氣貰ってる

堺市 坂上 淳司

滔々たる大河夢見ている滴

ああ美味い手に受けて飲む岩清水

片仮名語の海で溺れる老夫婦

矢を番え歯で弦を引くパラリアン

絞り込んだ野党候補が多く落ち

堺市 澤井 敏治

コロナ沈静押し寄せて来る秋の彩

嵯峨豆腐コロナのことはさておいて

素振り千回わが人生に悔いはなし

サザエさんと似ててもわが家歳を取る

根性根氣ついに光った泥だんご

堺市 内藤 憲彦

愛してると言わないけれどいい夫婦

ほっこりと紅葉と入る箕面の湯

里の唄いっしょにゆれる駅ピアノ

5円よりちよつとお洒落なエコバッグ

ウイズコロナ走る方向変えてみよ

池田市 太田 省三

OB会最後の締めは応援歌

着膨れの群れを吐き出す地下出口

交差点ななめに行くとき時間切れ

声もなく音の世界へつなぐ手話

とりあえず分からぬ鍵は箱に入れ

貝塚市 石田 ひろ子

小粒でも自己主張する冬のばら

三世帯おせち料理も様変わり

初対面親しみの湧く無人駅

ネットでの買物届くまで不安

くよくよも忘れるという武器を持つ

河内長野市 大島 ともこ

走り去る人に嗚呼もう追いつけず

不器用な大きな愛に気づかぬまま

空が泣く私が哭くモノクロの日

月の砂漠君に寄り添う旅の夢

まだまだ未だ耳に響く君のバス

河内長野市 梶原 弘光

オリックス応援やつと報われる

バカカスよ君が居るから生きている

世界平和より先ず家庭内平和

突っ張り棒落ちないコツを会得した

立て板に水は心に伝わらず



河内長野市 木見谷 孝代

こじんまりとまり過ぎておもしろない  
整理整頓まとめ上手な夫だった  
ケチケチはやめていいものまとめ買い  
線香あげ今日一日の無事祈る  
開戦日平和祈念が強くなる

河内長野市 黒岩 靖博

骨折で寅年迎え全治初夏  
寒暖差対応出来ぬ歳になる  
採血を若いナースが巧くとる  
ジャンボくじ買って夢見る十日間  
賽銭に諭吉を入れる罰当たり

河内長野市 辻村 ヒロ

ゴミ出しておはようだけの一日だ  
淋しいいつも夕方電話くる  
退屈な一日これが幸せか  
出来ぬこと多くなってる大掃除  
楽しそうに夫婦喧嘩を聞かされる

河内長野市 中島 一彌

神棚の榊が枯れていた帰省  
新幹線延びて田舎の「らしさ」消す  
住宅の古地図で友と懐古談  
物忘れの酷さを友と嘆き合う  
空き家にも貼る来年のカレンダー

河内長野市 村上 直樹

息切れもせず坂道を駆けた頃  
「富岳」でも変異コロナに菌が立たず  
絞り込み出来ず賀状はいっそせロ  
惚れたのはバアバと爺のとほけ顔  
日々研さん孫が師匠のスマホ通

河内長野市 森田 旅人

淋しさに気付くひとりの子守歌  
年月の速さまだまだへこたれぬ  
電話番して年の瀬のご挨拶  
鐘の音 頑張ったねと一人酌  
椅子ひとつ減らし新年おめでとう

河内長野市 山岡 富美子

挑もうか言葉に血肉通うまで  
背負うものないのに背丈なせ縮む  
ドラマよりドラマな最近のニュース  
通院へ冬の陽射しを浴びながら  
日向ほこ猫になりたいときもある

岸和田市 岩佐 ダン吉

本音吐き心が重くなっている  
深い海考えよだけ言うてくれ  
余生ではおまへん今が真つ盛り  
冬の風宅配さんは汗みずく  
風の向き君の持論がまた揺れる

岸和田市 雪 本 珠子

八十路坂気持は若い頃のまま  
沢山の笑顔に支えられている  
夫婦でもこころの奥は覗けない  
団欒のあった昭和が懐かしい  
余計なものばっさり捨てて終を待つ

吹田市 太 田 昭

忙中閉じつくりと打つ句読点  
かみそりと言われた腕も老いてゆく  
役立たぬ資格を抱いて老いてゆく  
雑草を野草と呼んで慈しむ  
昭和一桁敢闘賞を妻がくれ

高槻市 片 山 かずお

免許返納したらできない妻の足  
オジイサンと言ってるオレのことだろう  
親ガチャと言われる親はボクのこと  
鳴門金時あのおくホクに惚れている  
五百羅漢美男美女とは言い難い

高槻市 島 田 千鶴子

音痴だがどこか染み入る歌唱力  
ひと雨で季節流れて冬籠り  
たわい無い夢見た頃に戻りたい  
年の瀬にあらら水仙芽吹いてる  
夕焼けを背にブランコが泣いている

高槻市 初 代 正 彦

はや仕舞いせんかと誘う夕時雨  
個食と自酌でも飲み会へ急ぐ  
バリアフリーのチラシ気になる年の暮れ  
紅白にあの歌手の名も失せたのか  
ようやくと家族の揃うお正月

高槻市 富 田 保 子

愛という支え大事に生き延びる  
趣味を持ち遊ぶ楽しさ若い二人  
久し振り手書きのFAX気が休む  
バスツアーうきうき会話よくはずむ  
跡形なく消して下さい過去の罪

高槻市 原 洋 志

ほめられた料理即席とも言えず  
生き甲斐を探して迷うロスタイム  
シニア料金あって世の中温かい  
スタンバイ靴ひも上手く結べない  
つき合えばスマホも意外しやべり好き

高槻市 松 岡 篤

縁起良いポストが有って遠回り  
ロウソクをフツと吹かない誕生日  
デジタルは即答するが情が無い  
そっくりと言われるけれど嫁姑  
AIの老人講座して欲しい

豊中市 上出 修

手袋に邪魔され愛が伝わらぬ  
橋渡る君への想い断ち切った  
バス停の彼女見つめた淡い恋  
フラダンス腰をくねくね痩せてきた  
美酒に酔う去年最下位今年首位

豊中市 きとう こみつ

怪しい仲と内縁の夫思われる  
防犯カメラ怪しい人を選べない  
マスクにサングラスもう怪しくはない時世  
Fax届いてるか確認電話する  
感情をこめて君が代唱和する

豊中市 藤井 則彦

背伸びして届くくらいが良い目当て  
素人の意見に滲むいいヒント  
やるかやらぬかまた迷い出す八十路坂  
手料理にふと味しめて家籠り  
他人より過去の自分と比べたい

豊中市 松尾 美智代

まだ生きるまだ生きられる爪伸びる  
八十路の友の丸いところに癒やされる  
私を包んでくれる大きな手  
荒屋の庭白い侘助今盛り  
辛かった事笑い話にする月日

豊中市 水野 黒兔

米寿へとソバより肉がいまも好き  
また同じ単語を辞書に探す老い  
暇なのに急いで食べる戦中派  
手加減せず孫に負けたという自慢  
八十代で老衰死との寒い記事

富田林市 中村 恵

笑顔咲く芋収穫の秋の天  
わたしの心はちつとも言うことを聞かぬ  
ひとりだけ漂う海が広すぎる  
今はもう仏になった人ばかり  
今更に残り時間にしがみつく

富田林市 山野 寿之

生き方に自信が揺らぐもう傘寿  
診察券後期高齢から増える  
生かされて余命五年が十五年  
笑顔から幸せ貰うお裾分け  
みなスマホたった一人の文庫本

寝屋川市 川本 信子

褒め過ぎる言葉さらりと受け流す  
余所ごとのように見ている葬儀場  
寝起きでも電話の声は褒められる  
寂聴の言でモヤモヤ救われた  
プロ野球興味津々ビッグボス

寝屋川市 伊達郁夫

羽曳野市 磯本洋一

思い出を食べて余生を膨らます  
掘り起こした埋め直す過去の穴  
字足らずの冬が静かにやって来る  
やさしさを足して空気を動かそう  
外したらマスクの下に顔がない

寝屋川市 富山ルイ子

令和3年残りわずかになってきた  
障子張り破れた所だけを貼る  
弱肉強食老人放つとかれ  
うんと減ったコロナウイルスほっとする  
三度三度只食べるだけありがとう

寝屋川市 平松かすみ

指折って待ってた便り着きました  
福豆を避けて歩いていた昭和  
終りにならぬ株ですオミクロン  
体操の時より長い立ち話  
お互いに負けん気あって同い年

寝屋川市 廣田和織

ジャンケンポン戦わなくちゃだめですか  
道草の隅で見つけた一行詩  
秋ですね秋刀魚マツタケ見て帰る  
うかうかと乗りそうでした千の風  
子供らの重荷にならぬ軽さです

大器晩成傘寿の今も満持して  
永田町国を委せる人僅か  
丁度いい五割焼酎昼寝時  
大手術出合うナースは神のよう  
動物園マスクするのは客ばかり

羽曳野市 宇都宮ちづる

子育て中さっさと欲しい十万円  
列島に地震マークが赤く伸び  
お笑いが真顔になってコメントす  
鍵っ子が安らぐママの伝言板  
娘婿吟醸下げて喜寿祝

河内長野市 藤塚克三

ちょっと先見でると世間溺れない  
妻というガードレールが在る暮らし  
欲深い祈願を神は聞き流す  
遺影眺め母の昔をふと想う  
祈ってもあがいても金殖えません

羽曳野市 藤原大子

巣ごもりに五歳は老けた脳と足  
喉元の言葉飲みこむ孫のこと  
痛いミス薬になった筈なのに  
終章の景色迷わず新コロナ  
ごたごたの過去ひっさげて現在地

羽曳野市 三好 專平

裏道があちこちにある永田町  
公約は膏薬に似てすぐに剥げ  
コロツケ屋にずらりと人がならぶ道  
しあわせは今と思える日が欲しい  
酒の世に酒断ちをして生きのびる

羽曳野市 吉村 久仁雄

ちぐはぐな会話ゆかいな老妻といふ  
底抜けの君の笑顔に癒やされる  
風まかせふわわ楽に生きている  
聞こえない見えない老いを楯に取る  
もの静か肚が座って動じない

東大阪市 西村 哲夫

永遠の謎解き君からの文句  
文法も知らずホイホイ書く日記  
くだらない事も書くからおもしろい  
川柳塔綺羅星のごと編集者  
独り寝に喪失感が責めてくる

枚方市 谷 英也

脳に効く女房の愚痴と甘い物  
美味しい酒ほどほど酔ってうまい詩  
赤提灯心の緩み心せよ  
八十路ですAIまみれ目が回る  
目指したい鍵のない世の青い空

枚方市 丹後屋 肇

鬼やんま追った昔の藁帽子  
磯の砂握り開けば君がいた  
ペーサーベンへまた恋慕するハ短調  
雀らの姿が見えぬコンバイン  
亡妻捜し千万年の旅支度

枚方市 栃尾 奏子

役に立つつもりで義母がやって来る  
いつだって嫁は満点などれぬ  
義姉さんがかばってくれた午後の虹  
わがままで強気でいとおしい義母だ  
ふと気付く私も家族だったのだ

枚方市 藤田 武人

俺よりも素早いシルバーのスマホ  
一度だけ魔女の擬似餌を食べてみる  
口喧嘩負けてばかりの半世紀  
姿見に映る姿が全てです  
妻からのひとこと酒が弾む夜

枚方市 山口 弘委智

ゆるがない覚悟を胸に初句会  
約束の二転三転根雪なし  
マスクして過ごした年が憎めない  
初心なお心奥にあり日記買う  
乱雑な部屋片付けて子は遠い

藤井寺市 太田 扶美代

履歴書の中の夫と恋をした  
胸底に沈めたままの冬銀河  
風気ままたしも気まま意気地なし  
臆病を隠してくれる夫の背  
花鍬八十歳を楽しめり

藤井寺市 鈴木 いさお

妻だけが僕の連帯保証人  
結論がまだ出ないまま日が昏れる  
華やかなデビューお見事な引き際  
忘れ得ぬ人の訃報を聞いた秋  
覚束ない身体で今を生きている

藤井寺市 吉田 喜代子

感染者少なくマスク取るを待つ  
病んでみて心の弱さ知ることに  
老齢保険死んでお金を貰っても  
愛子様新時代を健やかに  
靴ぞうり買うと言うから出しました

八尾市 寺川 はじむ

モリカケ桜お茶を濁してそっぽ向く  
割り勘へついつい猪口が踊り出す  
いぶし銀と言われ引つ込めとも言われ  
職終えてどこでもついて来る夫  
反対はするが答えのない野党

八尾市 村上 ミツ子

マスク忘れて取りに帰って家にいる  
降り続く雨に折り紙したくなり  
娘留守何食べようか昼ごはん  
さむいさむいとまるまって肩がこり  
戦いのない空のひこうき見ていたい

箕面市 大浦 初音

スマホより手帳忘れて落ち着かず  
趣味ひろげどれもが中途半端なり  
リフオームをすれば過去たち顔を出す  
口ずさむメロディーいつも昭和です  
近すぎて見えないこともあるのです

箕面市 酒井 紀華

生きづらい天寿まつとう覚悟する  
浄土まで艱難辛苦長い道  
風呂で寝る誰も助けぬひとりぼち  
返信にニコニコマーク嬉しいな  
化粧室クレオパトラが出来上がる

箕面市 出口 セツ子

子の誕生日逆にもらったプレゼント  
ランチメニューやってる店は席が無い  
年一度だから高級料理店  
子が元気ならば試練も何のその  
オミクロン忘年会へ迷いつつ

箕面市 広島 巴子

神戸市 近藤 勝正

月食に我が人生を重ね見る  
友と旅話し明かした二年分

うれしいな不治じゃなくなるが  
不老不死人口増やす高齢者

買ひ物か掃除か迷う日本晴れ  
予定表埋まり師走の波に乗る  
ひよっとして火球の一つ母かしら

老人は国の宝と言われたが  
用がなくポストのぞきみ4度5度  
謹慎で強くなるのか相撲取り

神戸市 上田 和宏

神戸市 斎藤 隆浩

判断力あるが遅いと自覚する  
体調は加齢で普通打つ手無し

スピーチの最初に噛んで和やかに  
異常なし検査帰りの大ジョッキ  
消化器の出番ないまま期限切れ

聞いている息子に済まぬ同じ愚痴  
古傷にごつごつ当たる古日記

友からの賀状くせ字に癒やされる  
ステイホーム慣れてしまえばもう普通

インスタントコーヒーが合う五七五

冬景色ポインセチアがアクセント  
酒もよし川柳もよし生きてよし  
生き様を微妙に写す顔の皺

神戸市 奥澤 洋次郎

神戸市 敏森 廣光

満天の星帰る人いなくなつた家  
一本の電話ができぬあかんたれ

母の胸海に抱かれて子が眠る  
ゆつくりと食べてポロポロよくこぼす

破産十年あのままの看板  
一本道伏せられていた落し穴

しみつたれせめて最後は晴れやかに

家族みな他人様とみてケンカなし  
こわれゆく夫にアルバム見せ笑う  
亡き妻似美しく見え恐ろしく  
いつのまにかあれからになり父の歳超え  
張りつめた日気弱な日みな酒つまみ

神戸市 奥水 弘

神戸市 富永 恭子

おかまいはしませんと言ひ梅昆布茶  
カサカサと寂しい音で泣く枯葉  
柚子風呂につかり心は里へ飛ぶ  
聞き流す智恵を授けてくれた友

聞き流す智恵を授けてくれた友

聞き流す智恵を授けてくれた友

神戸市 能勢 利子

七針も縫うことになる暮れの怪我  
髪の毛がクツションになり気は確か  
百歳はシヨートステイで助かった  
母のためガーゼ隠して正ちゃん帽  
ご近所に恵まれてる老いふたり

神戸市 松倉 正美

寒い夜は熱い鯖酒有ればよい  
パンフ見でお節料理の品定め  
寅年が七度巡って年男  
旨酒が朝から飲めるお正月  
お振袖使い回せば元取れる

神戸市 山口 光久

まだ欲があるから米を研いでいる  
顔色が本音じゃないと言っている  
粗削りな人に隠れている魅力  
よたよたと歩く爺ちゃん手を貸そか  
深く腰掛けてじつくり風を待つ

神戸市 山口 美穂

咳ひとつ神経質にしたコロナ  
名をかえつコロナ世界をかけめぐる  
冬の陽へああありがとう布団干し  
ポーナスない年金からお年玉  
氷雨にも寒菊笑顔見せてくれ

神戸市 山崎 武彦

外飲みはお止しと諭すオミクロン  
茶店よりめし屋呑み屋の似合う妻  
限界を越えたストレス解くジョッキ  
メールより生がよろしい君の声  
まあまああ妻だがうまい飯を炊く

明石市 糀谷 和郎

バラ一本ハートを添えて贈ります  
影ふたつ寄り添う潮が満ちてくる  
この両手恨みも愛も受けてきた  
たこ焼きの丸さおもてなしの丸さ  
モンローのお尻ペンペンしたくなる

尼崎市 永田 紀恵

木枯しが運ぶうれしい里の味  
あほやなーと言われ親しみ増した友  
長生きのサブリ今夜も酒二合  
へそくりで買ったと言えぬロレックス  
寝覚めまず今日は何日何曜日

尼崎市 羽奈 和子

ピンピンはいいがコロリはイヤだなあ  
バイキング肉を食べると怒るパパ  
バイキング孫は綿菓子食べている  
物体となつて寝そべる検査台  
みずみずしく生きる大叔母八十路ゆく



尼崎市 藤井宏造

雪化粧視力がアップしたような

病人へ嘘しか言えぬ時がある

亡き妻のエプロンをする台所

片方は眠ったままのベアグラス

孫の手が一人暮らしの役に立つ

尼崎市 藤岡りこ

赤ちゃんだけが笑顔ふりまく電車内

亡母の手の温もり残る手編み品

お月様眺めてほっとする独り

前を行く幼稚園児に追いつけず

したたかに木は充電の葉を落とす

尼崎市 藤田雪菜

柿を剥く肩の力を抜けという

今日もまた私の心読む鏡

夕食後に血圧計り日記書く

また一つ年を取ってくさびしいな

ビッグボス登場に夢ふくらむよ

尼崎市 山田厚江

おだやかな血統だけがとりえです

咳は出るが三食だけは食べれます

話すたびずれて来てますその話

気晴らしに美容院でも行ってみる

親の傘少し入って昼寝する

加西市 山端なつみ

紅白の葉ボタンどんと我家流

一年が早いもう歳増えんでも

コロナ禍に宇宙へ旅行金満家

宇宙行き年末ジャンボでは行けぬ

地震頻発ドラマは日本沈没を

川西市 山口不動

金粒を金木犀が撒く日和

落葉踏む老人一人落葉踏む

どんぐりのころがるみちをそろそろと

小鳥寄る空き家の庭の残り柿

人生は己が主役の夢芝居

三田市 足立つな子

身に沁みる白みそ仕立ての朝の膳

静けさの娘の帰宅待ち焦がれ

ピンポンピンポン倒けたらあかん慌てない

誰からもお呼びじゃなくて隠る日日

いつてらっしやい振り返られて和む朝

三田市 稲角優子

種をまく愛の便りを待つように

ガス灯が愛の縄れをときほぐす

一年がすぎてしじまにまだ慣れぬ

君がため鎖骨に涙たまるほど

地酒つぐ訛りの妻と屠蘇祝う

三田市 上田 ひとみ

天秤にかけるほどではないだろう  
電話でもメールでもいい元気なら  
そういえば暇と退屈違うかも  
大根もうれしそうですこのお鍋  
夫だけ歳をとる訳ないじゃない

三田市 大西 重男

鏡見て歳相応と肩落とす  
良い恰好してもやっぱ歳は歳  
晩酌のあてが欲しくて菜つくる  
歳いけど肝臓若くて酒うまい  
肝臓だけ丈夫に生まれ親感謝

三田市 尾崎 一子

朝ドラにこころ和ませモーニング  
まろやかな孫の笑顔に幸あれと  
前撮りに孫が手を引く写真館  
よい笑顔つづきますよう福娘  
しあわせな笑顔こころを若くする

三田市 九村 義徳

鬼ごっこ知らず育った現代っ子  
弁当が似合う昭和の遊園地  
程程に忘れ人生うまくいく  
忘れろと言われなくても忘れませ  
あの頃の誓いころっと忘れてた

三田市 住吉 美和子

大失態差し齒外したまま出掛け  
指一本怪我で不自由身に染みた  
愚痴こぼすまだまだ元気なおばあちゃん  
十人十色我がスタイルで生きてゆく  
湯に浸かり手足を撫でてご苦労さん

三田市 多田 雅尚

エアコンをつけるのと音で眠れない  
折りたたみ出来る杖だけ持ち歩く  
高齢者講習受けて減らぬ事故  
日本沈没ビデオ見てたらぐらり揺れ  
県内に閉じ込められた二年間

三田市 中山 昭美

ご褒美のビールちらつく大掃除  
三時間体力いるよ受診待ち  
夢の中ホールインワン動悸する  
年金で遊ぶ近場の山歩き  
夫よりも頼り甲斐ある登山靴

三田市 野口 真桜子

円空仏の粗さに惚れてノミを持つ  
木の洞を借りて極寒耐えるリス  
カラオケボックスで愚痴・グチ・ぐちが姦しい  
遺言ですと言いつくをする家族葬  
厳冬のビルに吼えてる靴の音

三田市 村田 博

足し算は欲引き算も欲

マスクされ読唇術が使えない

ひとときの平和コロナの下火より

スクランブル交差点での敵味方

年老いたポバイぐらいの力瘤

高砂市 松尾 柳右子

冷える夜はてつちりにする唐辛子

カラフルな帽子園児の散歩中

見当らぬメタボ雀や青い空

血圧は気にせぬ八十路マイペース

成り行きに任す孤老のクリスマス

宝塚市 丸山 孔一

ウイルスに疎遠の罪を押し被せ

傷ついた車殆ど見ぬ日本

無いとなりやより欲しくなる爪楊枝

花散らす風にレモンの樹だけ伸び

ゴロゴロと時が流れる音がする

丹波篠山市 北澤 稠民

もみじ狩どの顔みても平和です

もみじみて広重展みて好日や

四季ごとに贈り贈られ絆つむ

来年は米作り止め何作ろう

歌えません言いつついつもマイクもつ

丹波篠山市 酒井 健二

旅をして私の顔とすれ違う

五分ほど座りしばらく素に戻る

路地裏で昔の僕と目を合わす

隅っこで世界をいつも見つめてる

体温を上げぬと影が薄くなる

丹波篠山市 長谷川 善輔

十二月八日記憶の隅に軍艦旗

齢八十五よく生きたのか何となく

飽食の末にわが身は縮みゆく

テレビ見るめしとおやつで日が暮れる

一人また一枚と賀状減る寂

丹波篠山市 藤井 美智子

コロナ禍の医師とナースに神宿る

さあ師走あわてず老いの予定立て

不死身かと思つた寂聴さんも逝く

穏やかと元気が欲しい令四年

何かむなししい解らぬままに今日終る

西宮市 緒方 美津子

玄関で念を押される傘マスク

娘にもガラス越しさえ会えぬ日日

コロナ禍を食べて寝ているああしんど

黒豆がほっこり煮えて母恋し

悪友が最初に泣いてくれました

西宮市 福島 弘子

ダンゴ虫上手いリセット羨まし  
コロナまでキラキラネームオミクロン  
ずばずばと言ってくれてた人が逝く  
理由もなく涙こぼれるうろこ雲  
年寄の冷水時に呆け防止

西宮市 福田 正彦

競い合う核が地球を消して行く  
恋文に上達乗せる筆使  
厳祖父のスパルタ今は宝物  
スマホ群一人隅っこ新聞派  
一滴の水でも融和大河行く

南あわじ市 萩原 狸月

中卒のくやしさバネに世を渡り  
コロナ禍を逃れお屠蘇のダイヤ婚  
親ガチャを詫びたい子から贈り物  
自肅明け少女になって孫帰省  
感染の不安の中を旅プラン

奈良県 安福 和夫

コンビニも車で出向き露天商  
スーパーが老舗デパートおびやかす  
ネット商戦病める景気の支え役  
オンライン今や欠かせぬ牽引車  
悔しいが固定観念邪魔になる

奈良県 谷川 憲

商店街消したスーパーまでも消え  
無意識に出来たことがふと止まり  
道掃除終えた途端に落ち葉舞う  
コロナ禍後の旅をめざして鍛えてる  
カレンダー期待を込めて付け替える

奈良県 中原 比呂志

風見鶏二月の北を睨みつけ  
冬耐える体温平熱までいかず  
大切に使えば一日短すぎ  
霜柱持ち上げたのは落の臺  
吊り橋の真ん中靴紐締め直す

奈良県 中堀 優

再会の時間ドキュンと胸が鳴る  
評判の悪い男の成れの果て  
少々のことは許してやる度量  
野の草や野良猫たちに学ぶもの  
愛猫にさせるお座りそしてお手

奈良県 長谷川 崇明

十二月もう来たのかという思い  
ジャンボくじ夢は並んで買えますか  
オミクロン不安を煽る虎落笛  
ここは折れ明日へと繋ぐ生き上手  
雪だるま誰が背負うの負の遺産

奈良県 渡 辺 富 子

厳寒に咲かせる花を植えている  
カラフルなパンジーにつこり春を呼ぶ  
しがらみを整理しようと思うけど  
言の葉にとげとげ見えて黙り込む  
だんだんと等身大が縮み出す

奈良市 宇 賀 史 郎

電話なく心配メール来て安堵  
躓いて判る他人の情非情

絵筆持つ雑念知らぬ間に消える  
言ったこと翌日思い出す夫婦  
コロナ前駄弁った人の喪の知らせ

奈良市 加 藤 江 里 子

母というやっかいな業抱いている  
寂聴さんあの世からでも説法を  
いつまでも覚えています母の癖  
大丈夫道は一杯ある筈だ  
握手して頑張ったねと送り出す

奈良市 高 橋 敬 子

擦れ違う猫も見覚えあるらしい  
歳重ね豪華料理は目の保養  
届いた品とカタログ写真見比べる  
年賀はやはり葉書で欲しい昭和の子  
会っというて良かったたまたも変異株

奈良市 辻 内 げんえい

全快へ復活祈る初詣  
握る手は今も優しく介護の手  
恩人の葬儀も行けぬウイズコロナ  
俺の描いた線路を歩く孫いない  
リハビリのマシンが増えて狭くなる

奈良市 山 本 昌 代

だまってはおれぬばあばのお節介  
新鮮な発想孫のアドバイス  
足取りの軽さ私の内緒事  
住みごこち互いの距離のあたたかさ  
アハハハハ遊びごころは衰えず

奈良市 米 田 恭 昌

コロナ禍に耐えた老舗の土性骨  
悲しいなマスク暮らしに慣らされる  
今年また手慣れた虎の残念セール  
吠えたとてたかが張り子のタイガース  
疑心暗鬼虎の遠吠え聞く夜寒

生駒市 飛 永 ふりこ

剪定の庭先寅が鎮座する  
古稀すぎて恐さが過る海の貌  
三段壁怒濤を被り丸くなり  
うらやましラ・フランスに強い芯  
寅年を葉ばたん達もお出迎え

香芝市 大内朝子

ちいさいが朝日を浴びるマイホーム  
オミクロン株どうか六波にならぬよう  
枯れていくこの寂しさを如何にせん  
ふる里の映るテレビに涙ぐむ  
どうせなら笑って生きるあと僅か

香芝市 山下純子

手術終え生命力と運を待つ  
くねくねとねだり上手は母譲り  
指先にぬくもり残り恋消える  
軍手はめさあと決意の草むしり  
マスクの中口角上げて人と会う

桜井市 安土理恵

新春へ願うただただ転ばないように  
老老介護来るべき時が来ただけよ  
幸せの定義ころっとひっくり返ってる  
腰折れの最終章の幕があく  
懸命に生きてきたのは確かです

和歌山市 上田紀子

溢れ出る想い明るいプラン練る  
川柳は生きて行く術潤滑油  
大口を叩くわりにはない力  
力抜く事を覚えた七十路坂  
うっかりと相槌打って叱られる

和歌山市 松原寿子

針先の殺気驟した日のゆとり  
繕けば胸に眠っていた手紙  
両手で抱う夢の欠片は逃すまい  
頬杖で心豊かな刻を織る  
お喋りと言っても相手ぬいぐるみ

海南市 小谷小雪

ありがたい朝の点眼ルーティーン  
老眼を宣告された日がかすむ  
たっぷりの野菜身内で山分けた  
新米の湯気がしゃきつとさせる朝  
帰省子の予定に合わせ大掃除

橋本市 石田隆彦

子ども観る長い物差しもつ教師  
産声で長いドラマの幕が開く  
泣き虫の最後の涙母が拭く  
お年寄弱くしていた尽くしすぎ  
三面鏡美人に映るまで磨く

岩国市 上村夢香

プレゼント感想待つと文庫本  
スローペース失敗バネにする力  
数の子は変わらず届く友からの  
笑われる一キロほどの減量で  
若人にエールを送るカーブ愛

防府市 坂本加代

相性がピッタリ君の生まれ年

ふるさとの昭和時代を訪ね行く

コロナ禍に付いてしまった休みみぐせ

合同句集が最後の恩返し

はっとして初心にかえる分岐点

鳥取県 門村幸子

違和感が減って見慣れた黒マスク

ノスタルジア昭和の匂う水彩画

同じ服着こなし光るおしゃれさん

おおらかな笑顔满面抹茶パフェ

人生はつづくめけても凹んでも

鳥取県 斉尾くにこ

あたたかなベッドに骨抜きにされる

墨汁の許してくれぬ書き損じ

信号機ひとりで渡り女王様

ひよいと置くそして始まる探し物

手に入れた自由はその他という場所

鳥取県 竹信照彦

年末にいつも一枚過去を脱ぐ

梵鐘の周りぞろぞろ願いな

新年にインフルコロナ願い下げ

両足を鍛えて新年を跨ぐ

人生最後の寅年のんびりと

鳥取県 本庄ひろし

終戦の記憶は無いが戦前派

尾頭を丸ごと食べるめざし好き

上出来も粗末で締める落語会

マスクして謎めいた人居る世界

ステーキに作法はどこへ食らいつく

鳥取県 山下節子

手作りのケーキで祝う家族の和

夕食は母片付けは父と僕

長生きをして進化の世見てみたい

ネクタイは多分男子の自己主張

天才の爪の垢などのむものか

鳥取市 池澤大鯨

息継ぎが下手で世渡り下手つくそ

寒鮎がまだ息してるおいしそう

蝶結びいずれほどくと予定済み

ネクタイを結ぶことなく年の暮れ

おにごっこしまいにはつかまってやる

鳥取市 奥田由美

宝石も買わない人とルビー婚

ブランドを貰うカタログ引き出物

爆食に歯止めかけたらきつと美女

ひっそりと一人で古稀の前祝い

柔軟に転換イヤと古稀の脳

鳥取市 加藤 茶人

ああそうかそんな考えあるのかも  
兄弟で揉めるケーキの五等分  
うっかりとどこで当てたか痣作り  
天高く梨も美味いが蟹もええ  
悲しみはひとまず喪服脱いでから

鳥取市 岸 本孝子

やれやれと思う間もなく「オミクロン」  
もう少しお邪魔をしてもいいですか  
誉め言葉サブリのように効いてくる  
今日の日を待ってよかった晴れ姿  
ウイルスも酒が飲みたく寄ってくる

鳥取市 倉 益一瑤

鳩尾で昨日が消化できずいる  
結局はやさしい君の勝ちですな  
こぼれ種負けるもんかと芽を吹いた  
ジャンケンポンゲームは明日にまだ続く  
運を呼ぶ笑顔ひとつをぶら下げて

鳥取市 田 賀 八千代

焦る気を隠して険閉じている  
生きて行くヒントに母の影がある  
時という魔法が胸の傷癒やす  
設計図に孫の未来も入れておく  
あの日から微熱続いている小指

鳥取市 棚 田 大

わめく子もサンタの声に落ち着いた  
クリスマスその声聞いて孫笑顔  
歳かなあ よいしょやつとが口癖に  
近ごろは凡人よりも奇人増え  
俺マスク友と出会うも知らぬ顔

鳥取市 谷 口 回春子

反抗期歳は無縁とやってくる  
女房を誤魔化す手口アドリブだ  
願いごと叶うようにと夢をみる  
夫の地位タイヤ交換出番です  
嫌な奴夢に出てきて説教だ

鳥取市 永 原 昌 鼓

ふる里は昔栄えた城下町  
今日もまた日本列島揺れまくり  
川柳の鬼にはなれず日が暮れる  
六十余年ご先祖守り腰曲がる  
新年を一人で祝うはや十年

鳥取市 中 村 金 祥

妻の助言受けて逆転ホームラン  
ケーキ屋になるとちっちゃい手がこねる  
冒険の国へ散歩と本を読む  
薬局で医者に言えない長話  
痛い足引きざり神社には参る



鳥取市 副井 ゆたか

反発をする子は伸びる余力秘め  
遠耳と煩惱連れて生きる老い  
趣味二つ老いの予定を差配する  
リベンジの意欲続かず諦める  
展示用短冊二枚書く癖字

鳥取市 福西 茶子

コンピニの弁当一度には余る  
豆球が切れたくらいで電気屋さん  
玄関の框ドッコラシヨと上る  
お昼まで寝ました鬱が消えました  
自分では判らぬ鬱という病

鳥取市 前田 楓花

足並みがたまに乱れる両隣  
人の来る家で昼寝も出来ません  
ガチャガチャにじいじはムキになっている  
運転をやめた夫の運転手  
バランスを崩す地球の寒と暖

鳥取市 山下 凱柳

五万句と喜寿を記念に句集出す  
大量の没句に詫びる鎮魂歌  
来年こそ柳友集い没句会  
令和三年コロナで除夜の鐘  
佳句作ります誓い今年も初詣

鳥取市 吉田 孔美子

しんわりだんわり魚の旨い町  
増税は役人天国の為か  
蒔き直しもう来年は作るまい  
香味野菜婆の畑じゃ手に余る  
しんしんとちあきなおみを聴いている

鳥取市 吉田 弘子

乾布摩擦今日のわたしが目を覚ます  
話しかけても遺影につこりしてるだけ  
山門の格言しかと噛みくだく  
あと一歩いつも挫折を悔いている  
来客のもてなし腰が文句言う

倉吉市 大羽 雄大

安定剤準備している社会面  
頼みます何か思えばビンの蓋  
丸い背は仕方ないです親ゆずり  
塾通い子供と親の夢違う  
何もかもおおらかにする晴れた空

倉吉市 岡崎 美知江

御返盃本音が軽くなつていく  
その話もうそこそこにまとめましょ  
まあまあの人生絵図も終りの部  
刻々とあなた忘れて旅に出る  
網棚にフツと忘れた命です

倉吉市 田中 紀美恵

意地悪なくさくさ虫がへばりつく  
夫には不平不満がたんとある  
目で威圧言う事聞かぬ部下にカツ  
文化祭川柳出して名を売ろう  
歯を出してワハハと笑う友が好き

境港市 藤原 久直

久しぶり妻とドライブ気も晴れる  
晴れた日はおまけをつけて一万歩  
立つ位置を一步下がって生きている  
約束をしたばかりに眠れない

高齢者みんな嬉しい年金日

米子市 池田 美穂

紅白が昭和を遂に切り捨てた  
一年の計もう立てるのは止めにする  
ガソリンが無くなる頃は生きてない  
川柳のイロハ今さら聞けなくて  
没句ばかりで冥土の土産まだ出来ぬ

米子市 伊塚 美枝子

初雪のニュース聞こえて炬燵出す

雷鳴が里にも雪を連れて来る

育ち過ぎ大根一本持て余す

同期会みな得意気に孫自慢

七十路の相合傘に少し照れ

米子市 後藤 宏之

前列のど真ん中ですはいパチリ  
この電話騙されるふりしてみよう  
孫が来たさあご先祖にご挨拶  
ご褒美が坂を越えたら待っていた  
あの人の足音なぜか胸騒ぎ

米子市 後藤 美恵子

住み易く嫁いだ土に根付いてる  
老後図を寿命が延びる度直す  
気温差に昨日冷シャブ今日は鍋  
戦争が昔話になるように  
開墾の苦労忘れぬ枯すすき

米子市 中原 章子

カレンダー来年の運たしかめる  
これからをどう生きようか考える  
朝ごはんしっかり食べて元気です  
持ち歩く鞆にマスク入れておく  
愛子さま目を見張るほど美しい

米子市 成田 雨奇

手を上げて言うべきだった会終わる

年重ねほどほどということ覚え

あの頃の俺はキラキラしていたぜ

O型で酒が呑めれば味方です

押入れに昭和ぎっしり詰めてある

米子市 野川宣子

五黄の寅ひげを整えバトン待つ  
群の中老いたトラにも役がある  
人柄で選んだ筈の夫だが  
場数踏み夫婦で酒の腕上げる  
キラキラが似合わぬ太い指になる

島根県 伊藤寿美

有り難うと書いて卒寿の筆を置く  
九十歳残日録を繰る長夜  
輪廻とや蟬もわたしも地に還る  
長い夜亡夫の声聞く冬木立  
修理した補聴器で聞く冬の音

島根県 伊藤玲峰

この雨が雪にかわるとテレビより  
また一つ国の宝が召されゆく  
淋しいね私の友を神が召す  
話し相手欲しくて誘い乗って見る  
生きている遊んで食べて泣き笑い

松江市 石橋芳山

ジンベイザメ住みつき墮落してしまう  
一日を迷って闇を飛ぶカラス  
ガリガリの中から嬉しいを絞る  
ポップコーン弾けて一ヶ月経った  
コンニャクと糸コン殴り合っている

松江市 藤井寿代

木枯らしの応援歌聴き5・7・5  
いろいろあったなあと今年を締める  
振り向けば失敗だらけキズだらけ  
ギアチェンジ最終章はおだやかに  
これからを生きる大笑いしながら

松江市 松本知恵子

さざんかの生垣越しのお隣さん  
声援のさざ波やさし友がいる  
嫌われる杉がまっすぐ天を向く  
蓋をしたはずの話が風に乗る  
遠い友来る来るコロナ安定期

雲南市 菅田かつ子

思い出に種をゆっくり蒔いており  
もの忘れ人並ですとお医者さま  
あれもこれもごっちゃは頭に入らない  
おくさまと呼ばればあちゃん嬉しそう  
お互いに時たま惚けた受け答え

岡山县 高岡茂子

田舎ぐらし楽しんでる免許証  
返納すれば暮らしていけぬ過疎の町  
町内だけと運転許可を子にもらう  
趣味の会楽しみ歳を重ね合い  
成田での再会はばむオミクロン

岡山県 藤澤照代

愛着を子に笑われて過疎に住み  
温もりを一筆添える年賀状  
大落暉今日を見事に生き切った  
苺パフェ類張る夫は隙だらけ  
年輪の古傷笑い合う夫婦

岡山市 大石洋子

つかわない長靴カメムシのお城  
ジジ・パパへおねだり電話もよしとする  
五〇メートル走れた友の寛解日  
ふるさとの弟赤い木守柿  
年賀欠礼これにて失礼致します

岡山市 丹下凱夫

舞って舞って踊って落葉吹き溜まり  
神様を信じているが縁はない  
北風にタックル掛けて風邪を引く  
一日をねぎらうように日の沈む  
晩酌がおいしかったと言って寝る

岡山市 前田恵美子

庭の柚子思い出煮つめ祖母の味  
思い出は昭和平成花盛り  
クレーン車が大工使って家建てる  
毎日を翔んで過ごして悔いはなし  
疑ってみれば悲しい風が吹く

笠岡市 藤井智史

オートリルトしながら辿り着いた愛  
オーブンザハートの鍵はあなたです  
三十二分音符の鼓動は恋だ  
干からびた心に拓く愛でした  
懐かしの丘に眠っている校歌

広島市 岸本清

反省をしても止まらぬ物忘れ  
ほどほどがいい喜びも悲しみも  
老い二人一人前を半分こ  
薄味で素材を生かす妻の腕  
新年を控え気になるオミクロン株

三原市 笹重耕三

好奇心まよった風の曲がり角  
ウォーキング風の返事が貰えない  
結論を先送りする風の駅  
ふるさとの風の隙間にある昭和  
呱呱の声いきなり借金を背負う

土佐清水市 辻内次根

好い一日だったと静かに白ワイン  
景品が届いて朝の雨あがる  
うれしくてバーを一段上げてみる  
限界消滅部落と鳴くカラス  
他人との比較で割れたシャボン玉

東かがわ市 川崎 ひかり

両隣前後も空き家となりました  
何もかも淡く霞んでゆく記憶

古里を恋えば聞こえるわらべ唄  
リベンジだ心に若さある限り

母川回帰ただ古里を目指す群れ

松山市 栗田 忠 士

放置田アワダチソウのしたり顔

そういえば雀はどこへ消えたのか

ブルタブへ戸惑っている老いの指

たればを語れば長い物語

耳鳴りと折り合いながら生きている

松山市 古手川 光

美術品に秋が仕上げる郷の山

嗤ってる千変万化するコロナ

このままじゃ四季も無くなりそう未来

噴火するのは火山だけじゃありません

振り返りや後の祭りの数珠繋ぎ

松山市 宮 尾 みのり

いい事もあった昔を拾い出す

辛かった記憶薄れた有難さ

安住の地は身の程という広さ

断捨離で空いた心に埋まる哀

いいじゃない孫は美人と思っても

松山市 柳 田 かおる

輪を抜けて自分探しをしています  
沸点を知って踏みだせない一步

崖つぶち杭一本が流れ変え

青空という窓を開いている大地

「鍋にしましよよ」と牡蠣をさげて来た

今治市 永井 松 柏

パーチャルとリアルの境目が消える

友軍と信じた旗が裏返る

誰よりも君を愛した影法師

闘いに疲れたアバターにエール

三年後路傍の石になつて

西予市 黒田 茂 代

皆既月蝕ゆつくり見たの久しぶり

庭椿秋を深めている薔

名残の紅葉モノクロに変えた雪

消毒消毒消毒手指音を上げる

日が暮れたら外には出ぬことにしてる

西予市 西田 美恵子

化粧止めは君の笑顔でいいのです

ふんわりと老いてふんわり惚けてゆく

太陽が昇る東の空が好き

隙だらけそんなあなたがいつち好き

コースから定食となり恋進む

## 2022 としま川柳誌上大会

課題と選者（各題2句）

「アニメ」 天根 夢草 選選  
「曲」 江畑 哲男 選選  
「褒める」 大野 征子 選選  
「アート」 荻原美和子 選選  
「光」 小島 蘭幸 選選  
「叫ぶ」 佐道 正 選選

投句料 1000円（切手不可）  
用紙 投句用紙使用（コピー可）  
投句締切 3月31日（木）必着  
投句先 〒170-0013  
東京都豊島区東池袋1-42-12  
ステーションサイドビル1階  
平井 熙 宛  
(TEL 090-9817-2983)  
主催 東京池袋川柳会

（前月分）神戸市 山口 美穂  
探し物見つけ安堵の夕仕度  
温暖化もこの冬寒いという予報  
かけ声をかけても腰は上がらない  
冬帽子かぶればわたしの中に亡母  
大家族で鍋を囲んだなあ昭和

（前月分）大阪市 宮崎 シマ子  
最後になってこんな目に合う淋しさよ  
ない知恵をしぼりしぼって書いたのに  
子が迎えに来て鯛その他のうまいこと  
車での外出二十カ月ぶりで空気の違い  
まだまだ生きる字の勉強



（つづき）

和歌山市 まつもと もとこ

ウエストは太い神経はナイーブ

さんざめく夜に聞こえる声は君

草原は秋のすすきを生ける花器

親友はフォローしなくても親友

和歌山県 三枝 眞智子

木枯らしが語る夜更けの高い星

一たす一は三の関係草臥れる

生い立ちを語らぬ雀村を捨て

耳よりな話へババも腰伸ばす

（前月分）伊丹市 平井 富夫

難しい何もしないで何を言う

右左鉛筆削り何処置いた

長生で老後の資金底を見る

断酒会呑み友達に案内が

# 川柳塔の

## 川柳讃歌

(20)

上方芸能評論家 木津川 計

### ご近所は生きているのかみな静か

成田 雨奇

子供のいない町内は「生きているのかみな静か」でひっそりと静まりかえっている。私の町内は向かい合わせ八軒の並びだが、ほとんどが老人所帯で、やつとの思いで暮している。手押し車で買物に行く人、老人ホームに入った人、奥さんに先立たれた人、亡くなった人；、老人大国はもの言わぬ年寄りで形成される。かつて、この国の夜明けを信じた人も多かったが、構築されたのは鉄壁の格差社会だった。雨奇さん、静かなのは当たり前かも。

### 老人会戦争知らぬ友ばかり

萩原 理月

教室へ入ってこられた先生は、へりこぶたーと平仮名で板書されたのである。それは、竹とんぼを応用した攻撃用の飛行機で、これをアメリカは航空母艦に積み、日本本土を爆撃にくる、と説明されたのだ。日本は敗

けるかもしれない、と、神州不滅を説き続ける先生を初めて疑った。ある日、京都上空で空中戦があり、墜落して捕虜になったアメリカ兵の顔の白さに驚いた。「あれが鬼畜か？」。狸月さん、戦争を学び続けてください。

### 上品さの一流味のある二流

西田 美恵子

なるほどこういう区別ですか。ですが、味のある店が二流にランクされては気の毒です。粋と粋とはどう違うかを区別したのは宮本大阪学を築いた宮本又次大阪大学教授でした。いきもすいも渋味をベースにするが、いきには苦味が、すいには甘味が加味される、と。名解釈です。さて、美恵子さん、上品な店も味もある店もお客を満足させますが、上品な店は値段が高く、味のある店は値段が安い、と区別されてはどうでしょう。

### 私の意見はないのか視聴率

野口 真桜子

テレビ番組の視聴率が発表される。私の見る番組はニュース、大相撲、ボクシング、高校野球である。いずれも真剣勝負だからと思いたい、大相撲は八百長がつきものだから油断できない。どの番組も高視聴率だが、私は一度も調査対象になったことがなく、訊かれたこともない。勤練れば内部で操作しているのではないか、と思わないでもない。いつ

たい誰が答えているのか、と真桜子さんは思っている、私も訊いてよ、と声をあげているのです。ぼつちやりが好きダイエツトやめなさい

細田 裕花

ぼつちやりといつてもだぶだぶではない。豊満なのである。痩せて細く、ぎすぎすの女性魅力という男性は心が病んでいよう。由来、男性はギリシヤからミロのビーナスを経て今日まで豊満、豊麗な女性に憧れたのである。母親の乳房が男性の健康な女性観を育てたのだ。健康な世紀も女性を豊満にする。太陽の季節。だった19世紀は印象派が豊満な女性を描いたが機械文明の20世紀は女性を細くした。裕花さん、豊満の魅力をPRしてください。

### あの友もこの友もいる郷を恋つ

後藤 美恵子

いくつになっても故郷は恋しい。だが「あの友もこの友も」認知症になったり、老人ホームに入ったり、亡くなったり；、健康で老後を過ごすのはなかなか難しい。私の故郷は土佐だが、友はみないなくなつた。親族も絶え、帰郷の甲斐もないから帰らなくなつて久しい。それでも故郷は忘れず、高校野球は大坂より土佐を応援する。美恵子さん、友のいる故郷をいつまでも大事にしてください。

# 自選集

小島 蘭 幸

2022個袖湯にある祈り

南瓜煮る妻がごちそうさまと言う

断捨離はしない終活さらに無し

娘の土地を見に行つて来たとは言わず

再会の日までオミクロン株来るな

山本 希久子

砂時計さらさら夫卒寿春

私に反省点が多過ぎる

日脚伸びても変らず雑用に暮れる

平々凡々守りしかない暮し

余生こもごも雲晴れる日も暗い日も

居谷 真理子

トラックは象の骸を積んでいる

絹針の雨に打たれて逃避行

運命と折り合いつけて平均値

傲慢な私に粥を食べさせる

着信音スマホが脈を打ち始め

川上 大輪

追伸のあたりが少し痒くなる

全力で咲き全力で散るもよし

直線は父曲線は母だった

オミクロンまだ終わらないロスタイム

警報が出る前にもう揺れている

北野 哲 男

レトルトに慣れて来ました老いの舌

あんパンと豚まん同士良い匂友

散らかった小さな部屋が我が書齋

喜寿過ぎて兄弟誰も病持ち

祖父達の戒名送り寄付が来る

木本 朱 夏

コロナ禍に赤いマスクの地蔵さま

明日は明日 金魚と遊ぶ大みそか

うっかりと娘に見せた老いの背な

眠れない夜のしじまに林檎の香

マスクして石の地蔵に血が通う

新家 完 司

逮捕せよSNSの「バカ!」や「死ね!」

我ながら扱いにくい嵩高い

修行不足が鼻息に表れる

月末の投句用紙と睨み合う

ブタマンを食って傘寿を迎えよう



高瀬霜石

頼まれたらボンと出すのが理想です

いきるのにひとつきにじゅうごらくまん

コンビニで実は足りるらしい暮らし

もう限界パンツのゴムもわたくしも

湯豆腐は我が家の4番打者である

竹治 ちかし

身の丈の床で食み出す夢を見る

幸せは涙分け合う人が居る

忙しさタテヨコナナメ年の暮れ

四季の彩香りも渡すおしながき

母も里も知らぬ私が詠む故郷

津守柳 伸

木蓮の枯れ葉掃除も12月

長生きのせいで廃業見届ける

欲捨てた卒寿はんやりあるがまま

後見人手続終り上鰻

紅葉の尾根突き抜ける青い空

西出楓 楽

宇宙よりせめて行きたやシャンゼリゼ

ヨイシヨでは動けずコラシヨ追加する

惚けた人の噂明日はわが身かも

ごめんねでしこりが取れる訳でない

シレッダーにかけたい悔いのあれやこれ

仁部四郎

如月の月が日記をのぞきこむ

如月の月に見られた誤字脱字

如月の月に訊ねる花便り

如月の月に話せぬゼニのこと

如月の月に背中は見せられぬ

平田実男

丸かじりされて喜んでるリンゴ

孫四人曾孫三人俺らが初春

校訓の誠と熱が生きる糧(母校開校100年)

貧富の差開く政治を憤る

川柳がサブリで卒寿目指す一〇〇

福士慕情

我慢の限界病院へ駆け込む

病名は腰椎間板ヘルニア

ブロックという療法痛み治まらず

全身麻酔ストンと落ちる手術台

二時間半手術成功したらしい

藤村亜成

認知度の教習年明け早々受けに行く

賀状出す前つぎつぎ喪中の便り着く

『喜寿薫風』緋く私も喜寿迎え

失語症 落とした言葉が見つからぬ

終りはいつもはじまりで今、今、だけである

松本文子

負けるなど出雲大社の大太鼓  
私も徘徊したくなる夕日  
うやむやになつて晴れたり曇つたり  
ぎざぎざな心温める仕舞風呂  
好きな方へ走りたくなる虹の丘

三浦強一

初めましてニタリと笑うオミクロン  
黄泉からの誘い無視している卒寿  
GOTOトラベル出で湯に漬かる雪景色  
熱爛が美味しいテレビの雪予報  
せめてもの年末年始うにイクラ

三宅保州

笑つたらみんなおんなじ顔になる  
三文判でよいと油断をさせられる  
赤提灯これが素通りできますか  
決まり文句は訴状届いておりません  
ご健勝のことと書かれた見舞状

村上玄也

恐る恐る自粛の鍵を少し解く  
マスク無い世界忘れてしまつてる  
誰からも酒の誘いがかからない  
二年間で外出面倒くさくなり  
句会より投句の方が楽そうだ

森山盛桜

奸計は否認するのが筋らしい  
心理学ならこの微笑どう読むか  
固まった脳に鶴亀算は無理  
疾風の中に身を置くには不調  
鉄分が有るから食べるウエハース

八木千代

夜明けまで  
星屑も半分混じるそば枕  
耳朶に触れるとすぐに話し出す  
潮騒のリズムを忘れない枕  
丁寧に脳を預かる夜明けまで  
その日までずっと見守りたい枕

麻生路郎語録

後記

▼短い読みものが欲しいと思つている。素人や愚  
陀や亂耽や町二や琴人などが押すな押すなと書いて  
いた雑文欄時代を想起した。若きよき筆の持主  
の奮起をのぞむ。  
▼寒さはまだ一ヶ月位続くだろう。諸君の健康を  
祈つて擱筆する。(路郎生)

(「川柳雑誌」昭和13年2月号)



『川柳塔誌寿古希記念句集』

林まじ 荒こう 介すけ

ふる里に川幅があり立ち止まる  
響いて風 森は自分を語らない  
面裏のちちの鑄型はまだ元氣  
桜並木が消えた或る日の記憶  
法螺貝は奥へ奥へと導いた  
水脈を探して崖に突き当たる  
友達の日記の隅に兩宿り  
足元は決して見えぬ遠眼鏡  
わたくしを現像する私の時間  
やっかいなものを笑顔に閉じ込める  
騒がしすぎるのは金魚の尾鰭  
猫はもう帰って来ない焚火跡  
どの杭も朽ち果ててゆく夕日  
指先に遊ばせる人さまのころ  
通過駅は幻 蝶の羽化はじまる

(平成6年7月27日 発行)

温故知新

田中正坊川柳句文集「ペンシル」から

来年も生きるつもりの花の種  
パレットに三原色のある未来  
ユーモアも少しはわかる仁王様  
笠智衆うなずくだけで芸になり  
会者定離 大正琴はもう鳴らず  
検定の朱筆が歴史ねじ曲げる  
敗走の日を覚えてる土ふまず  
ほどほどに燃える余生の篝火花  
一番はすぐに決まったコンテスト  
肩パッド女のいくさまだまだ続く  
大物になるつもりない紙バッグ  
立志伝溺れたこともある河童  
十人十色にんげんにくずはない  
母の背が温かかったおおい紐  
駅長が貼る沿線の花だより  
百姓と名刺に書いている自信  
蜜蜂の目に人間はするすぎる

# 水煙抄

## 川上大輪選

黒石市 石澤 はる子

停止線越えたのですね焦げたパン  
2アウト2ストライク今の僕  
米を買う明日を信じることにする

車間距離 欠点さえも魅力的  
叱責に柔軟剤も混ぜておく  
口角を上げて主流に群れている

大阪市 岡田 恵子

常識の壁が邪魔する老いの恋  
散る覚悟できて真っ赤になる紅葉  
空白の日記に残る涙あと

揉め事を治める母の下がり眉  
今もまだトイレの壁にある家訓  
てっぺんに立つ夢を見る蟻の群れ

大阪市 折田 あきこ

パソコンにゆとり盗られて不眠症  
肅々と菩薩になった白い菊  
無為の日を過ごし続けて待つ明日

近況を伝える友の震える字

自己中を通しきれずに年終る  
天国へ行く階段はここですか

宮崎県 黒木 栄子

日溜りへ寄り添うように母子草  
母という背もたれ無くしヤジロベエ  
どん底へエールをくれる真の友  
にっこりと写る母さんセピア色  
独り居は淋し同居は気を遣う  
魂の導く方へ歩き出す

大阪市 阪井 恵子

ひとり寝の不安届けに来る嵐  
嫌なこと振り切るように散る銀杏  
やっと会える信号待ちの長いこと  
雑談の中から拾う宝物  
神様のお目にとまれと朱のコート  
賽の目が一でもいつか着くゴール

和歌山市 西川千鶴

点と点繋げば見える裏事情  
譲られた席にお尻が落ち着かぬ  
公園のベンチで時に遊ばれる  
思い切り抱いてあげたい介助犬  
迷走と情走ばかりの吾が行路  
宝くじ当てて乗りたい宇宙船

豊中市 齋藤奈津子

友が逝く実感のない家族葬  
白い杖渡り切るまで見届ける  
出欠に椅子か座敷か確かめる  
痒いとこ聞かれて言えぬ美容室  
呼び出し音鳴ってまわりの冷たい目  
寿限無じゅげむお経のように丸暗記

河内長野市 坂野澄子

不器用に生きておんなの仕舞風呂  
摩り切れた手袋似合うふしくれ手  
初雪に恋の始まる胸騒ぎ  
勝った負けた言ってる間まだ青い  
一筋の涙おんなの再稼働

西宮市 高橋千賀子

次次値上げ食卓に冬が来る  
誘惑に負けるスーパ一の焼き芋  
あとは富岳に託すコロナ撲滅

食べた気がしない魚の踊り食い  
へそくりの味はわからぬ独り者  
トラを描いてもネコになる年賀状

広島市 常國喜好

神様もミスをするから救われる  
なんとなく立ちどまつたら見えた虹  
損になることは小さく書いてある  
いいところ忘れ叱ってばかりいる  
さつきまで泣いていました楽屋うら  
幸せを追う家族にはくたびれる

伊丹市 延寿庵野鶴

湯豆腐へあつまる顔に笑みこぼれ  
成り行きにまかせてあとは風になる  
水溜りぼんやりと寝る昼の月  
泣き言は一切言わぬこぼれ種  
どうだ見てくれと霧氷が立ち上る  
赤青で決着をするトマス紙

山口市 中前幸子

空が重くて明日の夢が描けない  
しゃぼん玉夢空間を埋めつくす  
消えない記憶クレヨンで描いた虹  
歪んだ構図へ黙黙と雪積もる  
風の絵にぼつんと残る雪だるま  
通りがかりのお不動さまに会釈する

台所に転がつている不発弾

鳥取市 吾郷 天遊

揺れながら切り取り線の上歩く

SOSを誰も気付かぬ老いひとり

母逝つて景色一変した田舎

輝いた昨日 淋しさつこのる今日

鳥取市 上山 一平

木枯しに孫の記念樹添木する

引き算で暮し守った常備菜

柔らかいケーキ品よく運ぶ口

靴下を穿かせるロボのほしい年

尾根に沿い流れる紅葉上り竜

鳥取市 山野 すみれ

よく転びあちこち角に当たる球

あっさりと認めずいつも黒く塗る

ごほうびのように光ったオリオン座

スイッチの入らぬ修行棚の上

青竹を踏んで明日を生き延びる

倉吉市 若松 由起子

白旗を出したい時もある独り

ばあちゃんの家の匂いと孫が言う

日々元氣腹の底から笑う老い

どこで乗りどこで降りるかバスのハエ

老人クラブ園児と共にする塗り絵

反抗期親子の絆うすれ行く

悩み毎消化が出来ず年を越す

良き思い出は豊んで残す胸の奥

シクラメン買って覚えた恋の歌

おーいお茶一人暮らして2人役

米子市 妹能 令位子

へとへとになつてから知る鉄づかい

朝露を踏む命日の花鏡

人柄をひっくり返すバイキング

冬眠が出来そう脂肪貯蓄中

コロナ禍も途切れぬ友の入選句

松江市 中筋 弘充

頑張れば何とかなると言う他人

葬儀場で笑談してもいい他人

遺産相続まとめてくれるのは他人

褒め言葉ならよく聞こえます僕の耳

紆余曲折を介護日誌で読み返す

安来市 原 徳利

八時間保温をされて夢の中

カップ麺啜る真冬のオホーツク

子供等へラピスラズリの海と空

難題に南天活けて時を待つ

七億が当たれば全て寄付したい

津山市 高橋 由紀女

少しずつ残る師走の後始末

墓参り何でも聞いてくれる亡父

新鋭がどんどん迫る土煙

訃報欄日毎に迫る同い年

消しゴムが肩の力を抜けと言う

水山が崩れ地球は熱を出す

明日の無事想い眺める北斗星

何程の余命か珈琲飲みながら

レギュラーを確保夕餉の冷奴

迷い道明かりが見えた晩学の

瀬戸内市 宮宅 比佐恵

千の絵馬神も辞典が欲しくなる

一筆の風雅も消えてスマホの世

老いたともまだとも思う卒寿旅

初春の風にまかせてゆく歩幅

初笑いひ孫笑えばみな笑う

広島県 土井 輝 恵

カーナビに騙され道を迷いけり

財産も遺品もなくてさり生き

そう言えば今日の運勢吉だった

半分減ってしまった賀状書く

朝ドラのおはぎ食べたくなりました

尾道市 小川 道子

世間慣れだんだん上手くなる泳ぎ

スッキリと左右対称いい名前

生き甲斐に一文字ずつを積みあげる

無駄骨に終って尚も骨を折り

月あかり互いに老いてきた影絵

尾道市 村上 和子

大夕焼け明日の命を疑わず

ピンコロリならば逝つてもいいかもね

前向きに生きるしかない後期です

昭和生まれはカードより現金派

熱燗をちびりちびりと除夜の鐘

竹原市 若年 幸子

雨の日は杖もお休み柳誌読む

断捨離へ亡夫と駆けた日の重さ

三十分へ勝負をかけるコマーション

喪中ハガキ思いの深き黄水仙

イルミネーション花火とコラボ意気揚がる

山口市 兼崎 徳子

空想の深い森から出られない

捨て駒の列に並んで順を持つ

しぶとさは後半戦で役に立つ

損得で動く先が狭くなる

鮮やかに心も染まる永観堂

松山市 郷田 みや

切替えに最適庭の草を引く  
自己暗示できるでないと上を向く  
ほんとうに許す気なのか笑わない  
予想外しまい切れない最終話  
今年またご近所さんの吊し柿

大洲市 花岡 順子

寝返りをすれば独りが身に沁みる  
深入りはしないするりと輪を抜ける  
気の荒い優しさだつて持つ男  
海の風も突然牙を剥いてくる  
さつぱりと読めなくなった風の向き

佐賀県 真島 久美子

共喰いという選択もある白夜  
嘘つきが数名混じる射程距離  
嘘から外の世界を拒絶する  
靴底がまだ言い訳を繰り返す  
小さめの脚立女系の家族です

唐津市 前田 廣幸

コトコトと心揺さぶる土鍋かな  
通訳もやつと要らなくなる曾孫  
銀杏の我が身を守る臭いかな  
六波より値上げの波の轟音が  
這い這いが徘徊となる幼と老

宮崎県 恵利 菊江

女房に髭生えてくる遅しさ  
ときめかす人生さえも泣き笑い  
おでん鍋大根にある母の味  
二枚舌から学んでる処世術  
信号を渡り切るまで親の庇護

黒石市 北山 まみどり

雨音が静かになつて白い使者  
足元の悪さを嘆く軽装備  
コートにも段階がある空模様  
長ぐつの底も雨から雪仕様  
降りしきる雪に覚悟を迫られる

東京都 高岡 弥生

目指すのはなりたい自分ハッピーで  
コロナ禍は皆平等に過ごしたか  
骨のずれ正しい位置に収まらず  
背筋を鍛え腰痛減らしてる  
怪我しても話せない犬悲しげに

富士見市 中島 通則

恍惚の老母と昔の話する  
また来るね頷く母の目に涙  
人生は筋書きのない私小説  
思考力衰えさせる全自動  
昭和の歌を少年の顔で聴く



岐阜県 喜多村 正儀

葉裏にも上手に回り込む冬陽  
耳栓をブレークスルーする噂  
清流に生きてもらった香魚の名  
気まぐれなネコが寄りつくひとりの夜  
君だけが風景だった外野席

名古屋市 富田 末男

長い目で見るを貴方のために持つ  
メルヘンの森に雪んこたちが来る  
真ん中を知る眼力を持つている  
深読みをしては足してる思考力  
体験を活かした話光り出す

大阪府 奥野 健一郎

好きな道好きなら行けと背中押し  
歩いたら消えてしまった悩みごと  
老骨に許されている一徹さ  
照れくさいぶつきらほうはポーズだけ  
表紙だけ替えて手抜きの改革案

大阪市 東 敏郎

もしもしと今朝もやさしく妻起こす  
うしろ髪引かれるような食べ残し  
改札機もぎとるように切符取る  
ワクチンの針チラと見て身構える  
聴診器当てたまま医師おし黙る

大阪市 今村 和男

老いの身は涙もろいがすぐ乾く  
今日もまた夕刊読まず朝が来る  
鉄塔に雲の端っこ引つ掛かる  
お祭りの金魚寝ている冬の朝  
ビルの角夕日は欠けて落ちてゆく

大阪市 大沢 のり子

気がつけばサンマ食わずに冬が来た  
小春日の窓ふき済ませ明日を待つ  
ブリ大根ちようし一本誕生日  
褒めるのは今日もスマホの万歩計  
笑い声でわかるあなたもわたくしも

大阪市 近藤 風羅

ここだけの話世間にたんとある  
受診日がまん中にあるカレンダー  
待合室来ない仲間で盛り上がる  
バラまきはダメと言いつつ飛びついた  
ばば抜きをやるほどある診察券

大阪市 樋口 眞

妄想が今日も安眠妨げる  
マイルドな薬なかなか効きません  
四回目接種も覚悟決めている  
大喧嘩せず妻との半世紀  
ありがとう妻にすんなり言える今

大阪市 松田 聰

テレワークマスクいつまで続くやら

結局は優勝できぬタイガース

三日月もいいな心を覗かれる

年金はもらえないかもわからない

軽石がこんなに悪さするなんて

大阪市 森 廣子

生き延びてカラスも人も冬に入る

表つるつる裏はざらざら嘘つぱち

言い訳はせずにお惚け押し通す

この次はもっとと素敵に溺れよう

何となく只何となく十二月

池田市 上山 堅坊

先送りだんだん増える昨日今日

生き方を解く鍵いつもノーヒント

夫婦にもルールほど良いディスタンス

ピエロでいい決めた我が道ただ一途

玄関の施錠に慣れた老い独り

池田市 倉本 一 弥

口角がひきつっている怒ってる

レシビより妻の一手問うなる味

ワクチン接種夫婦並んで順を待つ

スロー良し 人生はいいこともある

たまには買うか夢でも見ようジャンボくじ

泉佐野市 樫葉 良子

嫁が子にじいじに買ってもらいましょ

化粧して鏡に気合い入れる朝

心からお詫びしますと口先で

朝起きて予定ないのも疲れます

同い年互いに顔を見つめ合う

貝塚市 吉道 あかね

生きていて良かったねえと湯の宿で

大根がおいしくなった冬に入る

この歳になって頷くことばかり

繰返し話す思ひ出同じ人

まあいいかいいかで終わる年の暮れ

柏原市 神崎 江

友乗せた船遠ざかる島の春

年始め立てた抱負よ今どこに

重症化だけはせぬよにさせぬよに

百薬の長は毒にもなる媚薬

画面越し少し紅さすウェブ会議

交野市 山野 双葉

故郷のかばす届きて鍋続く

折り紙のサンタ添えられ胃瘻食

約柄を着て心まで強くなる

夕刊に紛れ舞い込む喪の知らせ

リボンひとつ結べば軽くなるころ

門真市 坂本星雨

寂しさの隙間を川柳で埋める

初詣の約束をするクリスマス

善人に一瞬戻る除夜の鐘

何一つ出来ず重ねる年一つ

欲の音響かせているお賽銭

河内長野市 穂口正子

北の国墓参と蟹も二年振り

先行きが容易に読めてドラマ消す

底が抜け何でも有りの世が続く

来世には違う男と溺れたし

今もなお父母の祈りに包まれて

吹田市 西沢司郎

これが歳 これが老化と悟る日日

背水の陣を敷いても後手を踏む

朝刊を待ちかね知った休刊日

苛つくと遣り場に困る脳のゴミ

そば立てる壁もお耳が遠くなる

寝屋川市 長尾千賀

黄昏の心に沁みるケアハウス

レモネード少し甘えていいですか

温もりがまた鈍らせる勘の冴え

よい話ではなさそうな懐手

拍子木の音凍てついて独り酒

神戸市 城戸誓子

お風呂だよ震えるポチはかくれんぼ

引越しの家族会議にポチもいる

星空に九ちゃんの歌リフレイン

木枯らしは二人の距離を近付ける

庭の袖大事大事にジャムを煮る

神戸市 米田利恵子

振り向かれ振り向くマスク同士の眼

灰皿を隠し健康管理中

体調も戻り布団の上げ下ろし

朝の試歩犬にリードを任せてる

物忘れの歳じゃないけどメモをする

神戸市 みぎわはな

今さらに字引き離せぬ八十路坂

カタカナ語増えて字引きも役立たず

ラーメンもカレーも日本料理です

四世代の献立悩むステイホーム

お疲れの妻に時折り出前取る

神戸市 村松久江

訳もなく淋しい日にはかけうどん

大袈裟に包帯巻いて一休み

隠し事ひとつ増やして誕生日

賽銭の額に見合った願い事

独り占め出来て淋しい一人っ子

芦屋市 荒牧孝子

余計なこと言ってしまった熱のせい  
無理と言われさらにファイト増す私  
作句のヒント手のなる方へ出かけよう  
もういいよ生きてみようよありのまま  
仲良くなれる一匙の愛足したなら

明石市 瀬島流れ星

じれつたい知らない振りの痒い喉  
得手不得手相手次第で芝居する  
寄せ書きへ達筆の横空いたまま  
止まり木で意気投合の赤い糸  
使い道次第時間の足る足りぬ

尼崎市 清水久美子

鈍くさいところが可愛いパンダの子  
ジャンボくじ買って粗食になる夕餉  
気兼ねなくどんちゃん騒ぎ出来る過疎  
餅代を外れ馬券にしてしまう  
坦々と喪中はがきを書く深夜

尼崎市 宗和夫

憂さ晴らすつもりで飲んで憂さ募り  
酒の温もり届かぬうちに悪酔いし  
寂しさに寂しさ重ね喧嘩売る  
喧嘩買う友も寂しい眼をしてる  
温暖化それでも冬が身に沁みる

伊丹市 岡村風琴

振り向けばじつと耐えてる冬木立  
刃がたたぬカボチャの皮にある主張  
ときめきもためらいもある人生譜  
わたくしを浄化してゆく写経筆  
軽石へありがたさ知る青い海

三田市 木村マユミ

寡黙な人が残してくれた弦の音  
コロナ禍で夜の街からトラが消え  
ありがとう助けてもらおう事多く  
背にリュック尋ねてみれば医者めぐり  
脳トレで信じたくない老いを知る

宝塚市 太田としお

夫婦でも財布は別になっている  
きっちりとマスク離さぬ日本人  
正直に全部話して高野  
日本人に生まれたことがありがたい  
本当に寝顔は歳をごまかさぬ

丹波篠山市 河南すみえ

余生こそ真摯に生きよう穏やかに  
干し柿はストレス抜いてくれる味  
貼りかえた障子明るい日を照らす  
暮らし向き楽ではないが温泉へ  
貧に堪え昭和人間質素すき

三木市 山口 ヨシエ

如月は炬燵とみかん文庫本

冬ざれの庭水仙の群れる青

寒風にマスクいいねと散歩道

手作りのサラダ菜添える朝の膳

短日のシナリオ心急くまに

和歌山市 北原 昭枝

寄せる波おもいを馳せる初春の海

母さんの笑顔平和でいる家族

躰いた石が忍耐くれた道

ひと言が微妙にこころ揺らしてる

真実を語って開く胸の内

和歌山市 定松 宏枝

煙突がなくてもサンタやつて来る

仏壇にケーキ供えてクリスマス

宅配で届くサンタのプレゼント

早々と予定びつしりカレンダー

言い遣す家族葬なら中の上

岩出市 村中 悦男

目覚めればホームの妻の空きベッド

完食出来て余白なく書く日記

早師走年金記録やはり赤

お若いよ百も生きると笑みもくれ

愛犬は好きよ好きよとなめに来る

奈良県 室田 行久

肩書を会社に返し独り立ち

名刺捨て御礼奉公ボランティア

憂さ晴らし飲んでますます自己嫌悪

可能性自ら放棄暇潰し

なんでなの お偉いお方だからなの

奈良市 東 定生

風に乗りひらひら旅をする落ち葉

二時間で四人ぐらいが美味しい酒

少子化と張り合っている高齢化

年寄りをジタバタさせにくるアプリ

ポイ捨ての白いマスクが目立つ街

奈良市 尾畑 なを江

トイレにも神様いると思ってる

孫が出来いつの間にやらおばあさん

政治家をへらしてもっと良い日本

焼き芋がランチに変わる時もあり

くよくよとしないと決めた高齢者

生駒市 饗庭 風鈴

生きている手ごたえはらりはがれ落ち

この世にはこんなに深い井戸がある

この世の百年 浦島の一日

ひとり居の晚餐酒とサンマ焼く

本を閉じひとつ息吐く酔い心地

鳥取県 下田 茂登子

新聞も横文字増して老い読めぬ  
百までは望んでいないでも生きる  
物忘れ食べることだけ忘れない  
もう一度夫婦で旅行したかった

鳥取市 大前 安子

自肅の背摩する手骨を知ること  
母介護宝の日日と思う手よ  
リハビリの摺り足半歩自負が押す  
耳澄まし目玉キヨロキヨロ師走風

倉吉市 伊藤 嘉昭

生きているよろこび一つ年をとる  
年金で夢買う爺が並んでる  
歩かねば足おとろえてベッド待つ  
願いごと五割でがまんと爺教え

倉吉市 堀 かずこ

このままで年は越せない我が身見る  
病室で今年も暮れるくやしいよ  
後になり先になつては進む道  
それぞれの道を歩めば幸がある

倉吉市 宮田 風露

預金通帳足し算のある年金日  
寒い寒い懐までも寒がり  
何時もの癖締切り前の大慌て  
冷静に冷静にとも思うけど

境港市 中井 虎尾

ほしかった本は読まずに棚かざり  
目を細め若い思い出話す老い  
長い列その先頭はパトだった  
虎年だ日本一だねタイガース

松江市 相見 柳歩

大谷は日本人だよ僕もだよ  
漂っているよ未来の詩人の香  
太陽も月も寿命のある星だ  
いつの日かひとつの影になりましよう

松江市 山根 邦代

焦らずにゆつくり歩む八十六  
楽しかり過去はカコなり今の夢  
古里の友となつかしズーズー弁  
ちらちらと雪降る寒さ思う日々

出雲市 黒目 ひでお

暗雲も晴れる日近い風の向き  
これからも人の温もり感じつつ  
ラストラン夢の景色を見てみたい  
詩づくり自分の色をちりばめる

広島市 田桑 恵子

背なに湿布頼む手がありありがたい  
デジタル化年寄り置いて加速する  
寂庵に笑いが消えて師走来る  
仕舞風呂今日も笑えたありがとう

広島市 松尾信彦

先達も仕事失うデジタル化  
わが歴史育む卓袱台ミカン箱  
ほほえみが誤解を生んだ嫉妬心  
寄り道の数はいつしか酒の味

尾道市 小畑宣之

八十路坂あれも知りたい学びたい  
命懸けなどと気軽に言わないで  
青春は虹色今は残照か  
時雨降るよろよろ歩むキリギリス

府中市 岸田武

近くより遠くを覗く十二月  
ひたすらに人恋う宵の秋深む  
冬の日の温さを歩くスニーカー  
ハンガーに干し柿のある散歩道

三次市 伊藤寿子

傘寿の風邪しんどいもんと知らなんだ  
四代目で店を閉めれぬ自負がある  
いらっしやいませ声だけ若い声美人  
悪友から忘年会の誘い来る

高知市 三谷松太郎

靈感と夢のお告げで宝くじ  
一張羅も惜しい気が抜け日向ぼこ  
運転はフル回転のこれでもか  
石段に紙片と見えて冬の蝶

福岡県 本田 さくら

あれせねばこれもせねばで日が暮れる  
かるがもの十羽ひそひそ会議かな  
コスモスの中にひまわり得意顔  
朝ドラに亡母の苦労を重ねみる

沖縄県 あら さくら

若者と競う切り札年の功  
クレームを集めた先にヒットあり  
好き嫌いドキドキ感で返事聞く  
揺れに揺れ令和三年幕を閉じ

沖縄県 禰 モモト

コロナ禍の花屋ピンチの家族葬  
母形見着物リメイク女子会に  
七五三羽織袴の神詣で  
黙トレの時短で帰るジムの汗

沖縄県 宮 すみれ

あい言葉今日も元気にしてますか  
亡き夫ビール片手にえびす顔  
カレンダー点予定入れておく  
引っこめる爪のお手入れおろそかに

弘前市 小山内 真由美

若者のラップの歌詞に夢がある  
すみっこでまっすぐ生きて見る景色  
メガネ新調笑顔ひとつも見のがさず  
移りゆく季節のごとく年をとる

青森県 月波 与生

鬼の子かか目隠しとつて見る  
珈琲が旨い断捨離したあとの  
土曜日の郵便受けに忍び込む  
罪の重さで体幹が鍛えられ

南アルプス市 小林 金剛

おだやかにあわせる息の夫婦仲  
感動の川柳話皆とゆく

慕う愛一途な思い永遠に  
精神科ひるむなかれとペンをとり

石川県 堀本 のりひろ

コンチクシヨウスマートフォンハイジメッコ  
じゃじゃ馬のスマホをこなす孫五人

ムンクの叫びスマホ投げ出しエトセトラ  
スマホから三下り半の喜寿の人

横浜市 巖田 かず枝

エンディングノートはちほち清書する  
変身を続けてコロナはくそ笑む

取説の理解不足に四苦八苦  
寒がりの重ね着してる糞虫よ

横浜市 加藤 佳子

最優先の散歩が弾む朝の計  
コロナ禍で足も遠退くジム通い

日に一つ新体験に身をさらす  
60年ぶりに会食友若し

静岡市 渡辺 芳子

眼も見える耳もきこえる事感謝  
お国の為と戦争をした日本人  
青春を全部つぶした戦争よ  
ころばない命が大切ころばない

豊橋市 西郷 紀美代

泥つきの大根ねぎが喜ばれ  
九十四説教もして母元氣

久しぶり満席にした焼肉屋  
後継者なくて埋まっていく田んぼ

八幡市 武田 悦寛

一年の汚れ隠して雪化粧  
電車内昔新聞今スマホ

裏表全部まるめて洗濯機  
わだかまりビール2本で泡と消え

京都府 北野 クニオ

孫受験影で祈願の神もうで  
クラス会病気話で盛り上がる

ポケットに今日の用事を入れておく  
孫帰る元の静寂二人きり

大阪府 大浦 福子

二年ぶり帰省の子らも少し老け  
賽銭をはずみ見返りちと期待

健やかに平穏な日び真に請う  
今年またボチボチ歩むありのまま



大阪府 高木 道子

きりの無い喋り夕日が包み込む

ああ言えばこう言うた亡夫徒わらう

此間の昭和レトロのリフレイン

葬儀屋のCM遺族が楽しそう

大阪市 尾崎 文子

餅つきに八人家族皆揃い

兄の嫁姉さんかぶり甲斐甲斐し

かまどの火餅米を蒸すいい匂い

つきたての餅のやさしさ乳房にて

大阪市 阪本 秀子

柳友と楽し雑談フルコース

加齢です主治医ひとこと軽すぎる

砂時計いく度かえせば夢かなう

カンバスにくる年どんな絵を描く

大阪市 中村 峰子

ガラクタに詰まる思い出捨てられぬ

人恋し三つセットのきびだんご

年末のハガキ悲しい友が逝く

もう一年生きるつもりのカレンダー

大阪市 前川 善之

老人も日向の道を健康で

忘年会酒の無い席行きません

老人の人生すべて感謝のみ

物価高年金だけが上がらない

堺市 古川 光雄

売った恩早く返してもう八十路

大食漢八十路になっても衰えず

電動チャリ脚力つかぬと妻は拒否

パソコンは使うがスマホ使えない

泉大津市 助川 和美

オレ流に日ハム変えるビッグボス

正論で詰め寄る吾の生きづらさ

スーパリーのビニール袋なめて開け

明日採血土産のケーキ拒否される

高槻市 鳥居 宏

寂聴の命一杯生きた歎

人生は一瞬宇宙の流れでは

枯庭に赤い椿の二つ三つ

晴天が続き琵琶湖が乾きそう

高槻市 三谷 白黒

多過ぎる一泊旅行の夕食が

我がゴルフランドゴルフみたいですよ

お年玉毎年増額きついです

敵ながらコロナの進化みごとです

豊中市 松田 蟻日路

ほろ酔いで車窓流れる秋暮色

雨音と紅葉肴に味見酒

目の上のタンコブ常に先を行く

駅前の薫り振り切り無事帰還

羽曳野市 黒木 ひとみ

読む本の上にはらりと木の葉髪  
師走にも小春日和の長閑な日  
紅葉愛で感嘆の声空響く  
柗の雪冠る如白い花

東大阪市 秀 斧

村社会批判をしたら生きられず  
生徒会選挙と紛う代表選  
ノムさんは東京人や娘言い  
眞子さんもメーガンほどに輝いて

八尾市 田 邊 浩 三

オミクロンまたも人間踊らされ  
余生でも爪は真面目にのびてくる  
補聴器よ彼女の心拾ってね  
句が出来ぬ禁酒腰痛のせいにする

神戸市 青 木 公 輔

うたかたの恋を語れば午前2時  
二人の足音今日は静かに見守って  
ささやかな武器です梅干召し上がれ  
ちちろ鳴く山鳩負けずデユエットに

神戸市 青 山 ひろし

2Fへお声がかかるお昼だよ  
目でゴメン合図送ってディスプレイ  
ワンカップ広告塔はお墓です  
欲の無い顔で取ったは首相の座

神戸市 石 川 克 美

日没の赤い夕陽が火事のように  
暇なのに何故か忙しげ十二月  
どうなるのナンバード紛失で  
体調をくずし日頃のありがたさ

神戸市 長 川 哲 夫

手術医の和みの言葉待つ時間  
麻酔覚めベッドの上も心地良い  
入院もちよつといいもの二日なら  
花金にちゃんと退院認められ

芦屋市 新 阜 義 明

つらいのう行きつけ2軒シャッターが  
黄点減診察券が増えて行く  
多さでは負けませんがと棄  
値上げ増えメインディッシュはモヤシ占め

伊丹市 平 井 富 夫

医者が言う酒を辞めれば治るかも  
呑み助が酒を辞めたよ本当か  
飯うまい内臓までも健康だ  
朝のパンミルクも少し温める

三田市 生 田 えい子

人生のスタート祝う花吹雪  
言い訳に尾びれ背びれも顔を出す  
また明日笑って別れそのまんま  
電話口私に暗示かける詐欺

三田市 幸田厚子

紙芝居戦争悲話知った五円  
角を捨て丸い土俵にいる私  
事故らしい妙に気になるヘリが飛ぶ  
コロナ禍を誰にも会えず逝った友

三田市 馬場貴美江

七五三和服姿が懐かしい  
デジタルは人の温もり置き去りに  
アラムに追われて右往左往する  
我が子にはジイジバアバと呼ばせない

三田市 森玲子

読みかけの本を片手に夢うつつ  
お互いの体労り今日も暮れ  
友の顔浮かべ一言年賀状  
猫いびき思わずうふふそつとなで

たつの市 江尻房子

電源を切ってスマホも休業日  
今が旬大根ばかりダイエット  
来年もよろしくなどと絵馬が揺れ  
新米は梅干でます一口目

丹波篠山市 澤良子

生きがいを持ちつつ持たれつつ仲の良さ  
仕事師の隙のない見事な動き  
少しでも内緒ありそなあの背中  
仕事師の熊手のような指太し

西宮市 藤原みよし

口紅のいらぬ日々も飽きてきた  
声掛けは介護に必需笑顔もね  
前一步後三步の暮しです  
誉め言葉元氣出るよな甘い蜜

和歌山市 倉橋悦子

休日へのベース崩しに來たチャイム  
あの時が最後だったか計の知らせ  
憧れの作者に会えて氣もそぞろ  
言いつ分はみんな持つてる紙一重

和歌山市 佐藤まさき

計画の一つも出来ず日が暮れる  
ポーナスに一度胸キュンしたかった  
歳末の商戦にもう福袋  
ジャンボくじ抽選までの夢をみる

和歌山市 鍋嶋澄子

玉ねぎの甘さ堪能淡路島  
赤飯に幸せ涙塩がわり  
鳥が来ぬ赤い実熟れて焦れてるよ  
解つてる止めの言葉加齢です

和歌山市 福島一雄

朝昼の食を一度でダイエット  
親みますこれで故郷帰れます  
働けばお金あとからついて来る  
汗かいて働き褒美ホーム入り

(まつもととこさん、三枝眞智子さん、平井富夫さんは36頁にあります)

# 誹風柳多留一二三篇研究 18

高野 範雄・山田 昭夫  
小栗 清吾・細井 龍夫  
伊吹 和男  
清 博美

137 真ツさきてけにもそうよが三人

高野 「真崎稻荷」は、隅田川の西岸で橋場から上がった所にある稻荷。吉原の山屋の絹こし豆腐を使った田楽が有名である。単に真崎ともいう（『川柳大辞典』）。「げにも」は、その通りだ。もつともだ（『日国』）。狂言「末広がり」の、太郎冠者「げにもさあり、やようがりもさうよの……」の文句取。

句は、真崎稻荷で田楽を食べながら、吉原行きの相談になると「げにもそうよな行かなきやなるまいな」と、小謡を謡いながらはしやぐ奴が三人いるというのである。  
まつ先キハふん別をする所てなし

安八梅 4

御楽屋に実にもそうよの傘一本 一四五五

小栗 賛。小謡は、謡曲の中から、特に謡うことを目的として選んだ一段。なぜ、この人たちは小謡を謡うのですか？

伊吹 賛。筆の走りか。

清 賛。些細な語彙も正確に使わなければ、ということ。ストーリーを作りすぎの解は危陰。

138 金の生ル木ハぎつといふ人が出し

高野 「金生木」は、金が実るといふ想像上の木。家賃、地代、金利など、次々に利潤を生み出すような財源はこれを比喩的に表したものである（『川柳大辞典』）。

句は、

①「すけんか七分かうやつか三分なり」  
（天二鶴）素見者ばかりだと廓は儲からない。登楼してはじめて儲かるのである。妓夫が廓内へ呼び込んだ客の事を、金の成る木を出したといつたのである。  
②妓夫にとつて監督下にある夜鷹は、金の成る木である。  
ぎう台にけつかふぎしてぬひて居る

鼻声ハぎうにはつかりよバせて居

安六楼 5

明二松 4

山田 賛。ですが「妓夫が廓内へ呼び込んだ客」とは如何なものでしょうか。廓、即ち吉原の「若い者」は客引きなどしなれないと思いがすが。

伊吹 礎賛。金生木は、遊女や女郎の類ではないかと。

清 不明。夜鷹の妓夫か？

139 やつばらが五六本来てどなる也

高野 「やつばら」は、複数の申しめていうやつら。連中。

句は、検校が貸金を督促する時には、配下の座頭五六人使つて怒鳴り込ませるといふのである。

なみ杖を四五本やつてはたらせる 二二三五  
めくら千人程も来る御不勝手 三二一一

細井 賛。「御不勝手の玄関先で」と補つた方がよいかと。

伊吹 賛。座頭が来るのは武家の玄関先とは限らない。

清 同右。せまく限定することはない。

140 大平の向ふうらからげい子出る

高野 「大平」は、「たいへい」。「大平」は、薬研堀の薬種屋大坂屋平六。ここはズボウトウ、ウニコオルという薬を売っていた。付近には転び芸者が多かった（『川柳大辞典』）。

句は、薬研堀・橘町には芸子が多く、とくに大坂屋付近に多かった、というのである。

平六か向ふうらかと留主居き、 安元梅 3  
おとり子八行もかへるも大坂や 安七宮 3

小栗 賛。ですが「とくに大坂屋付近に多かった」のですか？「大坂屋平六」だから「オオヘイ」でよさそうなものだが。「タイヘイ」と読んだ実例（ルビ又はひらがな）を教えてください。

とところからとて大平なむすめなり

は、「オオヘイ」だと思ふのだが。

安九宮 1

清 同右。

141 くわ酒をぐわいのわるい人がのみ

高野 「桑酒」は、桑の樹皮および根を濃く煎じ、その汁を加えて醸造した薬酒（日国）。

句意は、桑酒は病人の飲む薬用酒である。

中氣した猿養生にのほる桑 一〇二二六  
葉いしりのうへる桑の木 武三 14

山田 「具合の悪い人」が病人とすれば、何の面白味もない駄句となります。別解があり

そうですが思いつかない。

小栗 山田兄の言われる通り。桑酒は「中風・五脾・脚氣および疾嗽を治す」と『本朝食鑑』にある。礎稿お示しの例句①も中風に効くことを踏まえての句であろう。とすれば、中風

が治つては具合の悪い人、即ち、せつかく中風で死にそうになっている姑婆ということ

如何……。

細井 なるほど。嫁の心情。

伊吹 小栗氏の姑説に賛。

清 小栗氏説のように解して川柳。

142 かつたいと棒打をする関が原

高野 「かつたいと棒打ち」は、不釣り合い

なつまらない争いをする愚かさをいう。勝つても手柄にはならず、負ければいよいよ恥になるということ（『ことわざ大辞典』）。

関ヶ原の戦は不釣り合いなつまらない戦であつたというのである。

大谷ハ棒うちならぬ下知をなし 四九六  
せきか原大谷かりをかへすなり 安四松 4

山田 本句も、  
かつたいと太刀打をするせきが原 安四仁 5

と同じく、大谷刑部のことと俚諺を利かして彼をひやかしているのでしょう。

小栗 同右。諺「かつたいと棒打ちをする」にピッタリなのは、関ヶ原合戦だね、という迄の句。

清 同。

143 間男を御用百にて他言せず

高野 「御用」に間男の現場を押さえられて仕舞つた。百文もやれば他言しないし、後へは引かないというのである。

何申やしやうと御用百にぎり 一一三 19

山田 賛。百文で買収。

清 賛。

西尾葉句集『水鶏笛』くいなぶえ

七光りですと養子如才なし

養子会作る話もそれつきり

舅の失敗えらい源助やですみ

柄の提灯のと伯父が罷り出で

総辞職男をたてたつもりなり

「女ごころ」

女もう暴君でないが気に入らず

あの晩の風邪よと女嬉しそう

長襦袢せかされている足袋を穿き

市電代返すにもめる女連れ

炬燵から女は櫛を拾うて出

朝の床ピンはバラバラ落ちるもの

ハンドバッグ迷える心パチつかせ

丸髻が疝症病みの首を立て

伊達巻の後ろ姿へ湖は暮れ

小指たてられる程御察人きかしてい

よどみなくお悔み婦人部長言い

化粧なおす後姿へ喫う煙草

蛙一つで仰山に抱きつかれ

ヨヨと泣いておいて他人さんへ嫁ぎ

ここすえと唇の色罌粟の色

自信ある顔で三面鏡を閉じ

持ち味をいかす化粧の濃ゆからず

O・Kと派手に別れた戎橋

女店買うまくとぼけているのなり

マダムふと壁の銀狐の瞳と合いぬ

ハイヒール待たしてあります歩きよう

誘惑をせよと口紅アイシャドー

チト低い鼻でサービスゆきとどき

すねてなんかいまへん欲求不満です

美容院から帰りあわてまいことか

待ち呆けさすには惜しい美人居る

お坊っちゃんねと女逆らわす

ネックレス修験者程に巻きつける

## 英語 de Senryu ⑫

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

笑はぬ父に 恩給がつき

*father seldom laughs  
but he can get  
his pension*

天才か 癩癩持ちと思ひしに

*I believe  
he is a genius  
with a terrible temper*

---

*seldom* めったに～ない *laugh* 笑う *but* でも しかし *get* 手にする  
*pension* 恩給 *believe* 信じる *genius* 天才 *terrible* 手に負えない *temper* 癩癩

---

### ～リバーウィローのため息～世界の詩歌 ⑫

大学の英語表現の授業でハイクやセンリユを作ります。英語のハイクやセンリユ創作を学生に提示すると、「日本語の俳句や川柳も出来ないのに英語で出来るわけがない」と、叫びだします。日英語の作り方の違いは、ほとんどありません。17音節以内で、3行、現在形で自分の気持ちを自然や人間関係に照射させます。例を出して説明しますと納得して初めてでも、意外にできていきます。そんな雰囲気の中で、自転車 (*bicycle*) を課題にして学生が初めて作った作品を紹介しましょう。

*with white breath / a row of bicycle / going to school*

(自転車の通学の列 息白し)

*on the bicycle / wind plays / with my hair*

(自転車で風に遊ばれる僕の髪)

*running my bike / to the part-time job / my ear is cut by coldness*

(バイト前 自転車走らせ耳切れる)

*winter comes / as fast as / the speed of bicycle*

(冬に入る自転車ほどの速度にて)

授業では時間内で書き上げて学生は選句をします。友達によって選ばれることは学生には嬉しいことです。教員は学生の英語の文法的なチェックや、単語の示唆をするだけです。学生発信型の授業が自ずと運営出来て充実したクラスとなります。半期15回の授業の中で時にはこんなエクササイズもいいものです。

# 愛染帖

## 新家 完司 選

(投句262名)

次の恋アウトレットで探します  
大阪市 大沢のり子

(評)普通の店では扱っていない余剰品や工場直販品を売っているアウトレット。ひょっとしたら素敵な相手に巡り合えるかも…。

三田市 堀 正和  
空き家だがセコムシールは貼ったまま

(評)泥棒もちょっと怯んでしまう警備会社との契約シール。契約は終了しているのだが、効果はあるだろう。睨みを効かす置き土産。

大阪市 森 廣子  
引つ越します植えて行きますチューリップ

(評)次に入居する人が「あっ」と喜んでくれるか。それとも空き家でひっそり咲いているのか。想像するだけで楽しい置き土産。

豊中市 水野 黒兎  
さあと腰あげるが薬飲むため

(評)何を始めるのか?と思っていたら薬を飲むだけのこと。だが、高齢者には重要な薬。忘れていないのは呆けていない証拠。

横浜市 加藤 佳子  
旧姓で会いたい人に5キロ減

(評)もちろん、心を寄せていた人に違いはない。少しでもその頃の体形に近づきたいダイエット。果たして成功したのだろうか?

松江市 梅瀬みちを  
運命を知らずに牛は大欠伸

(評)トラックに乗せられてのんびりくつろいでいる牛たち。数時間後には解体されて食肉や皮革にされるとは知る由もなし。

豊橋市 西郷紀美代  
おしゃれよりグンゼのシャツが心地よい

(評)メーカー名や商品名を出すのは如何なものかと思うが、「グンゼのシャツ」が妙にリアル。特に寒い時期はおしゃれより実用だ。

神戸市 山口 光久  
コロナ禍で車内化粧がなくなつた

(評)他人の目も気にせず座席で眉や口元を塗つていた大胆不敵な女性たち。マスクのおかげで目障りな風景も失せてしまった。

米子市 後藤美恵子  
夫亡くしちよつと妬けます夫婦岩

(評)こ丁寧に注連縄で結ばれている幸せそうな夫婦岩。ちよつと妬けるのはまだ独り身の気楽さに慣れておられないのだろう。

三田市 村田 博  
悪石島地名なんとかならないか

(評)トカラ列島5番目の島で人口は約70

名。「悪」の文字が気になるが、住民にとつては愛着のある名で「余計なお世話」だろう。

大阪府 岩崎 玲子  
コロナ禍で賀状虚しく書いている

豊中市 齋藤奈津子  
年賀状むこうが先に止めるまで

大阪市 東 敏郎  
辛いけど賀状辞退と追記する

交野市 山野 双葉  
喪中ハガキ落ち葉のように降り積もる

広島市 岸本 清  
欠度を盛つて食レポ悲無し

鳥取県 山下 節子  
ケーキより好きなおやつはふかし芋

岡山県 高岡 茂子  
子育てはふかし芋孫にはケーキ

土佐清水市 辻内 次根  
焼き芋が咽喉をゆつくり降りていく

豊中市 松尾美智代  
ランチの店決めて娘と行く紅葉狩り

岩出市 村中 悦男  
あの渋さどこへ行ったか吊るし柿

枚方市 栃尾 奏子  
勝ち取った愛がまぶしいチョコレート

香芝市 山下 純子  
チョコアイス置いていないと落ちつかず

高槻市 島田千鶴子  
食べ頃です仏壇にあるラフランス



大阪府 大浦 福子  
あらかつと今日も失敗なんのその

青森県 月波 与生  
道草も計画表に書くべきか

弘前市 小山内真由美  
秋のまんま時の流れる不思議感

神戸市 奥澤洋次郎  
愛子さま二十歳大根足が頼もしい

神戸市 誓子  
小春日の落ち葉の山に寝てみたい

今治市 永井 松柏  
キムタクに体重だけは勝っている

友の計のあとで御歳暮が届く  
尼崎市 藤田 雪菜

出る杭はポコポコ打たれ強いのだ  
髪を切る日を決めかねる年の暮れ  
唐津市 坂本 蜂朗

包丁を研ぎ雑念も削ぎ落とす  
妻の腰曲がり反省させられる  
長岡京市 山田 葉子

現在地忘れた日は星仰ぐ  
予算立て決算なしのわが家計  
八幡市 武田 悦寛

豆腐屋のラッパ対犬の遠吠え  
特急の窓から見えぬ温暖化  
岡山県 藤澤 照代

「うまい棒」一つどうぞと五等賞  
銀行は解約しても札を言う

三田市 北野 哲男  
代名詞投げ合い夫婦恙なし

羽曳野市 宇都宮ちづる  
診察日できめく暇なカレンダー

鳥取市 岸本 宏章  
年金が無ければ俺は粗大ごみ

佐賀県 真島久美子  
針金のような指輪をくれた彼

枚方市 丹後屋 肇  
8Kの前でミカンの皮を剥く

大阪府 谷口 義  
もうええよ歳はお返し致します

吉右衛門いないこの世の桜かな  
逃げ隠れしないが喧嘩には弱い  
弘前市 高瀬 霜石

マニユアルにはないがよく効く鼻薬  
樺原市 居谷真理子  
ボス猿が選んでくれて飼育員

甘すぎる煮物黙って老夫婦  
自殺ならおひとり様で願います  
松江市 石橋 芳山

緩い頭七の段からやり直す  
コマーシャル今すぐ買えと急ぎ立てる  
大阪府 平井美智子

句会後は飲み放題と誘われる  
寝てる間に育つ子供と太る妻  
福井市 伊藤 良一

駅裏の再開発が消す昭和

堺市 奥 時雄  
閑居して間食避ける難しさ

コロナ下の救い女性の長電話  
鳥取市 福西 茶子  
お昼まで寝ても我が家は恙無い

死に際のごキプリ体で履くタイツ  
松江市 中筋 弘充  
カメ虫の研究し尽くした臭い

老人会へ出たことだけで褒められる  
神戸市 上田 和宏  
呆けると思われるから名は訊かぬ

若いもんと意見が合わん何でやろ  
沖繩県 宮 すみれ  
魔除けかなドクロ絵柄がのぞくシャツ

ゲームだと分かっけていても肩が凝る  
堺市 内藤 憲彦  
橋下徹の家は近所と自慢する

豊中市 きとうこみつ  
おいしいとほめたら作りすぎたよう

岡山県 山田 耕治  
踏ん張っているのころぶスニーカー  
大石 洋子

デフォルメをしたら少しはサマになる  
倉吉市 牧野 芳光  
大阪府 島田 明美

蠍座の私と乙女座の夫  
大阪府 高杉 力

母さんと呼び父さんと呼ばれてる

大阪市 岩崎 公誠  
考える脳を鍛えと医師笑う

北山まみどり  
半分はあなたのせいですと手抜き

狭尾川市 廣田 和織  
遠慮なく土足でやってくる老化

石川県 堀本のりひろ  
三振の山を築いて八十路来る

黒石市 石澤はる子  
長いものに巻かれてるのも楽じゃない

高槻市 片山かずお  
心美人を選べと子には言い聞かす

岩国市 上村 夢香  
県境を越えて街の灯クリスマス

米子市 竹村紀の治  
当てにした人から当ての物届く

貝塚市 吉道あかね  
目も耳も念押しされてばやけ出す

神戸市 横田 次郎  
ちょうど良い緩さを探る熟年期

鳥取市 奥田 由美  
フィットネスも三日でダウン息がとぶ

米子市 後藤 宏之  
スマホなしでもこのとおり生きてる

西宮市 高橋千賀子  
正座は無理でも歩ける足がある

神戸市 近藤 勝正  
開戦を基に我が年推し測る

沖縄県 禱 モモト  
寒暖のヒーター付きの敷蒲団

香南市 桑名 孝雄  
麻酔から覚めてキョロキョロこの世だ

鳥取市 前田 楓花  
誕生日わたしのための赤い服

宝塚市 太田としお  
家族会議老後の資金どないする

海南市 小谷 小雪  
心配の一つが消えて高い空

河内長野市 梶原 弘光  
脳回路に配線ミスのかかし

大山市 金子美千代  
新米の上手いと思うネーミング

池田市 太田 省三  
葬式に家紋の桔梗久しぶり

大阪市 岡田 恵子  
煩惱はトランクに詰め縁の下

弘前市 福士 慕情  
MRIパーカッションが始まった

河内長野市 穂口 正子  
速やかにシフトチェンジは晩年へ

岡山市 丹下 凱夫  
塩つべを気付け薬のように嘔む

大阪市 小野 雅美  
イケメンを見ても高鳴らないハート

大阪市 坂 裕之  
毎日の運動ちよつと増やしてる

高砂市 松尾柳右子  
ゆつくりと嘔んで誤嚥をせぬように

松山市 大内せつ子  
スローテンポの告白だつて火傷する

名古屋市 山本三樹夫  
低い投票率民主主義の危機

三田市 上田ひとみ  
私のコントロールは超苦手

大阪市 奥村 五月  
自殺などするなあ世も楽でない

西予市 黒田 茂代  
納豆とどうも仲よくなれません

府中市 岸田 武  
フィギュアのようにこけたら寝たがりだ

松山市 柳田かおる  
「只今留守にしています」居留守を使ってる

弘前市 稲見 則彦  
折り畳むわたしの歳を折り畳む

米子市 池田 美穂  
掛け声はいいが腰には届かない

堺市 村上 玄也  
腹の虫おさまるまでは黙秘する

神戸市 みぎわはな  
孫へのみやげワイン唐揚げポテチなど

熊本市 杉野 羅天  
地震の思い出 地面から「グウォーツ」

藤井寺市 鈴木いさお  
霊柩車だけはベンツで願いたい

大阪府 笠嶋 惠美  
毎日が指の体操五七五

大阪府 平賀 国和  
初夢は虎に跨り五七五

枚方市 山口弘委智  
句を学び句を支えとし去年今年

箕面市 出口セツ子  
一病息災 脳活性をする句作

寝屋川市 川本 信子  
締め切り日迫ってやつと脳動く

倉吉市 大羽 雄大  
エイヤツとちよつと投げやり締切日

高槻市 初代 正彦  
溝掃除よつしゃよつしゃとペンを置く

高槻市 松岡 篤  
投函を妻に頼むと結果良い

三田市 多田 雅尚  
川柳誌溜まっていくが捨て去れず

大阪市 今村 和男  
冬の朝布団の中で自粛中

奈良県 渡辺 富子  
コロナ後のドレスうきうきスタンバイ

池田市 倉本 一弥  
何度でもワクチン打つよ会えるなら

横浜市 川島 良子  
オミクロンどうあれマスク外せない

沖繩県 あらさくら  
マスクありでも薄化粧欠かせない

西宮市 福島 弘子  
薄化粧自己満足のマスク下

大阪市 榎本 舞夢  
マスクの御蔭ゴミ出しポストいそいそと

川西市 大坪 一徳  
素颜なら言えないこともマスクなら

尾道市 村上 和子  
マスクの下で老いてゆくお口元

箕面市 中山 春代  
×印貼られた椅子が拗ねている

津山市 高橋由紀女  
喋らないランチが不味くなってゆく

堺市 今井万紗子  
何時まで続くカラオケ喫茶閉まつてる

奈良市 米田 恭昌  
突然の閉業重いドラマ秘め

大洲市 花岡 順子  
もやもやはきつとコロナの副作用

大阪市 田中 廣子  
果ごもりで傷んだ足を鍛えます

奈良市 大久保眞澄  
敵ながらあつばれコロナ七変化

富田林市 山野 寿之  
杉玉の青は新酒を唆す

鳥取市 副井ゆたか  
冷蔵庫特別席に酒の友

寝屋川市 伊達 郁夫  
ビールだけ飲んで来ましたバスツアー

羽曳野市 吉村久仁雄  
一人宴会慣れてハシゴの数が増え

男鹿市 伊藤のぶよし  
老いたかな愛想よりもひとり酒

和歌山市 北原 昭枝  
しみりと聞き役をするコップ酒

富士見市 中島 通則  
ストレスを一気飲みするコップ酒

和歌山市 柏原 夕胡  
差して勝負したことがあるコップ酒

枚方市 藤田 武人  
割り勘の上司と酒は交わさない

米子市 成田 雨奇  
考えがまとまらないと酒が減る

札幌市 三浦 強一  
寅さんと呑む晩酌のああ甘露

箕面市 広島 巴子  
プリ大根夫熱燗スタンバイ

堺市 坂上 淳司  
粕汁をあてに熱燗寒い夜

香芝市 大内 朝子  
熱燗で養えた細胞呼び起こす

河内長野市 村上 直樹  
更けるまで飲もうよ月が誘うから

神戸市 敏森 廣光  
僕だって酒場放浪記ならやれる

豊中市 松田蟻日路  
眠ろうか今夜も酒にくるまれて

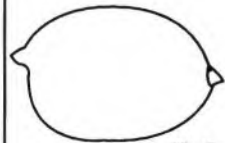
共選欄

檸檬

抄

(薰風書、カットとも)

(投句327名)



「淡 い」 稗原道夫選

初恋の少女ほんのり薄化粧

おしゃれして久方振りの淡い紅

控えめに淡い望みは持つている

アルバムへ淡くはかない僕の恋

面影が淡い景色の中にある

内緒にしたい言つてもみたい淡い恋

居なくても誰も困らぬ昼の月

雪舟の墨絵のような冬の海

門灯の淡い光が帰宅待つ

スリガラス人となりまで淡く見え

むらさきにはんのり染めて暮れる古都

輪郭が消えて景色に溶ける背

淡い色似合う八十路になりたくて

今日もまた淡いルージュのナースさん

ダイケアですてますプラトニックラブ

寝屋川市 川本 信子

和歌山市 上田 紀子

大阪市 近藤 正

宇都市 平田 実男

和歌山市 北原 昭枝

豊中市 齋藤奈津子

川西市 大坪 一徳

藤井寺市 鈴木いさお

明石市 瀬島流れ星

明石市 梶谷 和郎

奈良県 渡辺 富子

防府市 坂本 加代

長岡京市 山田 葉子

松江市 相見 柳歩

札幌市 三浦 強一

「淡 い」 久保田千代選

冬木立淡い思慕抱きほつぽつと

思い出にべールをかけるように雪

長姉逝くほんのり母の香を残し

今日送る母を飾った淡い紅

淡淡と受けとめました家族葬

同僚に捧げるうすずみの弔辞

逆縁に耐え淡々と喪主の謝辞

東雲の淡いあかりへ友は逝く

散り際の薄墨桜世の無常

うすむらさきの煙になった喪のはがき

薄墨の知らせ淡雪ふり積もる

火葬場の玉砂利踏めば淡い音

強く生きふんわり逝こうあの世へは

淡々と終着駅に向け老いる

薄味の味噌汁街から来た嫁女

三木市 山口ヨシエ

黒石市 北山まみどり

大阪市 田中ゆみ子

大阪市 小野 雅美

奈良県 長谷川崇明

三原市 笹重 耕三

堺市 澤井 敏治

桜井市 安土 理恵

富士見市 中島 道則

貝塚市 吉道あかね

岐阜県 喜多村正儀

堺市 柿花 和夫

八王子市 川名 洋子

堺市 坂上 淳司

鳥取市 池澤 大鯨

塩加減淡くやさしい茶わん蒸し	神戸市	石川	克美
やつとやつと淡い塩味馴れてきた	寝屋川市	富山ルイ子	
淡麗酒では見抜けない胸の奥	高槻市	原	洋志
薄味の恋しか口に合いません	松江市	梅瀬みちを	
ケンケンバ淡い思い出追う足よ	鳥取市	大前	安子
濃淡をこころ赴くままに描く	津山市	高橋由紀女	
淡雪や忘れられない人を恋う	山口市	中前	幸子
思い出にベールをかけるように雪	黒石市	北山まみどり	
溜息で消えそうになる淡い雪	大阪市	寺井	弘子
淡雪がふわりと抱いた庭の草	米子市	池田	美穂
淡淡と受けとめました家族葬	奈良県	長谷川崇明	
父と競った記憶も淡くなる露地よ	鳥取市	永原	昌鼓
母呼べばかすかに山びこが返る	西子市	黒田	茂代
思い出のモノクロームも淡くなり	堺市	奥	時雄
惚れ直す染井吉野の淡い色	大阪市	樋口	真
うす桃色纏うて春を刺激する	藤井寺市	太田扶美代	
うす桃色纏うて春を刺激する	松山市	柳田かおる	
淡いつて个性的ではないのよね	富田林市	中村	恵
初恋の淡い香りの花切手	奈良市	米田	恭昌
線香花火好きな少女の淡い恋	羽曳野市	三好	専平
さしあたりシヨパンに淡い恋をする	広島市	羽城	裕子
さくら貝淡く咲きます手の中で	東大阪市	佐々木満作	
黒髪が微かに触れた淡い恋			

薄口の深さなにわのうどん出汁	枚方市	藤田	武人
淡白な味が好みの医者いらす	和歌山市	上田	紀子
検診値しよう油ますます薄くさせ	塩竈市	木田比呂朗	
感情の淡さよ少し凹んでいる	和歌山市	柏原	夕胡
政治家を仄かに抱いていた野望	東大阪市	佐々木満作	
くつきりとはつきりさせぬ物語	三田市	上田ひとみ	
薄命の淡いピンクが愛おしい	河内長野市	梶原	弘光
老斑の手淡いマニキュア愛おしむ	大阪市	原田すみ子	
手に淡い温もり残る初曾孫	豊中市	藤井	則彦
むらさきにほんのり染めて暮れる古都	奈良県	渡辺	富子
淡い夢消えて流れる雲みつめ	河内長野市	藤塚	克三
やさしさは淡い甘さを知ってから	倉吉市	岡崎美知江	
淡雪を溶かす日差しのやわらかく	米子市	伊塚美枝子	
淡雪が溶けて春待つ露のとう	寝屋川市	川本	信子
淡雪に溶ける小さなわだかまり	高槻市	原	洋志
春一番吹けばバステルカラー着る	羽曳野市	宇都宮ちづる	
ジンファイーズシユワーと浮いた淡い声	米子市	後藤美恵子	
おぼろどうふのような恋抱いている	松江市	藤井	寿代
恋になる淡い期待をしたためる	橋本市	石田	隆彦
雪舟の墨絵のような冬の海	藤井寺市	鈴木いさお	
雨煙る少女の恋のむせび泣き	松山市	栗田	忠士
ルージユは濃い目デイサーピスの淡い恋	河内長野市	村上	直樹

淡い恋三分間のウルトラマン  
 淡色のでもコスモスは頬染めて  
 淡い恋でも後悔はしたくない  
 淡い恋美しいままラップする  
 恋かしら不整脈でもなさそうな  
 老いたとて恋はやっぱり淡い色  
 おぼろどうふのような恋抱いている  
 後戻りできずいらつく淡い恋  
 淡い恋幾つもあったって元気です  
 どの恋が淡い初恋だったのか  
 淡い恋八十路バージョン模索中  
 古い二人淡い昔に照れ笑い  
 淡々と語る百歳の生き様  
 年老いて拾い集める淡い夢  
 日だまりへ淡い期待をしてみましょう  
 淡い夢消えて流れる雲みつめ  
 月淡くそぞろに歩む思惟ひとつ  
 淡い欲捨て場に困り持ち歩く  
 淡ければ泡立草もきらわれぬ  
 コスモスに淡く溶け込む秋西  
 その笑顔淡い期待をしてみましょう  
 淡い期待悟られぬよう書く手紙

鳥取市	太田	睦子
羽曳野市	磯本	洋一
名古屋市	富田	末男
箕面市	出口セツ子	
堺市	内藤	憲彦
河内長野市	坂野	澄子
松江市	藤井	寿代
吹田市	西沢	司郎
大阪市	榎本	舞夢
尼崎市	羽奈	和子
奈良県	安福	和夫
米子市	後藤	宏之
三原市	鴨田	昭紀
奈良市	東	定生
神戸市	富永	恭子
河内長野市	藤塚	克三
三田市	稲角	優子
神戸市	横田	次郎
鳥取市	吉田孔美子	
鳥取県	門村	幸子
神戸市	能勢	利子
大阪市	小野	雅美

ゴム鉄砲項目掛けた淡い恋  
 思いでのページは淡い恋のまま  
 うすみどり会えばときめく冬日和  
 思い出はおぼろ繋いだ手の温さ  
 美化をしてのめり込んでる淡い恋  
 ラブソング淡い青春疼き出す  
 淡い恋 賀状廃止という便り  
 コスモスに淡く溶け込む秋茜  
 春風がふわりあなたを想う時  
 ひのき風呂ほのかに淡い木の香り  
 色褪せて女が淡く残ってる  
 わたくしを匿って月淡いまま  
 お月様淡い光でなに論ず  
 古傷は薄むらさきのままである  
 淡白に生きて俗世をスルーする  
 淡い期待抱かせてくれる朝の虹  
 淡い期待誘うサブリのコマーシャル  
 取東の淡い期待にオミクロン  
 淡い記憶もファイルに入れておく傘寿  
 確約の口約束が淡く消え  
 断捨離も淡い未練に涉らず  
 輪郭が消えて景色に溶ける背

富田林市	山野	寿之
東大阪市	西村	哲夫
土佐清水市	辻内	次根
倉吉市	牧野	芳光
尼崎市	清水久美子	
尼崎市	藤田	雪菜
川西市	山口	不動
鳥取県	門村	幸子
枚方市	栃尾	奏子
河内長野市	中島	一彌
富田林市	中村	恵
大阪市	島田	明美
芦屋市	岩崎	玲子
香南市	上野多恵子	
豊中市	桑名	孝雄
豊中市	松尾美智代	
鳥取市	岸本	宏章
豊中市	水野	黒兎
松江市	中筋	弘充
唐津市	山口	高明
三田市	北野	哲男
防府市	坂本	加代

小中高行く先々で淡い恋	堺市	坂上 淳司
借りた傘返したくない淡い恋	寝屋川市	長尾 千賀
微睡の中で拾った淡い恋	伊丹市	延寿庵野鶴
許されよ耳たぶほどの老いの恋	堺市	柿花 和夫
淡い恋消えないけれど淡いまま	加西市	山端なつみ
あの頃に会いたくなつて途中下車	貝塚市	吉道あかね
ほんのりとおしろい花か母の香か	大阪市	阪井 恵子
長姉逝くほんのり母の香を残し	大阪市	田中ゆみ子
異次元へ誘う木漏れ日淡い影	羽曳野市	藤原 大子
幽玄の淡墨一陣の風が吹く	神戸市	みぎわはな
こころにもないことを描く淡彩画	青森県	月波 与生
水墨画淡い景色にある怖さ	神戸市	城戸 誓子
自画像のバックは淡い色にする	堺市	村上 玄也
淡色を重ねいつしか群青に	和歌山市	まつもともこ
淡い期待抱かせてくれる朝の虹	豊中市	松尾美智代
弱虫のわたしに掛かる淡い虹	鳥取市	倉益 一瑤
消えかかると私をダブらせる	鳥取市	岸本 宏章
ひたすらに月に寄り添う淡い雲	大阪市	今村 和男
秀句		
淡い色重ねて春を待っている	大阪市	平井美智子
三日月に引つ掛けている淡い夢	神戸市	村松 久江
淡いピンクを温めているおばあちゃん	大阪市	森 廣子

掌が淡いやさしいだけの人	青森県	月波 与生
逆転に淡い望みをかけて立つ	寝屋川市	伊達 郁夫
淡いもの重ね此の世の端に座す	大阪市	平井美智子
淡いピンク着る百歳のエンディング	島根県	伊藤 寿美
淡い色似合う八十路になりたくて	長岡京市	山田 葉子
無聊の日淡い日差しに身を投げる	神戸市	敏森 廣光
日だまりへ淡い期待をしてしまう	神戸市	富永 恭子
淡白に見せかけ情の濃い女	奈良県	安福 和夫
過ぎ去ればほんの淡雪ほどのこと	橿原市	居谷真理子
飛んでつた一茶・雨情のしゃぼん玉	神戸市	長川 哲夫
しみじみと惹かれる伝統の和色	高槻市	初代 正彦
足るを知るなんとどのかな里の秋	枚方市	山口弘委智
錦秋を淡い色から足して描く	河内長野市	木見谷孝代
頼られて淡く色づく前頭葉	神戸市	横田 次郎
あわあわと母の化身か蜚舞う	神戸市	山崎 武彦
淡々と語る百歳の生き様	三原市	鴨田 昭紀
いい時代生きてきましたねえ君と	弘前市	高瀬 霜石
淡雪にもう故郷は音がない	羽曳野市	吉村久仁雄
秀句		
呑み込んだ異物も淡く淡くなる	鳥取県	斉尾くにこ
自画像のバックは淡い色にする	堺市	村上 玄也
幽玄の淡墨一陣の風が吹く	神戸市	みぎわはな

「ずばり」

(投句 231名)

村 田 博 選



百均の老眼鏡で用が足る  
好きですとずばり直球投げてみる  
娘にずばり言われて腹が立つけれど  
鏡よ鏡あんたも皺が増えたねえ  
里帰り僕の食べたい物ばかり  
おばあさんもババアと言われたら怒る  
ニョロニョロの鰻出刃包丁でグサッ  
争えんずばり血筋やDNA  
俺流で生きる死ぬまで頑固者  
白か黒か中間色はありません  
赤らめた頬で見抜いた片想い  
難局にずばり切り込む少女棋士  
急所突く虫も殺さぬ顔をして  
隠したい過去をずばりと占い師  
ずばり歳聞かずに干支で攻めてくる  
もやもやをずばりとペンが切り刻む  
女へとなり切る時は赤い紅  
占いがずばり当たると怖くなる  
ずばずばと言って答えが鳥流し  
恋女房ずばりと見抜く夫の嘘

岡山県 藤澤 照代  
香南市 桑名 孝雄  
西宮市 福島 弘子  
弘前市 高瀬 霜石  
神戸市 能勢 利子  
奈良市 大久保眞澄  
寝屋川市 川本 信子  
大阪府 高木 道子  
羽曳野市 吉村久仁雄  
松山市 栗田 忠士  
明石市 瀬島流れ星  
河内長野市 中島 一彌  
大阪府 大浦 福子  
鳥取市 福西 茶子  
堺市 澤井 敏治  
西予市 黒田 茂代  
河内長野市 坂野 澄子  
鳥取市 岸本 宏章  
高槻市 松岡 篤  
鳥取市 谷口回春子

あなたには生命線がありません  
胸の奥ずばり見通すレントゲン  
弱点をずばりつかれて非常ベル  
クチャクチャとガムを噛むのは嫌なんだ  
カタカナでキライ言われたもうあかん  
お前だけには直球で勝負する  
丸文字にずばり切られて死ぬコピペ  
さんびらの胡麻が急所を突いてくる  
Z世代ずばり物言うのも時世  
塗りつぶした数ページこそあの部分  
利酒でずばり蔵元まで当てる  
すいません社会の窓が開いています

佳 句

倉吉市 牧野 芳光  
大阪市 岩崎 公誠  
大阪市 岡田 恵子  
今治市 永井 松柏  
榎原市 居谷真理子  
岡山市 丹下 凱夫  
岐阜県 喜多村正儀  
青森県 月波 与生  
奈良市 米田 恭昌  
橋本市 石田 隆彦  
大阪市 古今堂蕉子  
横浜市 川島 良子  
貝塚市 吉道あかね  
大阪市 小野 雅美  
三田市 上田ひとみ  
松江市 中筋 弘充  
堺市 村上 玄也  
松山市 宮尾みのり  
宝塚市 太田としお  
笠岡市 藤井 智史

人

痛いとこ突くがフォローもしてくれる

地

私には大事な妻がごぞいます

天

直球で君のハートをロックオン

軸

盃を伏せて実はと裏話



「理由」

能勢利子選  
(投句 227名)



働けぬ理由にされているコロナ  
理由などない直感を信じてる  
一緒にいる理由なくても半世紀  
理由なく笑える頃は若かった  
理由だなんて一緒にいたいだけのこと  
はいという言葉の中にある素直  
不要不急会わぬ理由ができた嫁  
理由などなくてもいいの青い空  
欠席の理由は只の物忘れ  
どんな理由があろうとパワハラはあかん  
理由はあと 母はしっかりと抱きしめる  
結果から理由を探す解説者  
酒を飲む理由考え酒を飲む  
行く所ないから離婚せずにいる  
ケチケチは豊かな老後すこすため  
理由あって独りポツンと一軒家  
始まった何でどうして三歳児  
さまざまな理由抱える青テント  
あれもこれもコロナの所為にしておこう  
わけありの商品ばかり買うわが家

明石市 糀谷 和郎  
倉吉市 牧野 芳光  
岡山市 大石 洋子  
米子市 伊塚美枝子  
堺市 今井万紗子  
加古川市 山内 迪  
箕面市 酒井 紀華  
越谷市 久保田千代  
三田市 堀 正和  
高槻市 片山かずお  
三田市 稲角 優子  
三田市 村田 博  
大阪市 今村 和男  
神戸市 奥澤洋次郎  
可見市 板山まみ子  
藤井寺市 鈴木いさお  
西宮市 福島 弘子  
西宮市 高橋千賀子  
神戸市 上田 和宏  
大阪市 江島谷勝弘

日に二度のバスで返納せぬ免許  
夜逃げするわけは問うなど段ボール  
頑張れる理由は可愛い子の寝顔  
聞いて欲しいショートカットにした理由を  
豆腐好き栄養と値と柔らかさ  
理由など分からぬままに響き合う  
理由なく母はいつでも子の味方  
保証人理由を聞いたばかりに  
口実にいつも使った身内の死  
恋終る聞きたくもない君の理由  
訳もなくスキップしてる始発駅  
妥協した訳を知ってる空財布

佳句

めぐり逢う必然性の君と僕  
理由など聞かずに貸してくれた友  
診察の帰りの足の軽い事  
恋しくてワイン 切なくて熱燗  
かんざしにしたいから切る実なんてん  
泣いている理由は聞かず側に居る  
みんなで守るみんなで架けた虹だから  
たんぼぼになったの風が好きだから  
百一歳のために元気に生きてます

箕面市 出口セツ子  
大阪市 小野 雅美  
貝塚市 石田ひろ子  
豊中市 きとこみつ  
三田市 北野 哲男  
池田市 上山 堅坊  
羽曳野市 宇都宮ちづる  
黒石市 石澤はる子  
神戸市 山口 光久  
神戸市 みぎわはな  
八幡市 武田 悦寛  
大阪市 平井美智子

三田市 上田ひとみ  
大阪市 高杉 力  
河内長野市 落葉 ふみ  
尾道市 村上 和子  
尼崎市 清水久美子  
香芝市 大内 朝子  
弘前市 高瀬 霜石  
榎原市 居谷真理子

軸

百一歳のために元気に生きてます

# 初歩教室

題 一 器 用

## 西 出 楓 楽

今月から隔月で担当させていただく西出楓楽です。よろしくお願いいたします。

初心の頃、何度か先輩にお願いして添削をしていただいたことがあります。けれど、自分の意図するところとずれてしまったり、先輩の好みの表現になって、つまり自分の句ではなくなってしまうことがしばしばあり、今にして思えば生意気だけれど、心から納得がゆかないことがしばしばありました。

これから担当する批評や添削も、皆さんに同じ思いをさせることもあると思いましたが、あくまでも参考にして下さることを希望します。

●は原句、○は参考句とします。

### 〔添削をしたい句〕

●草笛吹く器用にこなす我が子供 ミヨノ

表現が重複していると言えましよう。つまり「吹く」と「器用にこなす」が重なっているわけです。たった十七音字の文芸です。一字一字を大切にしましょう。ほかに、すべてとは言いませんが、川柳は原則は自分を中心に見ます。ですから、我が子ども、我が孫、我が母などの「わが」は、ほとんどの場合不要です。作者はご自分の子供さんがお上手とのことを言いたかったのだと思いますが、自慢の句は感心しません。

○草笛を上手に吹いて子ら帰る

これで子供の学校帰りの情景が、目に浮かんでこないでしょうか。ご一考下さい。

●世渡りに手先のそれを生かせたら 不二夫

中7の「それ」に具体性が欲しかったと思います。この句を独立させて読むと、意味が曖昧になってしまいます。せっかく「器用」という題があるので、話は簡単。

あえてはつきりした表現をせず、詠み手に

想像をさせるテクニクもあります。初心者の皆さんの場合まずはすと胸に届く句を作ってほしいものです。

○世渡りに手先の器用生かせたら

●不器用も努力次第で物になる 厚子

確かに五七五にきっちり収まり、読み手を納得させてくれます。以前から我が家に、この句を認めた色紙を飾っていたら、息子達も或いは大成していたかも…なんて。しかし、この句は川柳ではなく「格言」なのです。つまり「深い経験を踏まえ簡潔に表現したい言葉、金言、箴言」(広辞苑)。厳しい言葉を許してもらえれば、余韻も感動もあります。戒めがあるのみです。巷で標語公募のチャンスに応募されたら、好成绩を得られるかも…。

○不器用も努力次第と父論す

●器用者引く手数多で損をする 和夫

器用貧乏という言葉があります。なまじ器用なため、あれこれ気が多く、また都合よく使われて大成しないこと。(広辞苑)

けれど、周りの人からはしばしば重宝され、感謝されるのです。私もし器用で人様のお役に立てるようなら、ネガティブに考えず誇らしく思うでしょう。

○器用者引く手数多でもっている

●木を削り仏像の顔彫り上げる ひとみ  
器用に彫りあがった仏像が目には浮かんできます。と言いたいところですが、顔のない仏像があるでしょうか。その上、このままですと、残念ながら単に仏像を彫ったという、事実を告げただけに終わっています。もう一步踏み込んでみようではありませんか。

○木を削り仏のいのち彫り上げる

●会議では目を開けた儘寝ています 陸子  
何を隠そう実は私も歳のせいとか講演の途中などで、しばしば睡魔に負けてしまうことがあります。講演者に申し訳ないやら、恥ずかしいやらで困っています。このような方法があればぜひご教示願いたいものです。ただ、ちょっと気になることを一言。そ

れは「儘」という表記です。平成元年の頃、本誌の編集長をしておられた田中正坊さんは、元業界紙の編集長という経歴をお持ちでした。言うまでもなくその道のプロですから、有難いことにいろいろ教えていただきました。その中の一つに「句や文書が、古い印象になるから、なるべく直すように」と厳しく指示された字があります。

例えば「為」「只昔」「程」「又」「尚」「具」「所為」「ゝ」「く」などなどです。作者の思い入れもあるでしょうが、参考にして下さい。

○会議では目を開けたまま寝ています

●苦言にも器用に返す「口答え」 風露  
原則、句には？、！、句読点、「」などは不要です。披講を（入選句を読み上げる）する場合説明に困ります。これらの符号・記号がなくても、表現で伝わるように作句してください。なお「口答え」を生かすには、上五を変えてみました。  
○屁理屈も器用にこなす口答え

今回は基本的な作句の注意を書きすぎ、肝心の添削が僅かになってしまいました。

●何事も熟せる夫軽い足 えい子

○何事も熟せる夫軽い腰

●不器用ね言われ続けてこの歳に 弥生

○不器用ね言われ続けて不感過ぎ

「佳くてきた句」

不器用が愛しく見えた日もあった 双葉

食パンの耳でスイーツさすがママ 和子

取り組みは弱いが初っ切りは上手い 蟻日路

どんな手をしているのかと握手する さくら

器用だと夫を煽て使うコツ 櫻良子

執念と器用さコラボ伊能地図 義明

抜け出せぬ器用貧乏八十路来る のりひろ

それだけで器用右投げ左打ち 通則

宿題のブラウス作り母出番 誓子

不器用を売りに器用に生きた人 秀爺

首総理器用だったらまだ総理 秀爺

不器用に生きたおやじと同じ道 行久

小器用が嵌ってしまう自己過信 行久

立ったまま器用に拾う足の指 くみ子

風呂敷でおしゃれに包むワイン瓶 くみ子

# 川柳塔鑑賞

同人吟 川端 一步

—1月号から

雨の日はしつとりジャズに浸ります

辻村 ヒロ

声を出して読むとほれほれする句とはこのことですね。何かジャズ音楽が聞こえて来るような気がしました。

自由です眠たくなれば本閉じる

工藤 千代子

これは読書に限らず、生きてゆくための知恵。寝る間が極楽、だれにも邪魔をされたくありません。

好運はあなたの妻になった事

西田 美恵子

ごちそうさまです。男としてこんな言葉聞いたらどんな気持になるのでしょうか、一度聞いてみたいものです。

僕から君を引けば風しか残らない

吉村 久仁雄

川柳の上手なのは知っていますが、まるでスタンダールの作品に出てくる恋の告白ではないかと思いました。

グループにやっぱ若い血がほしい

細田 裕花

いま川柳会にいちばん必要なことはこれだという句。全国の川柳社、川柳会が今年一年の目標に必ず一人以上若い血を。

大河の一滴なれど一句を残したい

澤井 敏治

志賀直哉の「ナイルの水の一滴」をテーマにして、卒業論文を書き上げた女子大生が、あの阪神淡路大震災で亡くなり、それが遺書になった新聞記事を思い出しました。選評になりませんが、彼女のご冥福をお祈りします。

好奇心尽きてないのでまだ若い

谷川 憲

先日亡くなった寂聴さんも好奇心について、その大事を再三述べておられました。ノーベル賞受賞者の真鍋さんも。

川柳が上手になる秘訣もこの好奇心かも知れませんね。

優しさを包む風呂敷大き目の

北澤 稠民

風呂敷の用途について先輩の教えがありますが、優しさを包むとは考えが及びませんでした。作者の広い心知りました。

秋深し「日本沈没」再読す

堀 正和

「日本沈没」が今になって話題になり再評価されるとは思いませんでした。文学的には喜ぶべきなのでしょうが、現実的には悲しい大変なことです。

起爆剤元氣な友を持つている

山岡 富美子

いい友の定義は広くて難しいと思いますが、句の通り元気をくれる友がいい友ですね。以心伝心、友だちもあなたの手をそう思っていることでしょう。

子はいいな友達すぐに出来るから

降幡 弘美

子供つていいな駆け引きなく喧嘩

田賀 八千代

「未来を担う君たちへ」と上からの目線だけでなく、子どもから学ぶ視線も大事かと。川柳界の後継者づくりのためにも子どもの句詠みましよう。

逢いたくて駅の階段まで駆ける

小野 雅美

作者が猛然と階段を駆け上がる姿が目  
に浮かぶ。「逢いたくて」がいい。作者は  
あちこちの句会に引つ張りタコだとか。

石畳スーツケースが演奏す

池澤 大鯨

京都ではよく見掛ける風景。人によっ  
ては雑音騒音が、澄んだところの人には  
音楽に聞こえる、羨ましい限りです。

「口だけは元氣」それでも儲けもん

門村 幸子

「儲けもん」この発想がいいですね。「口  
だけは元氣」ここを何かに変えて、みん  
なで合唱しましょう。

種やかに余生をひらがなで暮らす

鴨田 昭紀

ひらがなの余生とはどんな暮らしなの  
でしょう。分からないので一人で口遊ん  
でみました。分かったような気が少し。

常連に囲まれながら店を閉じ

高杉 力

コロナ禍の自粛で閉店に追い込まれた  
店。そこで働く人とその家族、政治はそ  
こまで手が届いたのだろうか。

息をするたびに老化が加速する

鈴木 いさお

これはおもしろい発見だ。ではどうす  
るか名案はないか。空気の中に、恋人の  
匂いがあると思つたらどうだろう。

夕焼けも仲間に入れてまあい一杯

竹村 紀の治

酒飲みにはいろいろなタイプがありま  
すが、「夕焼けも仲間」その壮大な発想  
に驚きました。明日の川柳に乾杯。

孫たちにご馳走しました敬老日

江島谷 勝弘

辞書には敬老日は「老人を敬愛し、そ  
の長寿を祝う日」ですが、実際は句のと  
おり、おじいちゃんが支払いを持つ日。  
身に覚えのない青アザが腕にある

大久保 眞澄

わたしの年齢では常にあることですが、  
お若い作者が覚えのないアザとはどう言う  
ことでしょう。謎か秘密か…。

酒の恩知知っているから止められぬ

伊達 郁夫

能筆家で世話好きでお話上手。それは  
お酒が育ててくれたのではないか。どう  
かお酒をやめないでください。

婦道記の尽くす女が美しい

永井 松栢

婦道記と言えば山本周五郎。私もファ  
ンで同意見ですが、女性の方の見方はど  
うでしょう。ぜひお聞きしたいです。

恋人に聞かせたくないほど音痴

松岡 篤

カラオケで上手な歌への拍手。音痴の  
歌への拍手。どちらが情のある拍手かと  
フト考えてみました。

コンサートしあわせそうな顔ばかり

久保田 千代

そう言えばみんないい顔していますね。  
どんな形であれ一日も早くコンサートが  
開催されて文化の風を吹かせたい。

まつしぐら香車のように生きてきた

藤井 宏造

世の男性の多くは、この生き方で家族  
のために走り続けて来た。気がつけば妻  
の手がこんなに荒れて…ないように。

若者が背負う未来を汚すまい

池田 美穂

コロナ後は何か始まりそうな風  
岸本 清

# 水煙抄鑑賞

—1月号から

内田 志津子

葬式に遠い親戚らしい人

大沢 のり子

宝クジに当たると親戚が増えるらしい。しかし、それが悲しいお葬式となれば、ありがたい事かも知れません。そこからお付き合いが広がる事もありますから。

地方紙に包まれ届くよもぎ餅

齋藤 奈津子

故郷からの宅配便でしょうか。野菜や果物ではなく、よもぎ餅が懐かしいですね。ほのほのとした気持が伝わってきます。妻が帰ると強気になる愛猫

村上 和子

生き物は家族にランクを付けると言い、ランクが下がると呼んでも振り向いてくれない。生き物は賢い。快適な暮らしかたを心得ているようです。

将来は幸せですと占い師

小松 くみ子

将来っていつですか？と聞きたい。もうそろそろの時かと思うのですが、いや、もうとつくにその時は来ているのかも知れません。

一昔富豪に見えた肥満体

中村 民子

なるほど肥満体はお金持ちの象徴ですか。確かに膨やかな人を見るとホッとするし、安定感がありますよね。肥満体も悪い事ばかりではなさそうです。

何思う介護する妻される母

宗 和夫

色々あった嫁と姑。何もかも棚上げにして介護する奥様と介護されるお母様。人事ではない身近な問題です。

賀状やめ君の噂は風便り

福島 一雄

年賀離れが加速している昨今。年に一度の生存確認の意もありましたが、こうなったらもう風に聞くしかありません。

君は何処でどうしているのやら。

聞き上手話し上手のいい会話

宮宅 比佐恵

聞き上手な人いますね。優しく目を見つめ、時々頷いたり微笑んだりしてくれ。話の中身より誰かに聞いてもらえた

事で満足しているのかも知れませんが。

地獄につながる一センチの段差

原 徳利

危ない危ない。この段差にひっかかる  
と歩けなくなる第一歩になりかねない。  
最後まで動かしたい足と口。  
急ぐ事はないからしつかり足元を確か  
めて歩きましょう。

皮下脂肪ついたわたくしまだ若い

伊藤 寿子

食べたらずぐ身になる。お若いですね。  
しかし、付いた脂肪を取るのは至難。寿  
子さんお気を付け下さい。

会える日は特等席を用意する

村松 久枝

特等席。絶景の席でしょうか、それと  
も一流シエフのお店でしょうか。いやきつ  
と奥様の手料理が並ぶ、暖かいおもてな  
し満載の席に違いありません。

身勝手な親が我が子を星にする

生田 えい子

少子化対策が一向に功を奏せずにいる  
一方で、大人のエゴで命を落とす子供達  
の多い事。星になってしまった子供達を  
思うと不憫でなりません。幼い子供が先  
に星になるのは老いの身には切ない。



歌は世につれ (2)

前回の国歌「君が代」や、軍歌「海ゆかば」などについては、歴史的な背景から「敬遠したい」という人も多いようです。しかし、同じように戦前から歌われてきた童謡や学校唱歌などはほとんどの人から親しまれ愛されています。

父さんは戦場にいる里の秋

介護する母と歌った里の秋

「里の秋」聴いて女の子にもどる

何もかも忘れて歌う赤とんぼ

赤とんぼ歌えば溢れ出る故郷

ボンネットバスで歌った赤とんぼ

浜千鳥歌うと父が蘇える

童謡の「里の秋」は、斎藤信夫作詞・海沼實作曲で川田正子が歌って昭和23年に発売されました。その3番の歌詞は、「さよならさよなら椰子の島 お舟にゆられて かえられる

ああ とうさんよご無事でと 今夜も母さんと祈ります」

というもので、戦地から帰還せぬ父の無事を祈っています。

また、やさしいメロデーと分かりやすい歌詞で頭に沁み込んでいる「赤とんぼ」は三木露風作詞・山田耕筰作曲で、広く愛唱されるようになったのは昭和40年にNHKの「みんなのうた」で取り上げられてからです。

「鐘の鳴る丘」を歌っている平和

凜の姿勢で「長崎の鐘」歌う

中村 英夫

大戸 和興

前田 楓花

北原おさ虫

藤澤 照代

米山 かず

小野美那子

藤井 智史

高杉 究作

口ずさむハワイ航路をスキップで  
五十年「夫婦春秋」そのままに

「赤いハンカチ」歌えば脚が長くなる

「なごり雪」歌って少し若返る

戦災孤児を描いたラジオドラマ「鐘の鳴る丘」の主題歌は

「とんがり帽子」ですが、「鐘の鳴る丘」と呼ばれる方が多い

ようです。戦災も知らずに歌えるのは平和の有り難さです。

「なごり雪」は伊勢正三の作詞作曲で「かぐや姫」が歌い

ましたが、昭和50年のイルカによるカバー・バージョンが大

ヒットしました。春先になると必ず流れてくるこの歌を聴く

と、胸がキュンとなる人も多いことでしょう。

どの星が昂か知らぬけど歌う

「野風増」で孫の門出に花添える

よそ行きの声で愛燦燦を唄う

雪国を唄いたくなるひとり酒

心地よく酔うて十八番の「孫」歌う

親不孝悔やんで歌う「吾亦紅」

歌詞を貼る「トイレの神様」はトイレ

谷村新司の壮大な「昂」は昭和55年に発売され大ヒットし

ました。山本寛之作曲の「野風増」は昭和59年の河島英五の

カバーによってヒット。美空ひばりの「愛燦燦」は昭和61年

の発売。川端康成の小説と同じ題名「雪国」は吉幾三の作詞

作曲で昭和61年の発売。大泉悦郎の「孫」は平成11年。すぎ

もとまさとの「吾亦紅」は平成19年。植村花菜の「トイレの

神様」は平成22年に、それぞれ発売されています。歌うたび

に心が広がり勇気づけられる歌は有り難いものです。

上山 一平

高森りん子

遠藤 哲平

古今堂薫子

水野 黒兔

澤井 敏治

鈴木いさお

笹重 耕三

中藤よし子

加島 由一

永見 心咲

# 『麻生路郎読本』余滴 (68)

## 「商業之大日本」の頃 ④

葉原道夫

10月号に路郎が幸兵衛の号で執筆した「衣服平等説」を、まず挙げておく。

質一つ置いたことのない大きな男が額をあつめ労働八時間説でいがみ合つてゐるが八時間働きたい者は八時間働き十時間働きたい者は十時間働けばいい、ぢやないか。十時間働かしたいと思つても手を抜いて十時間だけの能率をあげなければ何んの足しにもならないぢやないか。こんな事位でいがみ合ふのは労働者と資本家との間に理解がないといふ立派な証據だ。理解がなければ幾ら時間の上に制限してみても空々寂々である。自分の考へはそんな小ツッけな、けなち問題ではない。日本人が皆な一樣に夏は浴衣を、秋から冬、冬から春へかけては木綿物の黒緋を着ることを法律の力で實施するんだ。數年ならずして日本の富は莫大

なものとなる。夢々疑ふこと勿<sup>なか</sup>れである。風采で人をおどかす時代で無くつて、實力が尊重される時代が來たんだ。自分等は事毎に西洋の眞似をしてカラをつけたり頭髮を撫であげたり撫で下したりする必要がない。着物には主人も召使もない筈である。

一ト昔前までは船場の商家では店の者は浴衣は着られなかつた。手代格にならなければ羽織を着ることは許されなかつた。假令<sup>たと</sup>へ羽織を着ることを許されてゐるものにしても縞物に限られてゐたのである。それが時代の推移はそれ等の舊習を打破し遂には結界の撤廢と共に店員主人の別なく洋服をさへ採用するに至つたではないか。禮服を平民的にする位なれば日常服を平等にすることが怎れ位徹底するか知れない。

木村三郎が「今日も休みて」と題した短歌を35首寄せている。三郎は、半文錢の本名。半文錢が短歌も詠んでいたとは知らなかつた。貴重な資料なので全首挙げておく。

人の住む家にはあらじされどされど子は二人ありみな男の子

一つづ、子に餅あたへいで行けり思へば淋しその竹の皮包み

外に居れば人に追はれてゐる如く歸れば妻<sup>つま</sup>子に追はるゝに似たり

石コロのやつとかたまりし電車路に銀行許<sup>ばか</sup>り殖えて行きけり

一斤の水をかみてくださったる十年前の我よ歸り來よ

萩の茶屋に住むとし云へば磨かれし玄關をもつ我と思ひぬ

労働者のなかにもものしり顔をする彼なりしかな拘引せらる

なにかしの呉服屋が來てすゝめたる帯の値き、し妻を忘れ得ず

儲けたる人の噂さを正直に書く新聞に眼をそらしけり

妻のもつ其一<sup>そのひとつ</sup>緋の白粉は高貴御料とありな



すすべ知らず

覗きたる財布のなかに味氣なく我が眼に入  
りし穴のある五錢

我とわが咽喉をしむるに力足らず死なんと  
すれど我力足らず

友あまた絹物を着ていで行きし其一日を我  
たのします

ぢきに秋が來さうに思ひ子が割りし硝子障  
子を今日も氣にか、れり

挨拶はあと廻しにしてまづと云ふその一杯  
の酒が身にしむ

今日は何も酒のさかながない事をあはれみ  
を乞ふ如くに云ひき

時計買ひて可笑しかりけり十二時と七時の  
飯をひたすらにまつ

グツタリと家に歸れば身にぞしむ向ひの家  
のすき焼の匂ひ

ちや借りて行くよと彼のくり返す五圓は斯  
くも尊きものか

思はじとたゞ眞ツすぐに歩み行く我も淋し  
き身となりしか

コーヒやに家を忘れて飲んであり彼も子二  
人我も子二人

氣紛れに子をさし上げてみたりしがまざま  
ざ我のおとろへしを知る

飢えし時人と生れし儂なさまよ眼はゆくりな  
く子にそ、がれし

コーヒやのピアノに未だ觸れてみず彼の騒  
音は酒にふさはず

父が死なばいかにと問へば六歳の兄の方の  
が眼をしばた、く

角力取にせよと許りにす、められし五つに  
なる子牛の眞似する

酒の上の事ながらフト約したる生命保険の

醫師の來る日

子が投げしゴム手毬を追うて行くこ、ち失  
ひし金失ひし家

來ると云ふたゞ夫れだけの慰めを友ももつ  
なり我ももつなり

子が二人重なり合うて寝るを見る午前二時  
頃の蚊帳のひくさよ

たまに連れて親子四人が來てみれば堺は淋  
し海をみて止む

五萬圓拐帶せしと云ふ犯人が我なりしとき  
はいかにと思ひき

飲む事の外は語るに足らざれば逢ふもよし  
なし今日も葉書出さず

いたいけな子は一錢をにぎり居ぬ火鉢の上  
に妻が忘れしか

兄と云ふ名も悲しけれ六歳になる其子が書  
きしキムラトラタロ

(次回に続く)

## こんにちは 新同人です

### 楽しく川柳

大阪市 石田孝純

軽い気持ちで始めた川柳。雑誌や新聞、ラジオに投句して楽しんでいました。勿論殆どが没。たまに入選しても何が良くて入選したかが分からず、川柳入門の本を買ったりしましたが、よく理解できませんでした。

そんなある日、妻が家の近くで川柳の体験教室がある事を知り、基本から教えて貰えばと勝手に申込んできて、仕事をリタイヤした後でもありその体験教室に行きました。

その教室が平井美智子先生の教室で、先生の気さくなお人柄に惹かれそのまま、二〇一八年七月から先生の講座に参加致しました。先生の御指導や講座の皆さんとの句評のやりとりを経験し、またあちこちの句会に参加して少しずつ川柳が分かったような気持ちになりましたが、知れば知る程その奥深さに戸惑う事を繰り返しています。

二〇一九年七月に川柳塔の誌友に、二〇二一年四月に同人に推薦を頂き今日に至っておりますが、まだまだ同人としての力不足を痛感し学ぶべき事の多さに押し潰されそうな毎日です。しかし川柳を通して人との触れ合いや日常の中で気付かなかった新発見など嬉しい事も多々あり、これからも「楽しく川柳」を胸に川柳と向き合っていきたいと思っております。

### 言葉を紡ぐ楽しさ

三田市 稲角優子

このたびは、同人に推挙いただきありがとうございます。川柳歴は六年という若輩ですが、心豊かに生きていきたいと嬉しく思っております。

川柳との出会いは、図書館の川柳募集に始まります。

「図書館はおとぎの国の始発駅」この句が上位入選、少しのリズな時、カフェのマスターに「メダカの学校」を紹介していただきました。北野哲男先生の分かりよいご指導とそのトークの楽しいこと、すっかりその気になりました。

その後「川柳さんだ」に投句、句会出席となり上田ひとみ先生、堀正和先生にもご指導いただき川柳塔誌友へとなりました。

全没あり、突然のご褒美は明日の糧となり頑張れます。言葉を紡ぐ楽しさと奥深さに魅了され感動しております。同人の裾野の一人として今後ともよろしくお願い申し上げます。

私のモットー句

「煌めいていよう小さな花でよい」老いてもこうありたいと思いつくりました。

好きな句

生きるとはつくづく自分とのくさ

楓 楽

# こんにちは 新同人です

## ごあさつ

倉吉市 大羽雄大

この度同人に推挙していただきありがとうございます。気持ちを引き締め勉強してゆきたいと思っています。

振り返れば、目の手術をした時でしたから平成十八年、「川柳を楽しもう」とある教室の案内文を手にしたのが縁でした。以来大会へ、句会へ、そして新聞等に投句と少しづつ広げてゆきました。その中で二十七年塔の誌友となり現在に至っている次第です。

川柳を上達するにはどうすれば良いか、永遠の課題でしょう。多くの人の作品を読むこと、多く自分の作品を詠むこと。それには日記風に毎日コツコツ作りつづけることと教えられています。

責付かれなければ、また時間に追い込まれなければ出来ない者には難しいことです。自分を追い込むため出来る限り大会、句会等に投句参加しているところです。こういうことで上達に繋がるかはともかく、川柳との繋がりは持っています。

川柳は楽しい、この様な心境にいられます。でも句会の終った日、エイヤツと投函した夜はええも言われな

い開放感に浸ります。翌日からまた責付かれますが、よろしくお願いたします。

## 川柳を楽しむ

神戸市 輿水弘

十年くらい前、友人の山崎武彦さん達と会うと、いつも川柳の話をしているのを見ていました。それまで文芸的なことには無縁でしたが、勧められたこともあり、その気になって、神戸の六甲川柳会の前身、「メダカの学校」の勉強会に入会しました。そこでご指導いただいたのが創設者でもある山口光久代表でございました。

会員のたくさんの方を辛抱強く添削、ご指導いただきました。いつも川柳の基本の形を大切にされ、定石のスクリーンを通して、自作を点検することを勧められました。リズム、己を笑う、己をいじめる、隠れすむ悪、弱さ、狡さやクソッ、目頭が熱くなる感動など、素直にあらわすことが大切だと言われたことが勉強になりました。

しかし自作は、これらを詰め込み過ぎと言われ、ポイントを絞り深く掘り下げて詠むよう指導されました。いい句、抜ける句からは縁遠いのですが、新聞の文芸欄、柳誌に目を通すようになり、駄句、没句覚悟で三、四か所の川柳会にも投句しています。人生後半、生きる上で潤滑油になつていっているように感じています。

老人には手足、頭を働かせる機会を多く持つのがいいのですが、川柳以外に、マジック同好会、プール、ジムなど、元氣老人の仲間入りと目指しています。

今後共、皆様との交流、ご指導をいただけたら嬉しく思います。

私の句

渡らずに悔やんだ虹の橋がある

# こんにちは 新同人です

## 川柳に出会えて

奈良市 加藤 江里子

川柳に初めて触れたのは、子供達がまだ思春期の真只中の頃でした。夫の単身赴任も重なり、ふと目にした川柳に思いをぶつけてみました。その後、新聞投句を始め自分の句が載った時の感動は今も覚えています。当時書いていた大学ノートは私の宝物です。転勤で暮らした土地のこと、子供達の反抗期のこと、巣立ちのこと、母の介護等々。喜怒哀楽の思い出の数々が詰まっています。やがて時は経ち、三年前、渡辺富子さんの句集「ゆっくりと白紙の地図と旅をする」を友人から紹介されました。心に響くたくさんの句に出会い、私も句会に参加してみたいと思い、川柳塔ならに入会させて頂きました。ご縁に感謝いたしております。

このたび同人の仲間入りをさせて頂き、身の引き締まる思いです。どうぞよろしく御願い致します。

## 川柳 出会いに感謝

寝屋川市 川本 信子

このたびは同人に推挙頂き有難うございました。川柳を作るきっかけは、平成二十六年、五十二年間続けた商売に幕を降ろし、真逆の自由気儘な生活が始まりました。今までの反動で、羽が生えた鳥のように、あちこち出歩き、それなりに楽しかったのですが、何か趣味でも思っていたところ、近所の川柳ねやがわの奥様と偶然道で出会い川柳句会へのお誘いを受けました。何回か出席している内に、楽しい雰囲気になり、お仲間に入れて頂きました。

元来、俳句、川柳など文芸には無縁で、ゼロからの出発です。手探りの状態で、新家完司先生、三宅保州先生の書を読んだり、毎月二ヶ所の投句、二ヶ所の句会に出向き、諸先輩の句に出合っ、勉強をしました。

川柳を始めて以来五年余り、その間入院、通院、身内の介護、コロナの自粛で句会の中止等で、川柳に集中出来ない時期もありましたが、何とか乗り切れたのは川柳を作る楽しさを知ったからだと思います。

八十歳から脳も増々劣えてきました。川柳を作る事によって脳活性になるのではないかと期待しています。

同人になったからには、今まで以上に頑張ります。まだまだ未熟者ではありますが、今後共宜しくお願い致します。

## わが道

阿南市 小畑定弘

二〇歳の頃、近隣の郵便局で短歌・川柳をやっていた三歳上の先輩に勧められ始めた。初めて作歌、作句した作品が徳島新聞の徳島歌壇・徳島柳壇に初入選した。選者は当代一流の松村英一・川上三太郎先生だった。二二歳の時に徳島県川柳大会でベテランを押えて最優秀賞を獲得した。二四歳で「ふあうすと」社の同人に推挙された。

その後全国郵政川柳人連盟（川柳ポスト）に入会。全国各プロック持ち回りの全国大会、プロック大会を主戦場にして腕を磨いた。鈴木如仙、泉比呂史、小島蘭幸ら全国トップクラスの柳人と腕を競った。同時に短歌も角川短歌で若手叙情歌人として注目を浴びた。三三歳の時「昭和万葉集十六巻」に戦後生れの一号歌人として採録された。

四二歳から管理職となり「川柳ポスト」のみの活動となったが、六三歳の定年退職後に再び文芸に火が付き、短歌、俳句、川柳の三つのジャンルで精力的に活動している。「川柳句集」は川柳作家ベストコレクション「ロスタイム妻よ夕日を見にゆこう」第二句集を近日発表予定。短歌は、水薺本社同人、四国水薺代表、阿南短歌会会長、徳島文学賞（川柳）受賞、徳島柳壇賞、日本歌人クラブ会員、徳島ペンクラブ会員、徳島俳壇賞。

## 楽しい川柳を、これからも

神戸市 近藤藤勝正

38年間の教員生活を終え、家でブラブラしている姿を見かねた妻が探してきたのが「吹き矢」でした。続けているうちに指導者の資格が取れました。次もまた妻が見つけたのが「森林ボランティア」で、田舎育ちの小生には合った仕事でした。それでも時間に余裕があり、またまた妻の助言で三田市の「日本語サロン」で外国人に日本語を教えることになり、それまでの経験を生かせ楽しく取り組んでいました。

そんな時、吹き矢仲間が誘ってくれたのが「川柳」でした。誘われるままにその人の顔を立て一度だけのつもりで句会に出席しました。その句会の先生は開口一番「楽しくなければ川柳でない」と言われ、その言葉通り楽しい2時間でした。それですっかり川柳のとりこになってしまいました。それが今から7年前です。今も続けているのは川柳だけで、「楽しい川柳」作りに励んでいます。

ある時、著名な先生のお話を聞く機会がありました。お話の中で先生は「お作りになった句を奥様にお見せし、彼女が良いという句は外しなさい。素人に分かる句はいい句ではありません」と言われ、いつ時迷いましたが今も下手ではありますが、妻にも分ってもらえる楽しい句を作り続けています。これからも。

## こんにちは 新同人です

### 川柳との出会い

神戸市 斎藤隆浩

私が川柳を始めたのは、退職をした二〇一八年三月、友人に誘われて川柳教室に足を運んだことがきっかけです。上野多恵子先生から「川柳塔の句会に行きませんか」と誘われ、同年八月の本社句会に、席題とは何かも分からず参加しました。当日会場に入ると、席題は「仏」だったので、私は短冊に「席題も知らぬが仏初参加」と書いて提出しました。披露が始まって二人目に何と私の句が読み上げられたので、驚いて大きな声で返事をしたことが懐かしいです。

その句が九月号に掲載され、十月号では句会燦燦で紹介されて感激。それから句会に参加するようになり、九月からは誌友として水煙抄にも投句をするようになりました。

句会も続けたことで、二〇一九年本社句会皆勤賞を頂いたことも励みになり、だんだん川柳が楽しくなってきた矢先、コロナ禍により句会がお休みとなり寂しい思いをしましたが、新年よりまた以前のように皆さんとお会いし、声が聴ける句会に参加できることを楽しみにしています。

#### 誌上より元気をもらっ句会場

これからも川柳とテニスの二刀流で、心身ともに健康な生活を送りたいと考えています。今後ともどうぞ宜しくお願いします。

### 川柳との出会い

三原市 笹重耕三

川柳との出会いは、二〇〇九年九月に、地元紙の時事川柳に投句し掲載されたのがきっかけです。民主党政権が誕生したところで、私にもヤル気を起こさせてくれたのです。その後、NHK学園の川柳講座を受講するのですが、名立たる講師の先生方から添削指導を受ける中、川柳も文芸ですとの一文、ハチ巻きを締め直した記憶は今でも思い出されます。

受講半年後から、川柳専門誌の「川柳マガジン」にも投句を始め、新聞・川柳講座・マガジンにと挑戦するなか、二〇一四年三月のNHK学園美作川柳大会が岡山県津山市であり出席しました。その会場で、川柳奉行三原川柳会の創始者の野村賢悟氏、現会長の鴨田昭紀氏に声を掛けていただき、翌四月から句会に出席させていただくようになりました。

今更ながらですが、川柳の奥深さにプチ当たっております。体調を整えながら、仲間の激励をいただきながら、人生を、平和を、ヒロシマを詠み続けて参ります。

今後ともご指導のほど、よろしくお願ひいたします。

## 「汐留川柳会」という原点

今治市 永井松柏

退職後、気心の知れた仲間たちと、川柳をつまみに酒を飲みながら大いに語り合おうじゃないかという会を立ち上げたのが十年前。メンバー五人全員、川柳には全く不案内であったが、毎月一度課題を決めて自分たちの川柳を持ち寄り、熱く楽しい時間を過ごした「汐留川柳会」であった。

併行してNHK川柳講座で大木俊秀先生の警咳に接する機会を得たり、青森、秋田、山梨の全国川柳大会に旅行気分で行かされて大いなる挫折感を味わったものだ。数年後、私は母の介護のため生まれ故郷の今治市にUターン。地元汐留川柳社に参画し川柳に取り組むことになった。愛媛県レベルの川柳大会へも参加するにつれ、次第に川柳の輪が広がり、川柳関係の先輩、仲間が増えていった。

満七十歳になった二〇一八年には友人のすすめで初めての句集「碇泊地」を自費出版することができた。

二〇一九年に松山市の先輩栗田忠士さんのご紹介で川柳塔社に入会。同年、仲間たちと「ひうち川柳研究会」を設立し、相互研鑽に励んでいる。足を悪くしてゴルフを断念せざるを得なかった私にとって、川柳は私の杖であり生きがいである。

私の好きな一句

大好きな人と芒が原にいる

小島 蘭 幸

## いつか「和の心」を織れるように

寝屋川市 廣田和織

この度は同人としてお仲間に入れて頂きありがとうございます。

同人の皆様のを、いつか自分もこんな風に詠めればいいなと思いつきながら拝読しておりました。川柳塔同人として、向上に努めてまいります。

川柳との出会いは、よくある定年後の趣味探しからでした。

元々、言葉に興味があった私は「NHKの初めての川柳」を受講しました。そこで基本を教えて頂き、添削をして頂きました。褒めて頂くとうれしくて、次はもっといい作品をと欲が出たのを覚えています。

絵画では先人の絵を模写したり、音楽では目標とするグループの演奏を「完コピ」したりして腕を磨いていくように、私は心に残った「言葉の使い方」や「表現の仕方」をエクセルに残し、言葉の引き出しを増やしています。心に残った「一句」も膨大なものになりました。

日本語の多彩な表現方法や微妙な移り変わりの表現の仕方に憧れ、いつか「和の心」織りなせるようにと雅号を本名にちなみ、「和織」とさせて頂きました。

今後ともよろしくお願ひいたします。

# こんにちは 新同人です

## 川柳に学ぶ

丹波篠山市 藤井 美智子

川柳を読むのが好きから始まった私の川柳との出会い。友人に勧められ入会となりました。人様の句を読む事は簡単だが、自分の句を詠む事は至難の業。日々の暮らしに追われていた四十代、時間のゆとりもなく、二年余りでギブアップとなつてしまいました。数年後またお誘いを受けて、句作りの難しさを経験済みの私はもう二度とと思う反面、何か惹かれるものを感じ、再び句会に席を置く事になり、無事十七年目を迎えています。

川柳を始めてしばらくの頃、句会で、お題は「豆」。黒豆が上手に炊けてほつとする。と詠んだ句が秀句に選ばれました。こんな平凡な句がと驚きましたが、黒豆をふっくら美味しく炊くのはむづかしい、でも炊けた!!と喜びと安堵感が何える良い句だと師にお褒めを頂いた。これこそ心を詠んだ川柳だと、学ばせて頂きました。私の句作りの原点になつていような気がしています。

これまで沢山の句を作つて来ましたが、自分の思いや相手への思いやりを、五七五に込める事のむづかしさ、奥深さをいつも感じています。そして先生方より、身に余るご推薦を頂きありがとうございます。お受けした事に、一抹の不安もありますが、マイペースで、プラス思考で、句作りを楽しく学ばせて頂きたいと思えます。

## 川柳を生きがいに

境港市 藤原 久直

この度同人に推薦して頂き有難うございました。

川柳を始めたきっかけは約六年前サラリーマン川柳を見てからです。その時、川柳はなんと面白い文芸だと思えました。さっそく川柳を詠もうと思ひ川柳の講座を取り寄せて、ユーキャン川柳入門講座を平成二十八年十二月から翌年三月まで通信講座を受けました。講座を受けながら日本海柳壇に投稿を平成二十九年一月から開始、当年五月に詠んだ句が【客】に入選してびつくりしました。運が良かったのか年末にこの句が日本海柳壇第四十一回茗人賞佳作で表彰され、二度びつくりしました。この時に川柳を生涯の生きがいにしようと思ひました。

平成三十年四月きゃらほく川柳会に入会させて頂きました。きゃらほく川柳会には素晴らしい先生方がおられます。八木千代先生、政岡日枝子先生、竹村紀の治会長その他良い仲間ばかりです。句会は何時も楽しく温かいご指導を受けております。

川柳塔初歩教室は令和二年一月号高瀬霜石先生に投句しました【題・熱心】で卒業させて頂きました。まだまだ未熟な私ですが川柳を愉しみ日々精進します。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

初入賞の句【課題・並木】

老夫婦並木のように手をつなぐ



## こんにちは 新同人です

### ひよつ子の日常と夢

大阪市 降幡弘美

はじめまして。大阪市在住の降幡博美です。名字は「ふりはた」と読みます。現在、小一の男児を育てつつ、某学習塾で週二日働いています。

私が川柳を始めたきっかけは、某新聞の川柳欄を讀んでいて、「私も出したら載るかな？」くらいの軽い気持ちで始めました。初めて載るまでは少し時間がかかりました。まだ川柳歴三年、知識もほとんどなく、勉強中のひよつ子です。川柳を始めてから電車の中、息子や学習塾の子供たちの発想や会話に興味をもち、おもしろいことを川柳にとり入れていきます。子どもたちの発想は本当におもしろく、大人になつて忘れていたことを思い出させてくれます。また、たまたま信号待ち（やたら待たされる信号）をしているオバちゃん達の会話もネタがたくさんあります。川柳以外で好きなことは、自句にもあるのですが野球観戦です。ほぼ月一回は現地に行きます。

「呼吸すら忘れて見入る好ゲーム」（川柳塔十月号）

現地観戦の魅力は、やはりファンの方々との交流と楽しい時間の共有です。

いつか子供たちに川柳の楽しさを伝えていくことが私の夢です。今後ともよろしくお願いします。

### お礼と課題

鳥取県 本庄汪

この度「同人」への推挙を頂き、誠に光栄の至りで有り、感謝申し上げます。

兼題「音」。ポリボリの音にほだされ全部食べ。ちょうど十年前、某地方紙への投稿で、初入選した句である。勿論どこの句会にも属さない、所謂一匹狼として、新聞への投稿でスタートした。その後友人に誘われ、同好会への入会が認められ、今日に至っている。

元来横着、として来ている私、今でもそんなに多く作句をしている訳ではないが、いつもメッキリギリボーイズ！ 従つてなかなか名句？ が浮かばないのが、課題である。皆様の句を読むと、本当に上手い！ 为什么呢？ と思う。「さわやか」で、「品が良く」、「センスの良い」句が出来ればと、いつも思つてはいるが……！ 課題は分かっているようで有り……？ 今後ほもつとじっくり「読み直し」、「訂正」した上で、の作句を心掛けて、精進したいと思う。

# こんにちは 新同人です

## Viva・Viva川柳

名古屋山本三樹夫

私と川柳との出会いは職場の先輩に誘われてからです。当初は高尚でむつかしい文学だと思いお断りを致しておりましたが、先輩が芭蕉翁の俳句の様に五七五を守り自分の身の回りのこと、考えたことを句にすればよいと口説かれて先輩の句会に出席することにしました。

けれども下手で乗り気がせず止めようかとも思いました。或る大会の投句で「雨」の兼題で（街角で誰を待つのか赤い傘）が特選となり、大変嬉しく以後いろいろの方の本や参考書を読み漁りました。

その割に上達もせず駄句の日日でした。或る時ずか（青砥たかこさん主幹）の大会で「待」の兼題で木本朱夏さんの天位となった句（峰打ちの情けを知つてから男）に脳天を突かれました。

それは昔の武士社会の厳しさと、現代の男の生き方を比較したのかも知れません。

川柳塔同人の友達に誌友に誘われ二年、このたび私も同人に加えて戴き感謝に耐えませぬ。

蘭幸先生が「桐の箱」で書いておられた「静水師」の言葉を宝として、今後とも精進をしたいと思う次第です。

### 令和4年度「咲くやこの花賞」題と選者

- 第1回 「運の良い人」 森中恵美子 2月20日必着
- 第2回 「嗜 好」 赤松ますみ 3月20日必着
- 第3回 「とんちんかん」 小島 蘭幸 4月20日必着
- 第4回 「浴びる」 仁多見千絵 5月20日必着
- 第5回 「ノンストップ」 前年度優勝者 6月20日必着
- 第6回 「果物類」 斉藤 理恵 7月20日必着
- 第7回 「裏切る」 井上 一筒 8月20日必着
- 第8回 「愛すればこそ（詠込み不可）」 笠嶋恵美子 9月20日必着
- 第9回 「ポール」 天根 夢草 10月20日必着
- 第10回 「命が二つあったら」 樋口由紀子 11月20日必着
- 第11回 「ガチガチ」 中野 六助 12月20日必着
- 第12回 「粉もん」 新家 完司 1月20日必着

○ハガキに2句 毎月20日必着

○投句先 532-0033 大阪市淀川区新高6-7-5 鶴田 寿子

○投句料（掲載誌代を含む）一年分2000円

○送金先 547-0006 大阪市平野区加美正覚寺

3-5-5-304

○主催 「川柳 瓦版の会」

立 蔵 信 子

TEL・FAX 072-953-8700

二〇二一年（令和三年）

# 十二月本社誌上旬会

投句者238人

## 兼題「焦る」

米澤 俊子 選

- 焦るな転ぶな私に合う歩幅 広島 小川 道子
- ないないとポケット探るレジの前 宮崎 黒木 栄子
- 焦ったら焦った結果しか出ない 広島 田辺与志魚
- テレワーク僕の机が見当らぬ 秋田 田村美穂子
- 誤字脱字ペンの走りに増す焦り 大阪 西沢 司郎
- 焦るほど解けぬ難問もつれ糸 大阪 山本希久子
- かさぶたを焦って取って傷戻り 和歌山 村中 悦男
- 焦るほどツキはどんどん逃げてゆく 和歌山 柏原 夕胡
- 焦っても動じてくれぬ信号機 鳥取 大羽 雄大
- 二番手が背後に迫る息遣い 大阪 村上 玄也
- 猛吹雪遅れる列車受験生 大阪 丹後屋 肇
- 鍵がない出掛ける前のひと騒ぎ 大阪 阪井 恵子

- 落ち着いてゆつくり聞いてあげるから 大阪 中村 恵
- 焦るからまた忘れ物してしまふ 兵庫 吉村めぐみ
- 不妊治療焦れど来ないコウノトリ 愛知 山田 初男
- 拉致家族の焦燥感につまされる 鳥取 岸本 宏章
- 焦ったら負けよと亀のマイペース 鳥根 加本 精一
- 焦っても口ほど体動かない 大阪 山内規子子
- エンジンのかかりの遅い老い焦る 大阪 小山恵美子
- 焦るまい片道切符しか持たぬ 大阪 伊達 郁夫
- 長生きに焦っています預金帳 鳥取 竹村紀の治
- つい焦り乗りそこなつた玉の輿 兵庫 永田 紀恵
- 人並みにせかせか焦る十二月 兵庫 藤田 雪菜
- 焦っても老化足から頭から 京都 山田 葉子
- のど元の名前が出ない気の焦り 和歌山 石田 隆彦
- 追い越した途端に回る赤ランプ 兵庫 敏森 廣光
- 試験場へ鉛筆忘れ焦る夢 愛知 小松くみ子
- 待ち合わせ無くなっていたそのお店 兵庫 上田ひとみ
- デジタル化進むわたしを置き去りに 大阪 西出 楓楽
- 娘の彼がボクを呼ぶのに「お父さん」 大阪 水野 黒兔
- 悔しいが友のおめでた拍手する 大阪 松岡 篤

スーパーで診察カード出しました

大阪 島田 明美

焦っても十月十日はかかります

兵庫 太田としお

弟に先を越されて三浪目

兵庫 能勢 利子

急いでいるのに話の長い人が来る

大阪 片山かずお

渋滞中お腹が痛くなってきた

兵庫 斎藤 隆浩

靴下に穴が開いてた座敷席

徳島 小畑 定弘

衰える肌へ高価な無駄遣い

兵庫 萩原 狸月

ライバルがマドンナの手を引いている

鳥根 中筋 弘充

誤字脱字行間までも焦ってる

岡山 尾原 洋子

菓子折に入れる論吉がまだ足りぬ

兵庫 みぎわはな

雨が降る黒い土囊にまた豪雨

広島 松尾 信彦

喜寿過ぎて大器晩成焦り出す

岡山 藤澤 照代

世界中阻止へと焦る温暖化

大阪 上山 堅坊

焦ってるな貧乏ゆすり止まらない

兵庫 上野多恵子

目の前の人の名前が出てこない

大阪 平賀 国和

ほろほろと残り時間が減ってゆく

大阪 平井美智子

縮まらぬ距離感とても焦れたい

大阪 阪本 秀子

夜何度電話かけても出ない母

奈良 高橋 敬子

元カノがくれたセーター妻が褒め

兵庫 緒方美津子

天

奈良 高橋 敬子

前にあるAEDが使えない

大阪 佐々木満作

地

奈良 高橋 敬子

もつれ糸焦れば焦るほど絡む

宮崎 恵利 菊江

喪服だけ持って黒靴置いて来た

兵庫 富永 恭子

泥濘に嵌まりタイヤが空回り

大阪 齋藤奈津子

軸

兵庫 富永 恭子

駅中店焦って吸る熱い蕎麦

兵庫 清水久美子

泣き過ぎて片方とれたつけ睫

兵庫 富永 恭子

痛告知されてあたふたしてしまふ

大阪 山岡富美子

兼題「ちらちら」

岸本 宏章 選

焦っても仕方がないと余命表

愛媛 栗田 忠士

ちらちらと見るだけだった好きだった

奈良 山下 純子

警報音まだ踏切を出ていない

大阪 今井万紗子

兼題「ちらちら」

岸本 宏章 選

焦っても終着駅はまだ見えず

大阪 藤田 武人

兼題「ちらちら」

岸本 宏章 選

トンネルで地震警報鳴り響く

大阪 藤田 武人

兼題「ちらちら」

岸本 宏章 選

ちらちらと舞い散る木の葉冬を告げ	鳥取	伊塚美枝子	度々のサイン見逃す野暮なひと	兵庫	上田ひとみ
ちらちらと雪舞う夜は鍋にする	兵庫	清水久美子	老いてなお過去の肩書きちらつかせ	兵庫	永田 紀恵
ちらちらと母を残した里に雪	徳島	小畑 定弘	ちらちらの雪では済まぬ北の国	福島	柳沼 幸三
まつたけ売場ちらちら眺め通るだけ	兵庫	藤岡 りこ	ちらちらと見せる下着でおしゃれする	大阪	齋藤奈津子
興味ない会話ちらちら見る時計	大阪	阪井 恵子	ちらちらとハザードランプ点く卒寿	鳥根	伊藤 寿美
ゴミを出すカラスの視線受けながら	大阪	島田 明美	枯葉舞うベンチで見てる杖と杖	大阪	池田 和子
ちらちらと視線気になるノーマスク	和歌山	定松 宏枝	ちらちらとうわさが走る元氣そう	大阪	西沢 司郎
相撲より美女が気になる砂被り	兵庫	村田 博	ちらちらのお国訛りにある温み	大阪	内藤 憲彦
満天の星が煌めく冬銀河	大阪	井澤 壽峰	離婚届けちらちらさせてまだ夫婦	大阪	岡田 恵子
ちらちらと見て見ない振りするおとな	鳥取	山本ふみ子	片鱗をちらちら見せる三才児	奈良	大内 朝子
待合室進まぬ時計気にかかり	兵庫	宗 和夫	もう一合ちらちら妻の顔を見る	大阪	柿花 和夫
素通りは駄目よと紅い灯がゆれる	鳥取	竹村紀の治	ネオンちらちらおいでおいでと呼ぶんです	大阪	澤井 敏治
ちらちらと諭吉見せられ気がかわる	奈良	中堀 優	相続へちらちらエゴが見え隠れ	奈良	渡辺 富子
ちらちらと灯りが見えて郷の駅	福井	西谷 公造	国々の利害ちらちらするCOP	大阪	西出 楓楽
愚痴こぼすちらちら自慢覗かせて	大阪	石田ひろ子	潤む目に街の明かりが遠ざかる	大阪	今村 和男
気があるのかな彼女ちらちらボクを見る	大阪	片山かずお	隠しても見え隠れしている本音	富山	伴 よしお
ちらちらのうちは気になる若白髪	兵庫	萩原 狸月	やっぱりね別れそうだという噂	奈良	蚊野 ゆり
妻の顔ちらちらと見て返事する	兵庫	米田利恵子	ちらちらといじめ見ても見えぬふり	奈良	高橋 敬子
失敗談過去の肩書きちらつかす	兵庫	北野 哲男	風花のちらちらと喪のはがき	大阪	美馬りゆうこ

ちらちらと笑顔の下に出る野心

宮城 木田比呂朗

認知症ちらちらとその予兆出る

鳥取 成田 雨奇

イエローカード妻がときどきちらつかす

大阪 原 洋志

隠すから見たい見えないから見たい

大阪 栃尾 奏子

ちらちらと顔を出すジキルとハイド

愛媛 黒田 茂代

年の瀬にねぐらを探す背に小雪

愛知 山田 初男

ちらちらと噂ひろがりゴールイン

大阪 牧田 成子

視線ちらちら慌ててマスク付けました

大阪 宇都満知子

神さまがちらちら雲間から覗く

鳥取 新家 完司

冗談を飛ばしちらちら出す本音

大阪 藤原 大子

漁り火がちらちら旅の酒沁みる

和歌山 木本 朱夏

ちらちらと煩惱抱いて聴く法話

山口 上村 夢香

センスいい人に出合っつてつい見とれ

兵庫 富永 恭子

佳句

ちらちらと父の認知が影に出る

広島 松尾 信彦

ちらちらと心の奥にある野心

大阪 佐々木満作

生き様をちらちら見てる仏様

岡山 古山はつ子

時折はうかぶ邪念と戯れる

大阪 渡辺たかき

ちらちらと脳裏を過る終る日を

和歌山 佐藤 まき

人

おかげんはいかがお噂ちらちらと

奈良 安土 理恵

地

ちらちらと女は女を値踏みする

京都 清水 英旺

天

神さまは助けてくれないが見てる

青森 高瀬 霜石

軸

満天の星のひとつに父母がいる

兼題「こりこり」

森松まつお 選

二年間コロナに自粛させられる

大阪 片山かずお

アクリル板を隔てて食事味気ない

大阪 水野 黒兎

原発を何故こりこりと言わんのだ

静岡 水品 団石

原発稼働もうこりこりのはずですよ

大阪 宇都満知子

もうこりこり二度と戦をしてならぬ

大阪 川端 一步

敗戦の三食の芋はこりこり

大阪 山野 寿之

戦争はこりこり三百万の命

大阪 川本 信子

歳の差をもちろに感じた喜寿の恋

兵庫 生田 頼夫

唇の火傷に懲りて出ぬ一步

静岡 渡辺 遊石

こりこりと言いつつ回す恋の独楽	大阪	山岡富美子	あんな店二度と行くかと今日も行く	愛知	八甲田さゆり
もう二度とあんな女はお断り	兵庫	中岡千代美	いくつものこりこり越える富士登山	滋賀	宇野弘子
おとこには懲りたわ猫を抱きながら	和歌山	木本 朱夏	南無阿弥陀仏バンジーはもうこりこりだ	鳥根	加本 精一
失恋はもうこりこりとまだ独り	兵庫	太田としお	病院食二度と食べたくありません	大阪	鈴木 栄子
来世は君と出合わぬよう祈る	兵庫	山田美春日	憧れの豪華客船揺れに揺れ	奈良	饗庭 風鈴
陣痛はもうこりこりがまた孕む	大阪	米澤 俣子	こりこりがセピアになると懐かしい	兵庫	榎田 次郎
ローレライ響く魔の海域を行く帆船	兵庫	野口真桜子	ノルマのようにぎっくり腰が攻めてくる	大阪	島田 明美
機織はこりこりと傷心の鶴	大阪	初代 正彦	不機嫌な妻に理屈は通じない	兵庫	宗 和夫
反省してまず殿中の刃傷	大阪	鈴木いさお	難産を悔いていたのにすぐ忘れ	奈良	大内 朝子
姑の遺品整理に借り出され	大阪	横山 里子	できんことできると言って悔いる日日	大阪	穂口 正子
ああ言えばこう言う人と僕は居る	秋田	田村美穂子	ペアばかりもうこりこりの一人旅	富山	伴 よしお
時効だと思ふ噂に巻き込まれ	大阪	中村 恵	期待などしなときめた幸福論	大阪	渡辺たかき
収監にヤクはこりこり断つ覚悟	奈良	宇賀 史郎	おば様の苦情係をさせられる	奈良	木嶋 盛隆
こりこりと言いつつ覗く癖の外	兵庫	富永 恭子	孫二人預かり三日目の地獄	大阪	吉村久仁雄
こりこりと言うが血筋の女好き	奈良	山下 純子	イッキ飲みもうこりこりの青春譜	青森	稲見 則彦
こんな人もうこりこりが共白髪	兵庫	山田 耕治	押すまでは友達だった保証印	兵庫	萩原 狸月
なにひとつ効いたためしが無いサブリ	兵庫	永田 紀恵	通販の健康グッズたまってる	岡山	大石 洋子
夕ごはんパパに頼むと大赤字	兵庫	能勢 利子	無礼講信じ本音を吐いた夜	大阪	平井美智子
天と地を汚すふとどきものの人	青森	高瀬 霜石	誘われて行ったところは怖いところ	兵庫	上田ひとみ

晩節を汚す老人のアクセル

大阪 古今堂蕉子

こりこりと言いつつ上司とのゴルフ

大阪 村上 玄也

給料を上げると言われ推したのに

大阪 坂 裕之

いい女だけどお酒が強すぎる

大阪 油谷 克己

こりこりが同居している酒タバコ

香川 大高 正和

佳句

金持ちのケチと飲むのはこりこりだ

鳥根 原 徳利

落とし穴ばかり作りたがる味方

大阪 小野 雅美

こりこりと言いつつ多分やってるな

鳥取 山本ふみ子

仏ごころ出したつもりが逆うらみ

奈良 安土 理恵

肉奢られてややこしいこと頼まれる

大阪 内藤 憲彦

人

朝寝坊はこりこり眉を描き忘れ

大阪 岡田 恵子

地

こりこりだ風呂で寝るのはもう止そう

鳥根 中筋 弘充

天

N響に誘ったイビキかく男

奈良 居谷真理子

軸

クラクション鳴らしたただけであおられる

兼題「驚く」

句ノ一選

二度見した美人にあった喉仏

大阪 小野 雅美

災害は驚く時間くれません

鳥取 大前 安子

男と女当たり前だと思つてた

愛媛 栗田 忠士

幸運も忘れた頃に訪れる

兵庫 宗 和夫

戦争が金のなる木に成っている

青森 高瀬 霜石

驚いている間に誰もいなくなる

兵庫 上野多恵子

留守電にまだ生きていた父の声

和歌山 木本 朱夏

ノンアルでホンマに酔うた事がある

大阪 太田扶美代

ピカピカの鏡に写る十年後

大阪 藤田 武人

ポトルキープ5年置いててくれたママ

兵庫 村田 博

食欲で人驚かすことが有る

大阪 原田すみ子

母の歳こえて一人で生きてます

大阪 山内規子

歳聞いてうそ一つと言つてあげましょう

兵庫 山田 耕治

目も足も口も驚くほど達者

鳥根 加本 精一

老人が鏡の中に棲んでいる

大阪 山岡富美子

アルバムに私とおなじ母が居る

兵庫 上田ひとみ

フェルマーの驚き今に生きつづけ

大阪 森田 旅人



土砂降りを抜けたら虹がお出迎え  
 大凶に慌てないでと書いてある  
 夫家出驚くほどのことじゃない  
 交叉点わたしと同じ服がゆく  
 出るわ出るわ妻の口から愚痴小言  
 初めての味に驚く離乳食  
 見届ける計算されたサブライズ  
 じいちゃんが花束持つていそいそと  
 亡妻つまが居る なあんだ娘だったのか  
 年ごとに父の口調に似る不思議  
 驚いたふりをしてやるサブライズ  
 海峡を渡る揚羽が飛びたった  
 八百年生きて神木まだ青い  
 ドアノブがからかうように静電気  
 喪中葉書享年百に驚かず  
 じつと見る一番ちがい万馬券  
 クロネコが鮪かかえてやって来た  
 読めません女性の歳は七不思議  
 半額に驚きはせぬテレシヨップ

大阪 大島ともこ  
 島根 中筋 弘充  
 大阪 鈴木いさお  
 宮崎 黒木せつよ  
 大阪 岡田 恵子  
 東京 川本真理子  
 大阪 津守 柳伸  
 兵庫 みぎわはな  
 兵庫 山田美春日  
 宮城 木田比呂朗  
 鳥取 伊塚美枝子  
 大阪 田中ゆみ子  
 岡山 尾原 洋子  
 大阪 石田 孝純  
 奈良 大久保真澄  
 大阪 酒井 紀華  
 鳥取 斉尾くにご  
 石川 堀本のひろ  
 大阪 柿花 和夫

妻のこと何にも知らぬ僕だった  
 どん底の俺にお前が手を伸ばす  
 カーテンが風もないのに揺れている  
 あのマスク今も倉庫で高いびき  
 スツピンに驚く振りは止めなさい  
 駅そばの早業を食う朝七時  
 驚く事も忘れてしまう母だけど  
 じいちゃんに膝カクンはやめなさい  
 見つかることやばい男が前に居る  
 長生きの秘訣驚くほどでなし  
 老人に恋の絵文字が迷い込む  
 ウォシユレット電気切れてた冬の朝  
 石室のミイラが話しかけてくる  
 鳶の子が有名校へ通ってる  
 驚かす積りで立っている案山子  
 本当になって驚く占い師

佳句

奈良 加藤江里子  
 大阪 栃尾 奏子  
 兵庫 糴谷 和郎  
 大阪 川端 一步  
 大阪 伊達 郁夫  
 大阪 太田 省三  
 大阪 今井万紗子  
 大阪 谷口 東風  
 大阪 藤村 亜成  
 和歌山 三宅 保州  
 徳島 小畑 定弘  
 大阪 今村 和男  
 兵庫 生田 頼夫  
 大阪 奥村 五月  
 富山 伴 よしお  
 静岡 渡辺 遊石  
 大阪 石田ひろ子  
 熊本 杉野 羅天

会計でムシクになった時価寿司屋

大阪 川本 信子

驚いてあげる小さな紙の舟

鳥根 伊藤 玲峰

元カノの司会が沸かす披露宴

福井 西谷 公造

人

改心してご先祖を驚かす

広島 田辺与志魚

地

驚いて貰える内に旅立とう

鳥取 新家 完司

天

Nitoryuやがて英語の辞書に載る

大阪 渡辺たかき

軸

目が合つてアツと叫んだまま沈む

兼題「過去」

小島 蘭幸 選

そんな日もあつたと笑う好好爺

徳島 小畑 定弘

もう一度やり直したいプロポーズ

兵庫 敏森 廣光

白寿の法話聞いて笑える過去の恋

大阪 齋藤奈津子

戦争をせずとも沈む国がある

大阪 太田 省三

先生の痾にさわつてばかりいた

静岡 中前 棋人

過去に悔い未来に不安抱く余生

和歌山 石田 隆彦

なかつたことにできぬ悲しみの数多

大阪 横山 里子

濾過された昔話を持つて老い

岡山 藤澤 照代

過去帳の最長老へあと四年

兵庫 北野 哲男

自分史に時効の利かぬ過去がある

佐賀 仁部 四郎

恥ずかしい過去を誰でも持つてゐる

鳥取 成田 雨奇

子どもの頃の幸せ顔に残つてゐる

京都 山田 葉子

七号を買つてた時もあるわたし

奈良 山下 純子

過去形になるとすべてがいとおいしい

大阪 鈴木 栄子

振り向かぬ過去日記は付けません

兵庫 青木 公輔

幸せだった過去美しくなるばかり

愛媛 黒田 茂代

祖先のドラマ抱き過去帳は無言

大阪 徳山みつこ

振り向けば過去にヒントが落ちてゐる

青森 稲見 則彦

やつと静かにモノクロになつた過去

奈良 安土 理恵

過去からの贈り物だろ古酒を酌む

兵庫 村田 博

黒塗りの過去はそのまま持つて逝く

鳥取 大羽 雄大

過去はかこ今を大事に生きる杖

兵庫 吉村めぐみ

何事も無く免許返納祝い酒

大阪 池田 和子

昔一升酒 今はワンカップ

兵庫 斎藤 隆浩

完璧には過去を消せないシユレッター

鳥根 中筋 弘充

おーいお茶頼める人はもういない

兵庫 梶谷 和郎

日の丸に消えぬ悲哀の染みがある

広島 鴨田 昭紀

ダイヤ婚過去は輝き増している  
 封印をして神さまに返す過去  
 地藏堂にほんやりとある町の過去  
 過去形で話せるようになり泣ける  
 若き日の恋は互いに語らない  
 廃校の庭にしゃがんで過去と会う  
 過去形にしては戻らぬ北の拉致  
 カラフルな過去がわたしの預金帳  
 もう後期過去の自分と戦わぬ  
 日記燃しアルバム燃して生きていく  
 昔の事聞きに来る人増えました  
 髪切って私の過去よさようなら  
 逝った子の歳数えずに居られない  
 母を泣かした過去がわたしを眠らせぬ  
 夜逃げしたことが転機になりました  
 過去形の夢が背中を離れない  
 柿の種ポリポリ過去はつまみです  
 おぎゃあから八十年という軌跡  
 哀しくなるから振りむくのはよそう  
 ガキ大将のいじめはわかりやすかった

鳥取 吉田孔美子  
 大阪 平井美智子  
 東京 川本真理子  
 奈良 居谷真理子  
 兵庫 福田 好文  
 大阪 吉村久仁雄  
 福井 西谷 公造  
 大阪 山岡富美子  
 大阪 谷口 東風  
 大阪 島田 明美  
 兵庫 幸田 厚子  
 大阪 きとうこみつ  
 大阪 西出 楓楽  
 鳥根 伊藤 寿美  
 和歌山 三宅 保州  
 大阪 富田 保子  
 岡山 藤井 智史  
 大阪 佐々木満作  
 兵庫 上野多恵子  
 奈良 大久保眞澄

大掃除こんなところにあつた過去  
 俺の過去笑つてついてくれる影  
 過ぎたことだからと許すなよ母よ  
 遠い日の喝采覚えてる両手  
 この過去は消えない歴史は消せない  
 佳句  
 オーロラを見たあの日へ戻りたい翼  
 冬銀河もう何もかも透明に  
 流転の過去だれも問わない港町  
 コロナ禍もいつか歴史のページ  
 憧れのひとがいました図書委員  
 人  
 過去を消すと私ではなくなってしまう  
 地  
 想い出という駅に佇つ旅人よ  
 天  
 再会の涙に過去が許される  
 軸  
 なにもなかった あの頃みんな笑つてた

大阪原 洋志  
 鳥根原 徳利  
 大阪 森田 旅人  
 大阪 太田扶美代  
 和歌山 柏原 夕胡  
 大阪 松尾美智代  
 兵庫 上田ひとみ  
 宮崎 黒木せつよ  
 兵庫 尾畑 操  
 青森 高瀬 霜石  
 兵庫 中岡千代美  
 和歌山 木本 朱夏  
 鳥根原 桂子



(投句186名)

コロナの変異株が猛威を振るい始め、春ごろには再開したかった句会も雲行きがあまりしくなっていました。



どこまで続くスカルミぞ、の心境ですが(随分古いですけど)、またまた予定の変更を余儀なくされている句会も多いのではないのでしょうか。恐ろしいことに、マスクのお顔しか知らない人もあり、何よりそんな状況に慣れすぎてしまうことの方がより恐ろしいのでは、と思ってしまういます。では、ナビを。

米子市 八木 千代

そのうちに定期で通うかぐや姫  
(評) ホントに宇宙へ行ける時代になってしまいました。定期券を出し入れしているかぐや姫、カワイイ!

唐津市 仁部 四郎

老人会今日はお空へ跳ぶ稽古

(評) これも宇宙旅行の練習? 今や老人

会なんて名ばかり、皆ハツラツとされていて若い若い。

香芝市 大内 朝子

あの世には持ってゆけないのに溜める  
(評) 溜める、ですからお金ばかりではなく趣味の品とかも含まれるのですね。分かつちやいるけど、の心境です。

大阪市 宇都満知子

腹筋が割れはじめたらほんまもん

(評) これ、スゴイですよ。女性でもこういう人いますもの。(ほんまもん)になるには大変でございます。

弘前市 福士 慕情

無賃乗車なんて気楽な旅だろ

(評) ずっと昔、各停に乗り込んできた蝶々を思い出しました。自由気ままな乗り降りがちよつと羨ましかったです。

大阪市 若本 安代

追い風に乗れば背中に生える羽

(評) 羽があるから風に乗れるのではなく、風に乗ったからこそ羽が生えて来たという発想がステキ!

和歌山市 柏原 夕胡

昔々秋刀魚は庶民的だった

(評) 庶民的というより、庶民の強い味方だったんですよ秋刀魚は。それが高嶺の花になってしまっうんで。

防府市 坂本 加代

新しく今日も一つの石を積む

(評) 一日一善などと平凡な事ではなく、

石を積み上げるように日々新しい自分を創作なさっているのですね。

箕面市 広島 巴子

ジャンボくじ当たる気がして買に行く

(評) (当たる気がして)に、こちらまでこころ弾んでしまいます。夢を買う、とはこういうことだと納得しました。

寝屋川市 廣田 和織

問い詰めて男ひとりりをダメに問

(評) 逃げ口を残さずにぎゅうぎゅうやりこめるとアカンのですね。ダメになった男にはお気の毒なことです。

堺市 澤井 敏治

日本沈没潜水艦がかけつける

小判さし上げますお助け下さい  
軽石が行先はばみ動けない

米子市 後藤 宏之  
大阪市 内田志津子

しがらみを捨てたいけれどついて来る

お魚の絵はたいはいは左向き  
サバ読んだ歳がポケットで苦笑する

八王子市 川名 洋子  
豊中市 きとうこみつ  
高槻市 富田 保子

空気乗せ一日二便走る船

背に付くマイナンパーにバーコード  
両替に手数料までとられそう

箕面市 出口セツ子  
鳥取県 斉尾くにこ  
弘前市 稲見 則彦

芦屋市 新阜 義明

豊橋市 西郷紀美代

横浜市 菊地 政勝

神戸市 富永 恭子

迷うけど翼が戻りたいと言う  
牧方市 山口弘委智

うつぶんを集めて埋める冬落葉  
尾道市 村上 和子

ブラゴミにマスク所望の魚達  
豊中市 藤井 則彦

隔離までされて長引くハネムーン  
羽曳野市 徳山みつこ

美ら海を泥で埋めたら駄目ですよ  
三田市 北野 哲男

爺さんがパールハーバー語り出し  
松山市 大内せつ子

金ピカの荷物はちゃんとしよいました  
大阪市 平井美智子

諦めず待とうよバスはきつと来る  
弘前市 高瀬 霜石

ジョーズより上手に生きる小判鮫  
鳥取市 福西 茶子

靴下が立って履けなくなりました  
松山市 柳田かおる

人魚にもマイナンパーが付いていた  
青森県 月波 与生

老人になるか剝製にされるか

高槻市 片山かずお

黒石市 北山まみどり

雲海を越えて聳えるアルプスよ  
生駒市 飛永ふりこ

飛ぶつもりまだ開かないパラシュート  
松山市 郷田 みや

火葬場を出る不機嫌な魚たち  
佐賀県 真島久美子

ブラモデル一つ残して兄は逝き  
藤井寺市 鴨谷瑠美子

深海魚闇のやさしさ知つている  
権原市 居谷真理子

走るのは苦手泳ぎは得意です  
大洲市 花岡 順子

太陽光切り売りされる日も近い  
熊本市 杉野 羅天

交通渋滞に巻き込まれた恋  
笠岡市 藤井 智史

さあ出発だ宇宙遊泳靴をとる  
箕面市 酒井 紀華

腹いっぱい食べてみたい黒マグロ  
可児市 板山まみ子

正直に生きて時々砂を噛む  
尼崎市 藤田 雪菜

お帰りと熱々おでん迎え出す  
羽曳野市 黒木ひとみ

三十分毎に換気をしています  
大阪市 田中ゆみ子

高槻市 松岡 篤

鎌井寺市 鈴木いさお

へそくりの貯金箱とは気づくまい  
神戸市 上田 和宏

波乗りのうまい男に付いてゆく  
吹田市 山本希久子

えら呼吸に切り替えましたあしからず  
松山市 栗田 忠士

百までは自分の足で行くつもり  
堺市 内藤 憲彦

二千万貯めて余裕の小判鮫  
河内長野市 穂口 正子

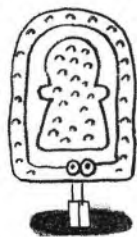
活断層の上で秋刀魚を焼いている  
高槻市 原 洋志

おとなりの火事で枕を持って逃げ  
大阪市 山本加お里

鯛ごはん拡大鏡は必需品  
米子市 池田 美穂

なあ風よUSJはこっちかい  
大阪市 石田 孝純

### 4月号発表 (2月15日締切)



(平本 霧石人 画)  
柳篋に2句

# 本社 一月句会

◇一月六日(木)午後一時  
アウイーナ大阪

実に二十三月ぶりの本社句会が、一月六日、舞昆のこうは様からのお年玉を手に百十一名(内投句者二十三名)の参加で開催された。当年九十七歳の宮崎シマ子さんの元気なお姿を拝見し、生駒市の饗庭風鈴さん、奈良市の山田泰正さん、東大阪市の青木隆一さん、ゆきみさん、大阪市の石田孝純さん、折田あきこさん、神戸市の奥水弘さん、(一)紹介漏れがありましたらご容赦ください。(二)など多くの初出席の方々のお熱気で、句会は盛り上がった。

句会に先立ち、この二年間に逝去された十三名の方々に黙禱を捧げ、令和二年度の月間賞永久保持者(木本朱夏さん)が紹介された。

今月のお話は小島蘭幸主幹。題は「石碑 短冊に書かれた川柳」。岡山県の旧弓削町には、弓削駅の「上の子は足だけ母に触れて寝る(中山弓削平)」に始まり、駅前には「俺に似よ俺に似るなと子をおもい(麻生路郎)」

そして川柳塔歴代主幹を始めとして川柳家の句碑が四百近く建立されている川柳公園がある。また、笠岡市にも川柳公園があり、著名な川柳家や同人の句碑に会うことができる。山内静水師が所蔵されていた短冊が紹介され、お話の最後は、クイズです。

○の順日本の祝いごと 増井不二也  
さてあなたは○に何を入れましたか。(真澄)

月間賞は鴨谷瑠美子さん(藤井寺市)(司会)眞理子・志津子(協取)雅美・勝弘(受付)蕉子・満作(懸垂幕墨書)耕治(清記)憲彦・勝弘

## 席題「艶」 上田ひとみ 選

艶っぽい話あつさり消すコロナ  
新年句会呼名は艶のある声で  
初句会艶っぽい美女勢ぞろい  
艶やかな振り袖父は目をそらす  
外は雨心のうちの艶を消す  
蠟梅に甘い秘密を打ち明ける  
艶はもう二十年前失くしたわ  
大地に水私にたんと艶の肌  
お願いは艶ある声で鼻濁音  
艶入りの哀しい嘘に酔わされる  
今日の顔みんなきれいで艶がある  
小一と楽しくくらす三が日

油谷 克己  
宇都満知子  
松浦 英夫  
森田 旅人  
折田あきこ  
島田 明美  
鴨谷瑠美子  
今井万紗子  
片山かずお  
小野 雅美  
西村 哲夫  
江島谷勝弘

艶っぽく磨いて農家柿出荷  
春だから乙女の笑みに艶がある  
丸太杉素手で磨いて艶を出す  
水茄子も普通の茄子も艶で買う  
短めの宿の浴衣の罪つくり  
仕上げは照り見映えよくする筑前煎  
チョコレート届いてハートつやつやに  
言の葉も筆の先から艶を増す  
後期こそ誇りおつむと鼻の艶  
艶が出て来たおトイレの木の手摺  
飼い主より艶っぽいですうちの犬  
艶艶と若さ溢れてはずむ頬  
居るだけで場が艶やかになる熟女  
艶っぽい話は昔四畳半

君の頬リングも恥じるほどの艶  
艶めいた笑みをこぼして罪つくり  
爺ちゃんは大月みやこ好きなんだ  
お身拭い艶っぽくなる仏様  
焼酎のおかげで頭でっかてか  
堅物の父が残した艶ばなし  
ご主人に愛されています頬に艶  
艶のでるまで磨いています足の裏  
恋は今真つただ中の肌の艶  
いつまでも綺麗いつまでも華がある  
艶を出すため準備体操しています  
佳

山下 純子  
石田 隆彦  
伊達 郁夫  
森 廣子  
宇賀 史郎  
石田 孝純  
森 菊江  
新家 完司  
松原 寿子  
初代 正彦  
川端 六点  
山下 純子  
中村 恵  
上山 堅坊  
山野 寿之  
水野 黒兎  
長高 俊雄  
江島谷勝弘  
大久保真澄  
新家 完司  
伊達 郁夫  
山田 耕治  
山本希久子  
片岡 加代  
中岡千代美  
鴨谷瑠美子

補聴器が聞かされている艶話  
ほどほどに呑気なほうが艶が出る  
ゆつくりと歩いて艶を磨いてる  
逢いたいと書くたび艶の出る手紙

艶消しになつてきた私の魅力

艶っぽい姑でいけずで小金持ち

靴磨きピカ一だった妻が近く

石けんでごしごし後はニベアです

兼題「置く」

石田 隆彦 選

新年集い元気な笑顔置いてゆく  
正月も献花の絶えぬビル火災  
ヤバイよな置きっぱなしの核のゴミ  
作る置く捨てると金の要るマスク  
置き手紙手に取るだけで不整脈  
ひと呼吸置いて状況見定める  
お互いに一日置いて好敵手  
後ろ髪引かれる置いてきた未来  
石庭の配置のかもす小宇宙  
前置きの長い話に主旨は何  
置いとこう使わへんけど捨てられぬ  
懐かしい遊び昭和へ置き忘れ  
買えばすぐ神棚に置く宝くじ  
ひと呼吸置けば引つ込み買ひ言葉

川端 六点  
内藤 憲彦  
松尾美智代  
小野 雅美  
中岡千代美  
平井美智子  
藤井 宏造

ひよいと置く癖がまた出て探し物  
年甲斐もなく惚れたころの置きどころ  
目の前に札束置かれ試される  
スマホ置いてボクと遊ぼうおかあちゃん  
人生のあちこちに意地置いて跡  
好きなモノ後に残して置くタイプ  
弁明はもう届かない置き手紙  
一呼吸置いた言葉が丸うなる  
子ら巢立ち細った脛が置き土産  
肩に手を置けば愛だと誤解され  
間を置いてうまくゆくことゆかぬこと  
母帰る金一封の置土産  
今年こそ甘い物からキョリを置く  
やさしさを真ん中に置き古い二人  
父の横に母の真新しい位牌  
わが余生でんと置いてる趣味の森  
間を置いて聞けば何でもない話  
孫帰る部屋に歓声置きみやげ  
何年ぶり君の手に置く私の手  
ふるりに置きっぱなしの恩がある  
父母の生き様子への置きみやげ  
年齢に添うプライドの置きどころ  
家に置く軸足だけは揺らがぬ  
怒りながら迷う眉毛の置き所  
一緒に捜す老母の記憶の置き忘れ  
老人を置き去りにするIT化

片山かずお  
長高 俊雄  
木嶋 盛隆  
藤井 宏造  
石田 孝純  
高杉 力  
栃尾 奏子  
大内 朝子  
松浦 英夫  
小野 雅美  
原田すみ子  
古今堂蕉子  
宇都満知子  
松尾美智代  
居谷真理子  
上山 堅坊  
川端 一步  
磯島福貴子  
古今堂蕉子  
平井美智子  
平賀 国和  
山本希久子  
原田すみ子  
小野 雅美  
川本真理子  
梶谷 和郎

方言は上りホームに置いて来た  
置物のように家玉の祖母座る  
妻という位置で悲鳴をあげている  
ころろざし暮らしの底に置き忘れ  
お邪魔せぬ位置に老体そつと置く  
ランドセル置いて飛び込む母の胸  
背伸びして届くところに置いた嘘  
置き場所に困っています二〇〇〇万

兼題「怪しい」

藤井 宏造 選

正体を明かせぬ金が要る政治  
怪しい仲と噂をされたことが無い  
心配だ近頃医者が優しくて  
埋み火に怪しい予感老いの恋  
堅物の父のお通夜に来た少女  
夫のスマホいつもロックがかけてある  
怪しげなマークにまんまりする手帳  
格安の宇宙旅行が売られている  
くどくどと言いつつ訳して何がある  
カレンダーに小さな点が付いている  
業務用スマホばかりをいじるパパ  
マニフェスト守れば日本良い国だ  
どう見ても夫婦と違ふ年齢だ  
生返事彼の一言が引つ掛り

川端 六点  
吉村久仁雄  
折田あきこ  
長高 俊雄  
新家 完司  
柿花 和夫  
栗原 道夫  
長高 俊雄  
川端 六点  
松岡 篤  
柿花 和夫  
澤井 敏治  
西出 楓菜  
梶谷 和郎  
古今堂蕉子  
松尾美智代  
今村 和男  
藤田 武人  
村田 博  
川端 一步  
藤田 雪菜

怪しいぞ妻が突然丁寧語

わたくしが止まると靴音も止まる

再検査しましよ怪しい黒い影

ただいまと言った夫が目を逸らし

怪しいの噂へ尾鰭さんと付け

絶世の美女にまばらな髭の跡

怪しい名前だ細菌研究所

「当選」と心当たりのないメール

0120怪しい電話が掛かります

レントゲン怪しい影に狼狽える

顔バックつけた妖怪出る我が家

一張羅着たら愛犬後ずさり

長生きのサブリはどれも眉に唾

のどぐろの喉のあたりの甘い毒

空模様やはり怪しい雨おんな

値引セールホントに値引してますか

防犯カメラ時に味方になってくれ

咳ひとつ隣の席が空になる

一輪挿しの底をのぞけば地中海

蘊蓄もどこか怪しい有識者

国産と書いた鶏肉安すぎる

確信を突いたか泳ぎだす目玉

抽選で貴方だけです五割引き

住

尾行する刑事を尾行する刑事

アリバイの日付すっかり撮してる

つけてない方が怪しまれるマスク

監視カメラへことさら惠比須顔を見せ

山崎 武彦

小島 蘭幸

荻野 浩子

藤井 則彦

瀬島流れ星

平井美智子

澤井 敏治

平井美智子

中岡千代美

油谷 克己

藤井 智史

三宅 保州

新家 完司

折田あきこ

荻野 浩子

片山かずお

松原 寿子

伊達 郁夫

島田 明美

鈴木いさお

宇都満知子

松浦 英夫

村田 博

三宅 保州

加藤江里子

大久保真澄

吉村久仁雄

ケータイ持った財布も持ったさて何処へ今井万紗子

人

半眼がどうも怪しい盧舎那仏

居谷真理子

マスク外せば二年前より高い鼻

小野 雅美

この風は敵か味方か嗅いでみる

軸

地球人を怪し気に見る宇宙人

席題「パートナー」 松岡 篤選

口喧嘩売って買つてのパートナー

宇都満知子

親よりも恋人よりもスマホとか

美馬りゆうこ

ゴールまで妻とほど良く車間距離

内藤 憲彦

夫婦とも我慢に懲りぬパートナー

藤井 則彦

年越しのけんか引き分け喜寿と古稀

島田 明美

パートナー亡くして聞志萎えてくる

油谷 克己

パートナーいるから出来る痴話ゲンカ

藤井 宏造

ペアルックパートナーだとすぐ分り

青木 隆一

何もかも割り勘にするパートナー

乗原 道夫

中国とロシア危険なパートナー

鈴木いさお

パートナー病んで自由が奪われる

瞑想の相手はあったかい徳利

姑と嫁で仲良く酌み交わし

看護師も家族にはいいパートナー

伴走と心ひとつに得たメダル

ツと言っカーと応える飲み仲間

知らぬまにとても似て来たふたりです

今日あたり一升上げて友が来る

パートナーはロケット泣いたりほしない

ケータイを相棒にしてまだ独り

右腕になろうと言つてくれました

四半世紀よく働いた二槽式

ペアルック着てスパーで荷物持ち

伴走をしたりされたりして夫婦

何億の中の一人を妻と呼ぶ

足と息合わせ紐持つ伴走者

相棒はみんなライバルみんな友

天地無風猫とばあちゃん日向ぼこ

住

赤鬼も青鬼も乗る終電車

先着一名茶飲み友達募集中

当り前と言われ続けて夫の世話

変わらない二人蜜柑をむく冬日

水分補給するためだけのパートナー

人

パートナーは何てつたつて諭吉さん

地

異業種をパートナーとし生き残り

萩原 狸月

油谷 克己

川端 六点

三宅 保州

藤井 則彦

大内 朝子

伏見 雅明

上田ひとみ

内藤 憲彦

木本 朱夏

森松まつお

荻野 浩子

森 菊江

山田 耕治

平井美智子

北野 哲男

北野 哲男

山口弘委智

上田 和宏

木嶋 盛隆

小野 雅美

折田あきこ

富水 恭子

乗原 道夫

西出 楓葉

萩原 狸月



天

俺お前程好い距離のバートナー 中村 恵

良い夫婦あれは皆さん見てるとい

兼題「たかが」

西出 楓楽 選

迎えるのはたかが地球の最終章  
将来はカプセル一つ飲むコロナ  
極東の小国ひとつ持て余す  
たまゆらの命だけれど輝かす  
たかがと言う気持ちか悔やむことになる  
人は百年千年生きた木の威厳  
俺なんか五人失恋したんだぞ  
かあちゃんのおむすびだけと日本一  
さりげなく「たかが」を使う嫌な奴  
そんな一億貰つてないよ置いてった  
簡単に言えばお金で済む話  
たかが趣味先生などと呼ばないで  
豆粒程の小石が痛い靴の中  
たかが夢でもその夢が胸照らす  
寝言からヒートアップのすきま風  
たかが五分駐禁貼られ二万円  
たかがからされどに変わる金や恋  
たかがオミクジされど吉引き笑みが出る  
体重はスッポンポンで計ります  
失恋とタイエツトしかない悩み  
無くしても拾えばいいさだが恋  
ペン一本大きな不正暴き出す

川本真理子  
杉野 羅天  
伏見 雅明  
渡辺 富子  
佐々木満作  
松尾美智代  
江島谷勝弘  
藤井 宏造  
栗原 道夫  
奥水 弘  
山田 恭正  
木嶋 盛隆  
坂上 淳司  
原田すみ子  
津守 柳伸  
斎藤 隆浩  
水野 黒兎  
平賀 国和  
藤井 宏造  
上田ひとみ  
水野 黒兎  
加藤江里子

體頭の數で採めてる嫁姑

たかが一円足りず一万くずす破目  
そのたかが趣味にとつぶり半生紀  
本命も義理もたかだかチョコレート  
たかがよりされどで暮らす丁寧さ  
焼き鳥の塩かタレが胸で採めている  
いつの間にかたかがが胸を占めている  
たかがカラオケ命の洗濯して帰る  
八十路の私できることなどたかが知れ  
たかが餅ひとつに命奪われる  
たかがたかが たかがとずっと負けている  
素晴らしいでも素人の粹出ない  
一言が胸に絡んで剥がれない  
風貌に気合い負けする初対面  
戦中より高が知れてるこの自粛

佳

こだわるのはよそう冬空が青い  
スケートボード遊びと言えぬメタル  
ナノ単位ウィルス世界騒がせる  
たかがじゃすまぬアベノマスクの無駄遣い  
たかが禁酒されど私にマクドナルド  
たかが草笛だけど「故郷」忘れ得ず  
地  
ジェンターフリー「たかが女」は死語になる  
天  
老いるとは豊の縁も敵になる

平井美智子  
古今堂蕉子  
片岡 加代  
美馬りゅうこ  
青木 隆一  
高杉 力  
山田 耕治  
奥澤洋次郎  
山本希久子  
荻野 浩子  
小島 蘭幸  
坂 裕之  
小野 雅美  
米澤 俣子  
宇都満知子  
島田 明美  
山田 耕治  
宇賀 史郎  
内藤 憲彦  
森松まつお  
澤井 敏治  
片山かずお  
谷口 東風

軸

たかがマンガされどマンガで記紀学ぶ

兼題「気合い」

新家 完司 選

カレンター真つ黒にしてまだやる気  
盛り塩に店の気合いが見てとれる  
どこからでもかかってこいと風に言う  
気合い入れ行こう3回目ワクチン  
逆転はハーフタイムの気合いから  
花の種気合で空に飛び交わす  
餅つきに気合を入れて腰やられ  
鏡もち気合を入れてたたき割る  
運試し気合いで選ぶ福袋  
書き初めは気合いを入れて平和とす  
勝負の日赤いスーツに黒マスク  
再開へ気合いが揃う初句会  
エイエイオーくたばれコロナエイエイオー  
マックスの気合いルビコン渡るとき  
年寄りの気合いの一つっこいしょ  
素うどんに気合を入れる唐辛子  
気合い六実力一で運が三  
気合い入れ数珠を握って買うジャンボ  
「負けてこい」と背中一発たたかれる  
値切つてる妻の気合はすさまじい  
へボ将棋王の気合で飛車が逃げ  
ハブをビビらせたマンガースの気合い  
女房の気合いに押され大掃除  
朝の珈琲静かに気合い満ちてくる

山崎 武彦  
三宅 保州  
川本真理子  
立蔵 信子  
萩原 狸月  
今村 和男  
宮崎シマ子  
水野 黒兎  
出口セツ子  
川端 一步  
山下 純子  
奥澤洋次郎  
磯島福貴子  
木本 朱夏  
江島谷勝弘  
上山 堅坊  
内田志津子  
伊達 郁夫  
島田 明美  
森松まつお  
上田 和宏  
鈴木いさお  
藤村 亜成  
小島 蘭幸

気合いまで質屋に入れたブー太郎  
 婚活へ気合いを入れる紙パンツ  
 いかんせん手元不如意で気合い負け  
 縄のれん徐々に気合いを入れて行く  
 一升瓶友が気合いを提げてくる  
 動かない頭脳に気合い入れてやる  
 気合いだけでは開かない狭き門  
 手に唾をして持ち上げる重い米  
 赤パンツ履いて気合の八十路越え  
 叩いたら鳴った真空管ラジオ  
 気合いだ気合いだとソクラテスの妻  
 いってらっしゃいチュッと気合い入れられる  
 気合い入れ食べ放題で救急車  
 青木 隆一

住

気合い入れる前に穿いとく紙オムツ  
 気合い入れすぎたゴキブリぐつちやぐちや  
 春間近大鍋で煮る惚れ薬  
 オオタニの素振りの音を見ましたか  
 女房には立ち合う前に気合い負け  
 伏見 雅明

人

かか様の気合いがないと動かない  
 榎本 舞夢  
 地  
 老いの足気合いで渡る交差点  
 平井美智子

天

赤ちゃんが気合いを入れて泣いている  
 鴨谷瑠美子

軸

早起きのカラス気合いを入れて鳴く

## 朝日なにな柳壇 今年の十秀

— 令和3年12月22日 朝日新聞発表 — (太字は本社同人)

川柳塔社相談役 西出 楓 楽 選

最優秀句  
 来年は枕太鼓よ町を練れ

秀句

ゲーム依存子等の未来が描けない  
 断捨離に僕はちよろちよろ妻ばつば  
 着るものに頓着しない妻となる  
 騙る目が人をあわれと思いがち  
 初産に男ちよろちよろしてるだけ  
 草に寝て五感澄まして秋をきく  
 踊り子も炎の恋も天城越え  
 間違つて覚えた漢字直らない  
 他に比べるものなし逆縁の辛さ

番傘川柳本社主幹 田中 新一 選

最優秀句  
 毒つくる人間こそが恐ろしい

秀句

もう少し生きて欲しいと苦しめる  
 ポンと膝打ってロダンが立ち上がる  
 来た道を逆走したい失意の日  
 まつさらな白靴歩幅広くして  
 左ネジ先入観を打ち砕く  
 問題点見えてよかったこの亀裂  
 賑わいがええものとする戎橋  
 気まぐれを通す何度も転けながら  
 平凡な日々々に幸せ噛みしめる

樋口 真  
 玉瀬 洋子  
 柿花 和夫  
 末吉 利次  
 茂本 隆子  
 高杉 力  
 伊藤 修彦  
 藤澤 明彦  
 下野 京子  
 立石 雉枝子  
 綿井 寛治  
 田部 和幸  
 阿部 俊八  
 井上 昭  
 吉田 靖子  
 辻井 肇  
 松井 並樹  
 山崎 達彦  
 桑原 すす代  
 井本 健治

# 柳界展望

▽訂正とおわび△

紹介者 木本 朱夏

○12月号 P 5 下段16行 常任理事会 11月6日

目、脈↓派。P 11 下段16 ①「第10回春のまつり誌

行目、泣き↓亡き。P 35 上大会」の進捗度②「第

行目、穴道湖↓穴道湖。 28回川柳塔まつり」の取

P 11 下段6行目、すみれ り組みについて③「創立

↓すみえ。 100周年記念行事」の

○1月号 P 77 下段8行 進捗度④同人誌友の現状

目、川幅の広さへ口模型 について⑤同人名簿の発

吟り↓川幅の広さへ口も 行について⑥その他要望

軽うなり。P 100 上段12行 ・意見について⑦定例確

目、本箱↓本箱。 認事項。

▽新誌友紹介△ 次回常任理事会2月7日

岩出市 佐藤 倫子 (月)AM10

○堺 利彦・楽原道夫編  
「近・現代川柳アンソロ  
ジー」新葉館。A 5判 320  
頁、2700円＋税。

○松岡篤川柳句集「ただ  
いま三合目」。B 6判 100  
頁、私家版。

薄い鉛筆で投句される方へ  
もう一ランク濃い鉛筆で  
お願いします。

句会名	日時と題	会場と投句先
八尾市民 川柳会	13日(日)14時締切 時代・へそくり・洗う・雑詠	八尾市安中町3-5-1 淡川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩5分 〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之
西宮北口 川柳会	投句句会 席題・海峡・傾く・嬉しい 自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦
川柳 さんだ	休会	連絡先 〒669-1545 三田市狭間が丘5-10-19 谷 祐康
川柳 たちばな	18日(金)13時45分締切 午後1時開場 印象吟・袋(互選)・抱く・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫の荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
岸和田 川柳会	19日(土)14時 街・譲る・不満・カラフル	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
川柳塔 みちのく	19日(土)17時締切 火・伝える・ぐったり	会場未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川柳塔 すみよし	20日(日)14時締切 髪・抜く・おかしい	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
川柳 ねやがわ	20日(日) 当て外れ・色々・控える 自由吟	寝屋川市民会館 京阪寝屋川駅から徒歩15分 または京阪バス市民会館前下車 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
川柳 藤井寺	20日(日)14時締切 感染・ロボット・席題共撰	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南大阪 川柳会	21日(月)14時締切 こけし・ペン・重ねる・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊中 もくせい 川柳会	21日(月)13時50分締切 気配・省く・ひやり・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
はびきの 市民会 川柳会	27日(日)14時締切 努力・誘う・あっさり・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷺」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
和歌山 三幸会 川柳	27日(日)13時15分締切 鬼・弱い・長い	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
川柳 ふうもん 吟社	27日(日)13時～ 自由吟・のんびり・半端 うやむや	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

## 2月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 な	4日(金) 誌上締切 人気・鋭い・覚める・席題	〒636-0341 磯城郡田原本町薬王寺150-21 中堀 優
城北 川柳会	5日(土)14時締切 遅しい・うやむや・今後・自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳 とんだばやし 富柳会	5日(土) 風・じろじろ	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉吉 川柳会	5日(土) 14時締切 凄い・しんみり・怒鳴る 席題一題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川柳塔 まつえ 吟社	5日(土) 13時30分締切 ガラス・カード・気休め どっさり	投句先 〒690-0034 松江市古志原7-19-19 中筋弘充 会場 雑貨公民館
おりひめ☆ ひこぼし 川柳会	7日(月) 旅立ち・ビュンビュン・黄砂	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 「おりひめ☆ひこぼし川柳会」 藤田武人 TEL・FAX 072-395-5453
川柳塔 さかい	7日(月) 必着 家族・頭・ベテラン 折句:は・ま・ち	投句句会
ほたる 川柳 同好会	8日(火) 13時30分締切 ドラマ・解く・印象吟	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川柳 あまがさき	8日(火) 14時締切 出直す・髭・褒める・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳塔 わかやま 吟社	10日(日) 14時10分締切 兼題=理由・急・これから 課題吟=根	和歌山商工会議所 4階 和歌山市西丁丁3 6 兼題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 桑原道夫
あかつき 川柳会	11日(金) 14時締切 風評・モットー・菌・時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川柳大阪	12日(土) 14時開場 後遺症・ときどき・ほんま	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 投句先:〒534-0021 大阪市都島区都島本通り4-11-6 山崎珠生
六甲 川柳会	12日(土) 14時締切 誤解・軽い・返す・自由吟	六甲道勤労市民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
川柳塔 打吹	12日(土) 13時30分締切 北・触れる・こそこそ・席題	倉吉市上灘町9 上灘コミュニティセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局

# 文藝春秋

毎月24日締切・35句以内厳守  
 掲載は原稿到着順となります。  
 楷書で誤字のないようにお願い  
 いたします。  
 編集部

## 大山滝句座(鳥取) 新家 完司報

みんなから嫌われぬよう努力する  
 待ちぼうけプールサイドのプロポーズ  
 民主主義みんな小さな夢を追う  
 欲の無い人は友達にはいない  
 吉報は心を広く開けて待つ  
 紅椿咲くのを待つて群れを出る  
 待つているまだかと責つく砂時計  
 仏でもないに無欲になれと言う  
 春を待つようにあなたを待つている  
 カニスキの鍋を囲んで争奪戦  
 人間も生物も皆仲間です  
 口出さず無欲な石の地蔵さん  
 無欲にはなれぬ今日は食べ放題  
 待合室油断できない北新地  
 お迎えのくるをばおーと待つている  
 昭和では皆中流と言つていた

紀の治 くにこ 芳光 楓花 ゆたか 八千代 雄大 幸子 小鹿 順子 富隆 麦青 由紀子 風露 けいこ 清明

良い子ぶり皆に合わせたくたびれる  
 梨くれるもう来る頃と待つている  
 太極拳みんな高齢玉の汗  
 戒名はマイナンバーで充分だ  
 無欲だが辞退はしない遺産分け

## 川柳塔打吹(鳥取) 斉尾くにこ報

落ちこぼれそれでもすぐに卒寿です  
 煮こぼれが毎日続く台所  
 こぼさぬよう食べても食後二三粒  
 年取りでどんだん指紋消えていく  
 休耕地どんだん藪になつていく  
 神社から響く太鼓に清められ  
 核好きの国がどんだん進化する  
 どんだんと減る感染者でもマスク  
 どんだんと猫背になつて空見上げ  
 どんだんと冬を奏でる前頭葉  
 ロボットがどんだん家に入り込む  
 置き場所を忘れ捜して日が暮れた  
 夕べ食べた物を忘れるこれが歳  
 人生に忘れることで余白あり  
 原爆は百年後でも忘れぬ  
 虎の子をとんと忘れて逝つた切り  
 神様は忘れる知恵を授けたね  
 みんな忘れてのつべらぼうになりました  
 大切なこともシャボン玉になつた  
 トランクを開けると潮のかおりする

岳人 美知江 照彦 紀美恵 大鯨 龍枝 余光 義人 貴恵 節子 完司 久芽代 富隆 紀子 清 芳江 裕子 三津子 芳光 久江

トランクに土産のウニと板わかめ  
 トランクを何度も開けて待つ旅行  
 トランクにパソコン一つテレワーク  
 トランクに隠れ脱出した男  
 トランクと雲を映して小津映画  
 トランク一つ花追う旅がしたくなる  
 憧れが次の階段登らせる

## 城北川柳会(大阪) 近藤 正報

不覚にも酔うて見られた裏の貌  
 ホツと息つかせてくれぬオミクロン  
 なんでやねん言いつつ主夫が板につく  
 予想では気楽に暮らすはずだった  
 裏表わからぬままのゴムズボン  
 大丈夫ことばの薬塗り込んだ  
 裏方に徹したつぶり甘い汁  
 裏漉しをして長らえている命  
 善行を積んであの世を疑わず  
 寂聴を偲び源氏を読み直す  
 輝いた日をたぐり寄す日向はこ  
 青空へ明日はきつと羽ばたこう  
 閻魔から浮世の借りを責められる  
 静と動民を沸かせた聡と翔  
 バラまいた借金だが払うのか  
 美辞麗句借りて誉めてる披露宴  
 瀬戸内の海を絵にする橋数多  
 日大を叩けば裏金が躍る

郁夫 福貴子 満知子 万紗子 峰子 弘委智 繁子 星雨 俊雄 克己 朝子 賢子 捷二 正彦 一歩 野鶴 堅坊 博

あの人と同じ口紅買ったのに  
人の進歩自然界から知恵借りの  
人類は借りた地球を汚してる

洋志  
黒兎  
榮子

日々動向ビッグボスだけ気になって  
同期でもなぜか差がつく棒グラフ  
なるようになるさ笑って待てばいい

義明  
五月  
恭子

ばあちゃんに時々借りる知恵袋  
ゴミ置き場仰げば丸いお月様  
貸し借りが温い昭和の裏通り

信子  
肇  
松香

老いて尚はらから恋し里恋し  
宗教が銃を持たせるなんてだろ  
今日もまた僕予定なく妻多忙

志華子  
和夫  
廣光

一二三マスク外してハイチーズ  
今年またマツタケ食わず冬が来た  
あれこれと思い巡らす予後のこと

利子  
宏造  
満作

シヨッピング値札から見る癖がでる  
最新まで塔誌に投句するつもり

かずお  
ルイ子

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

リーダーと呼ばれ仕事の鬼となる  
リーダーは無理助太刀ならOK  
リーダーのリーダーがいて騒がしい  
夜明けまで灯りが見える受験生  
夜明けから降り出す雨が恨めしい  
信じざる希望に燃える夜明けです  
満潮は夜明け頃だと産婆さん  
藤村の「夜明け前」読む二度目です

淑子  
弘子  
笑子  
千代美  
節夫  
比呂子  
慶子  
宣之

日本の夜明けはまだという龍馬  
退職後野菜作りを学ぶ夫  
爺ひとり学ぶ意欲も限界か  
耳からの学問も好きラジオから  
教科書で学び体験して学ぶ  
優しさを介護施設で学ぶ孫  
大器です老人大学優等生

蘭幸  
榮香  
節生  
夢香  
昭紀  
輝恵

老いの現実をまなぶ老老介護  
穴があく靴下いつも右ばかり  
夫の忌へ真紅のバラの花束を  
一句一句記憶がもどるのが不思議  
時間待ち好きな句集を持って行き  
駅ピアノ人それぞれの人生譜  
一回のチャンス代打で打つヒット  
カンガルーひみつのポケットもついている

和子  
慶子  
輝恵  
昭紀  
夢香  
節生

六歳  
ちか  
小一  
さや

厚子  
貞子  
初音  
幸子  
史子

ふろのみずいきつぎみたにながれるね

厚子  
貞子  
初音  
幸子  
史子

じつくりと読んで言葉を探いとる  
音読の効用先ずは試し読む  
びりの子へ声援続く徒競走  
読み返すたびに優しくなる日記  
もう少し走ってみよう二人して  
玄関に睨み利かした父の下駄  
いつの間にか物干し高くなっている

昭枝  
まき  
敏照  
菜摘  
富香  
宏枝  
起世子

和歌山三幸川柳会

西川千鶴報

竹村紀の治選

ちよつとした冒險妻の手を握る  
結末を知つたうちわが覆てしまふ  
毒キノコも人を待つてる秋の山  
カーナビに喧嘩売られる時がある  
忙しくていなければ落ち着かぬ  
友達がメツキを剥がす披露宴  
若作りしたのに席を譲られる  
軽石が重いと海が泣いている  
同病の人で今では飲み仲間  
小さい秋拾うて帰るウォーキング  
(竹)千賀子

佳句地十選

(1月号から)

古久保和子選

やさしさが心に届く白湯を飲む  
ぼつぼつと石に言葉を教え出す  
Yシャツの衿の汚れは手で洗つ  
つつがなく独りの夜のひとり酒  
世の中をぎよるりぎよるりと鬼瓦  
防人の妻は平和を詠い抜く  
デイサービス紅の二つもさして春  
四季咲きでいつも蕾をふくらます  
生きてる証の今を飾らねば  
凧の海その落日の柔らかさ

比呂子  
小鹿  
利子  
由紀子  
乾和  
万紗子  
哲男  
ひろ子  
喜明

秒針の早さと走る喜寿の坂

幹子

一〇〇円のスリッパだけど履きやすい

千鶴

普段着のコメントお待ちしています

知香

ジョギングはいかがですかとスニーカー

八重子

北澤 桐民報

哲男

照明を増やしてほしいフォトグラフ

精子

足腰は弱いが読書力はある

昇

愛着という価値観で捨てられぬ

善輔

運動場芝生眺ねたりころんだり

佳子

走ってきた過去は間わない車椅子

純子

もみじ狩り昔の女を想いだす

稠民

幼子の夢いっぱいの砂遊び

節子

間違つたままで読み切るサスペンス

准一

川柳会仲間元気でもう一年

善輔

コメントで玉虫色になる正義

和宏

今朝もまた町からつばに介護バス

和子

酒よ酒こんなにはむものはない

剛

ありがとう照れくさそうに息子言う

タカ子

私のオアシスわたしの洒れる日に枯れる

理恵

極楽と手足伸ばしてさあ寝ます

重男

原稿にないコメントはお断わり

敦巳

からころと下駄で育つた裏通り

ひろ子

友達の友の友へと環状線

良子

残照よまだ励ましてくれますか

小雪

一日を洗い流して明日は晴れ

碧

剪定の思い出山茶花散るころ

哲夫

井戸端がゴミ置き場へと衣更え

信勝

銀行の利子のようです記憶力

保子

餅も買うおせちも届く変わる世に

美智子

土壇場にいるから気持ちよきだせる

ほのか

靴音が揃うと恐い道になる

悦男

ふつとまた季節は私を置いてゆく

すみえ

定年の踊り場へ来た深呼吸

悦男

思つ切り走れた頃が嘘のよう

眞智子

がんば保険最高金額する

ひとみ

哀しみの場を踏む度に強くなる

よしこ

捨てようか何度も迷うチビた靴

美枝子

日々生きてわが人生の歴史みる

凛繪

重箱の隅が私の指定席

大輪

もう何度読み返したか座右の書

彦弘

わかやま吟社

照代

はびきの市民川柳会(大坂)藤原

大子報

私らしくいられる場所です

知香

小谷 小雪報

富美子

紅葉愛でいつの間にやら山頂へ

一文

フクシマへ痛みが走る十年忌

明子

自信ないコメント具になる私

紀子

一刀に景色断ち切る派遣切り

冬のト

漱石に会える気がして買う切符

あき子

運動場輝いている君がいた

徑子

熊野路は空にダイヤをちりばめて

千鶴子

地下足袋が余生支える友となる

康則

ようついで来てくれたなど言つて逝く

光

故郷は山紫水明空き家増え

久仁子

巣ごもりで穴あく程に読む句集

まつ子

長雨に日照り不足の夏野菜

寿子

再検査景色一変灰色に

勝弘

スニーカー履くと何だか元氣出る

よしこ

快晴に報われた日のボランティア

倅子

わたくしの景色に全部君が居る

扶美代

靴音できょう一日を推しはかる

和美

一生に照る日雨の日添いとげる

倅子

ハルカスの展望台で見る夕日

まつお

生きている内は花よと未だ走る

幸

アドリブのコメントならば聴いてみる

夕胡

秋景色もみじ色づき柿みのり

正義

うさぎからカメになつても走ります

俊介

一行のコメントでした五七五

あかね

四季有情ころを染めてきた景色

理恵

走り出す車の窓に母の声

正美

無観客その場を生かすコンサート

明

冬衣被つた富士の清らかさ

洋一



干し柿のすだれの奥にまつかな陽  
燃えるよな紅葉の中へ托鉢僧  
丹頂が舞う北国の冬景色

許すとは言わずに父は酒を飲め  
笑って許す妻が僕には福の神  
許せないせまい心にむしばまれ

この辺で許したほうがうまくいく  
許し得ず一輪手折る菊の花  
ユーモアを足して許した処世術

許すまじ原爆何度も口ずさむ  
単純でごめんなきいにすぐ許す  
許すたびだんだん丸くなる心

政治家は軽くお詫びで済ましてる  
許したらちがう世界が見えてくる  
モリカケサクラ許せない人返り咲く

許してはならぬ政党助成金

南大阪川柳会

松岡

マッサージ右や言うてんのに左  
コロナ時代赤ちゃん撫でるのも遠慮  
返納の廃車をなでる目に涙

ツルツルになるまで撫でる父の墓  
農に生きた土を撫でてる父の悦  
五十肩言われ八十路が嬉しそう

民主剥奪悲痛な声もやがて消え  
剥がす時工夫いります湿布薬  
軸となる人がどんどんいなくなる

こみつ

シルク

いさお

一歩

久仁雄

専平

フジ

ひとみ

瑠美子

かつ美

大子

宏造

さくら

ダン吉

ちづる

みつこ

一筒

ひさ乃

敏治

弘子

志華子

よしみ

亜成

通江

イタタタ敬老パスをまた忘れ

指火傷水を溶けるまでつまむ

ポイントのポイントを稼ぎふたりの酒になる

買物のポイント上げる浪費癖

懸命にためたポイント期限切れ

愛情がポイントになる老介護

老い二人ポイントずれて弾んでる

ポイントが利子よりぐっと頼もしい

ポイントをために買物出かけます

絶対の信頼秘密守る友

ひきだしに秘密の文がかびている

身のうちにこっそり鬼を飼っている

雨の日の秘密二人の胸にある

翔平さんの秘密兵器は二刀流

魂を売ります安いいのですが

第六波来ないうちにとクラス会

あの雲は友を待つてる動かない

手帳には見栄で予定を埋めておく

長生きの極意は自然体だつて

川柳ふうもん吟社(鳥取)山下

川柳報

ばんでんこ地盤を競う白と黒

教室の掃除当番ばんでんこ

高齢化町の当番ばんでんこ

ばんでんこなら次は吉信じてる

いい夫婦家事の負担もばんでんこ

ふうもんの句会選者はばんでんこ

勝弘

東風

柳伸

柳右子

直子

篤篤

大子

常男

峰子

ルイ子

弘委智

楓楽

克己

一歩

実実

国和

シマ子

昌紀

蕉子

凱柳報

小鹿

節子

一平

みゆき

ばんでんこ(因幡方言でかわりはんこ順番)

気がつけばおはぎ丸める手も老いて(久)千代

愚痴一つ漏らさぬ妻は菩薩さま 回春子

決めた道迷わず進む古希の坂 哲子

根を張って張って大樹の仁王立ち 壽峰

太陽と母に無償の愛貰う 一瑠

明日が見たくて一番高い木に登る 美ツ千

うっかりと置いたメガネを大きがし 真智子

うっかりと切手貼らずに投函す 昌鼓

うっかりの印残した鍋の底 厚子

うっかりとしゃべれないから黙秘権 無限

うっかりも良い方向に変わらせる 金祥

棺桶にうっかり寝込み起こされた 勲章

意表つく新監督の腕問われ 何事

新庄でヒットかどうか一年後 栄策

うっせいわ老いの戸惑う流行語 由紀女

オオタニさんヒットに母国鼻高し 龍枝

人生のヒットは妻と照れ笑い 隆浩

大谷のヒットに日本中が沸く 鐘旭

たまこつち最新版が出たらしい 紫陽

自分史のヒットは貴方との出会い 八千代

テンションが上がるケーキのバイキング みつ子

えっケーキそれ聞くだけで元氣湧く 大

今日も甘いケーキを買ってしまった 高明

修

高修

振作

茶人

作

振

作

茶

人

作

茶

人

作

茶

人

作

茶

人

作

茶

人

作

茶

人

シヨートケーキわけあつてた青春譜  
二つ目のケーキを悔いる衣替え  
趣味の川柳ヒットは句集したこと

川柳茶ばしら(愛知) 金子美千代報

振り袖をりんどう淡く染めて咲く  
集まれば気合いが入る家の愚痴  
目指すのは甲子園だとハッパかけ  
卓球を始め三キロ痩せました  
気合い入れ出した割にはポツばかり

きやらぼく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

血圧と戦う寒さやって来た  
終わらなき遊びに誘う孫三つ  
見ているよ聞こえたみたい母の声  
さわやかに年重ねたいこれからだ  
ペラペラ喋ったからほらずこけた  
眠れぬと寝酒が過ぎて二日酔い  
断捨離の写真別れの涙みせ  
紅葉狩り秋の匂いを独り占め  
残り少ない秋をじっくり見ておこう  
蟹送る拡大鏡が要りそうだ  
買い過ぎるポイント倍の感謝デー  
松茸の香り高くて値も高し  
十五秒湯の出る前の朝の水  
寝込まれて頼っていたと思ひ知る  
保健所に閉古鳥だけ来て欲しい

親洋 拓治 柳 凱  
老いの足自覚がなくて走つてる  
秋深く冬眠できるほど脂肪  
あのボタン押さなきゃいいがあの男

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報

手の内を覗かれそうで変化球  
大人しく褪せた衣装で老い迎え  
変化球かわす力を蓄える  
座るのは苦手立つのは尚苦手  
休日は家族を捨てて草野球  
婆百寿あつさりと言う「もうええか」  
米寿です班長務め上げました  
星座見てあなたは何を思います  
座談会帰り支度に足立たず  
出世した貴方が座る指定席  
心身の統一図るヨガ修行  
牡牛座の端っこ辺り予約済み  
人から獣へ犯罪者は変わる  
引き際の美学無口であつさりと  
あつさりと振られりや探す次の人  
雑音を除く修行に仏の灯  
風呂帰り星座ながめて季節知る  
人生は滝に打たれて荒修行  
鉛筆を尖らすだけで人を指す  
あつさりと後を引かないそこが好き  
運勢はどうあれ私獅子座です  
星座みな絵解クイズのようにある

恵子 俊久 宣子 治代 宏之 ひろし 多美子 久直 千代 美穂 紀の治 菜々 瑞枝 博子 美緒  
日枝子 令位子 雨奇  
美ツ千 大鯰 すみれ 弘子 慎一 白周 孔美子 弘六 俊幸 草文 ゆたか 完司 盛桜 茶子 恒 小鹿 甚祿 かおる 蟹郎 瑞子 孝子 宏章

あつさりと伸びてゆけないアリドオシ  
直球を受ける心が弱つてる  
どの辺り僕の星座に夢を追う

倉吉川柳会(鳥取) 竹信 照彦報

命がけ水の海で救助する  
知らぬ人バス待つ時に寒いわね  
寒いので靴下はいて寝る老婆  
年末に向い懐寒くなる  
足し算をしている内に春が来る  
十センチ足せば私も八頭身  
ありがとう嬉しさ足して生きてゆく  
一と一足してやがては無量大  
陰と陽足して二で割るいい夫婦  
一足す一無理やり三にさせる人  
前向きに生きて明日の風拾う  
武勇伝明日になったら消えている  
明日の客おはぎ作つておもてなし  
明日よりも今日の思いが土台なり  
コロナ減り旅行の出来る明日を待つ  
八十路坂急所のチャック閉め忘れ  
俺の声忘れたのかよ閉めやがる  
ご時世で今日で閉店グッドバイ  
突然に閉まらぬチャック大慌て  
紐がない財布の口がしめられぬ  
空き家なのに甘い匂いがして不思議  
想い出に浸りおもむる目を閉じる

次男 さちこ 玲子 道春 完司 紀美恵 萩江 龍枝 茂夫 日出子 麦青 祐子 恭子 醉芙蓉 石花菜 隆昌 雄大 智恵子 けいこ 風露 凱柳

明日探しなんてお洒落な旅をする 照彦

ブラザ川柳(大阪) 穂口 正子報

マスク取りつくづく見入る老い模様 正子  
松の木に莚を巻いて冬仕度 悦夫  
父は要母は家族のまとめ役 清乃  
柄にもなくオリの為なら掌を合わす 弘光  
再検査どうぞ無事だと手をあわす 和代  
お互いに道を譲って暖かい 五月  
折ってもあがいても金増えません 克三  
木枯しを背中受けて冬大根 政夫  
両親から受けた折りに思い馳せ 園子  
散歩道ボケずに元気で地藏様 景子  
やいコロナ新規友達連れ出なすな 靖子  
合わす手で藪蚊も叩く募参り 淳司  
ピカソよりまとまってる福笑い 一彌

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

若いねといわれて背すじピンとたて れい香  
退職した夫家来にしています 菊江  
何でやる今日はきれいと言われても 柳明  
予備軍から本隊へ行く糖尿病 和子  
入社2年上司の顔はまだ知らず 初音  
若こぼう義母の味までもう少し ゆきみ  
蟹食べる僕は二十歳に戻ってる 健二  
白あんの御座候が好きなんだ 勝弘  
人生の転機となっためぐり合い 紀恵

若い日のドキドキ求めクラス会 宏造  
おだやかな日差しに猫の生欠伸 隆一  
頑固親父おだやかな顔棺の中 (人)修平  
穏やかな顔に戻ったデスマスク (俗)修平  
おだやかに歳とりました膝に猫 耕治  
楽天家何時も笑顔を絶やさない 正彦  
マスクせぬだけで立派な非国民 万彩  
カラオケにご無沙汰のまま年暮れる 正和  
タワマンに幸せ色の灯が点る かずお  
亭主から主夫に変わった定年後 良種  
社長の座辞して病母を妻と看る 久仁雄  
革命を信じた頃は若かった 純  
ソリユーズのほくほく顔の前沢氏 こみつ  
子が覚え祝ってくれたルビー婚 新録  
慢心を戒められた不合格 雅美

川柳塔まつえ吟社(島根)相見 柳歩報

ライバルの長所たくさん知っている 柳歩  
きぬし豆腐横のもめんウインクす モナカ  
ライバルはまあまあ勝てる奴にする みちを  
次の世はクレオパトラの鼻になる 雪代  
整形のなせる技ですメロンパン 吹喜  
整形をされて庭木が嬉しそう 弘代  
虐待ではないか立方体西瓜 邦充  
整形をされた古里他人めく 桂子  
ワカルヨウコトバタダセと外国人 瑞人  
乱れ髪ひばり晶子の名を馳せる 美智子

乱文を食べてるうちに気付く石 とも子  
粕取り焼酎で乱世を凌ぐ 徳利  
朝夕に生ニクと赤マムシ 芳山  
ストレスを晴らすとことん掃除して 知恵子  
とことんと競った友も鬼畜入り 豊仙  
拘りをとことん詰めたマイチェアー 青帆

川柳花の輪(大阪) 川本 信子報

真剣に叱ってやれば生きかえる 亜成  
年度末不要不急の道普請 正太郎  
この一杯しなびた精気生きかえる 笑子  
生きかえり御恩を返す献血車 かすみ  
家計簿と日記を書いて締め括る ルイ子  
ゴールイン冷たい水のうまいこと 博泉  
丑年を終えて笑顔の寅を待つ やすの  
昔さんピークは令和発表時 泰子  
空財布二ヶ月毎に生きかえる 信子

川柳塔さかい(大阪) 内藤 憲彦報

勝ち見えた扇子ゆつくり動きおり 美津子  
熱燗がゆつくり今日を過去にする 和夫  
点滴はゆつくりカーテンはブルー 瑠美子  
ゆつくりとおいであなたの席は空けてある 万紗子  
万歩計母は一週間をかけ 尚邦  
ゆつくりの妻に歩幅を合わせてる さくら  
どん底を知っているからふんばれる ひろ子  
神さまはがんばる人を見捨てない としお

ふんばっていればその内風が吹く  
人生の踏んばりどころ九合目  
志津子

フレイルはふんばる身にも容赦なし  
敬子

ブレイキをふんでも効かぬ夢だった  
勝弘

しつかりと未来見据えた子の着地  
満作

土壇場のひと踏ん張りが勝負分け  
玄也

みの虫が揺れてふんばる枝の先  
満知子

踏んばってきつと春にはでかい花  
憲彦

ヒト科の欲にふんばっている地球  
みつこ

レシート最後の税が胡坐かく  
堅坊

遺言に末期の水はスコッチと  
倅子

最後です免許返納はあした  
ゆみ子

万感が押し寄せてきた定年日  
憲

年重ね最後のあがきスクワット  
廣子

核戦争ヒロシマ・ナガサキが最後  
みつ江

わたしより長生きしいや母白寿  
朝将

苦痛から解放されたデスマスク  
ひろ子

ありがとを残し介護の手を解かれ  
川信子

ホスピスの母がわたしの名を呼んだ  
洋二

掃けども掃けども積もる落葉に疲れ果て  
りゅうこ

逃げ腰の男が増えたと思う  
加代

春にまたお会いしましょう落葉樹  
千代美

女って作り笑ひも涙目も  
佐治

その内にまた言いそうな都構想  
灯子

論吉が落ちて起る靴紐を結ぼう  
シマ子

落ちぶれて再起はやはり故郷の土  
秀夫

落語家は枕ことばで客つかむ  
忍

青い空落書したい思い切り  
紅絵

AIに採点されて不合格  
知栄

地歩固め野党共闘先ず一步  
則男

化石賞恥じぬところが恥ずかしい  
穴道

列島がつぎつぎ地震恐ろしい  
廣子

あかつきも一人前の二十歳  
いさお

実るまで野党共闘諦めず  
是文蘭

寂聴さん愛と平和を白寿まで  
康信

及ばずも入れた一票悔いはない  
征之

共闘の荒しは覚悟夜明け前  
はこべ

ファシズムの走狗となるか風知草  
鈍甲

傷心を癒やしてくれた大落暉  
福貴子

街の顔ほんのちよつとだけ笑み戻る  
恭昌

びりびりと戸惑いコロナ禍の景色  
満作

米竜巻被害甚大息をのむ  
廣子

人生の角一つ間違えホームレス  
楓楽

好きな花さいてたとこに建ったビル  
弘美

大漁旗エビカニホタテ冬景色  
弘子

コロナ緩和皆と再会うれしい日  
舞夢

沈黙黙考しゃべる相手が居ないだけ  
蕉子

百億円宇宙船から見る景色  
行久

しゃべくりの競技があれば金メダル  
定生

オリンピック平和で有れば出来る筈  
善之

痛いミス薬になったはずなのに  
大子

セーヌの空輝きを待つバリ五輪  
和夫

躓いて景色がゆらり一回転  
江里子

人がいてよく似たネコがいる景色  
眞澄

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

翠洋会(大阪) 原田すみ子報

しつかりはせんでも長生きは出来る 義

教室の景色を変えたデジタル化 敬子

命バンザイ余生の限り楽しまん 志華子

握る手もラブラブでなく介護の手 げんえい

世のコロナどうあれ籠る老夫婦 浩二

オリンピック民族の架け橋となれ 昭

こころ合わせ世界平和へまっしぐら 富子

熱爛のごくりごくりが消す憂い ふりこ

ハルカスから見えぬ路地裏の景色 すみ子

富柳会(大阪)

山野 寿之報

たつぷりと愛を包んだ母の餅 恵

手の平で包む湯飲みの暖かさ 武人

杵の音湯気いっばいの良き時代 和子

狂おしい程に愛しい愛おしい 高鷲

爽やかな川の流れに添う紅葉 壽峰

ズルズルとすることもせず雲隠れ 一文

幸せをズルズル追うている白髪 文

ひだまりに包まれたくて母の膝 文

人生はゆつくりゆつくりこれでいい 文

再発の無いよに祈る検診日 清

秋深く未だ米寿という勇氣 由夏

せつかに寄り添う妻はカタツムリ 文重

蟠り引きずったまま胸の澱 文重

長柳会(大阪)

辻村 ヒ口報

好奇心ワクワクさせる喜寿の坂 ヒ口

大世帯まとめた母の肝っ玉 福子

コロナ禍の不満まとめてゴミ箱へ 和子

顔役が話まとめる過疎の村 たけし

愚痴痲いまともゴミ出し年の暮 ふみ

長い尻箆にタオル効き目なし 光弘

ジャンボくじ当れと折る大晦日 靖博

折るよりしこたま飲んでポックリ死 直樹

リモートで折りに参加する法事 正美

戦火の地逃れる民の無事折る 幸子

煩惱が百と八つに収まらぬ 幸子

思いに反しコロナ新株次々と おくみ

負け試合運を味方に巻き返し おくみ

何か手はある死に急ぐことなかれ 孝代

人生の坂道すべて生きる糧 孝代

地震子知やつぱり鯨飼つところ 孝代

老い來たる朝のお話もう忘れ 規之

紅を引く口元だけが若返る 純風

お出掛けで椅子があつたらトッコイショ 登美子

欲の皮張つてもめだす遺産わけ 隆明

百均の手袋だつて暖かい 由夏

亡き母と心通わす流し難 由夏

猿が居る出るに出れない露天風呂 洋二

誰にもくる加齢と医者がささり言う 由子

永かつたけれどまだまだ道半ば 隆彦

牙を渡る嘘がつけない冬の月 千代

五七五下五でぐつと句が締る 澄子

ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒鬼報

ぬるま湯に育つた柔な紳士面 則彦

予想気温聞いて湯豆腐二日分 奈津子

冬の散歩お供はお湯のポットです 一弥

男湯にあればいいのに美男の湯 宏造

待たなし石炭火力止めようぜ 勝弘

待っている間に川柳一句出来 直子

鈴の音を起きて待ってるクリスマス 春代

じいじいは孫にすつかり参つてる 正子

足神社お参りしたが帰途に転け 契子

バラバラの家族をつなぐ暮参り 堅坊

ポチの尾が息子帰宅でちぎれそう 順子

初恋は沸点知らぬまま終る 純子

金沢に冬の始まる雪囲い 黒兎

六甲川柳会(兵庫)

梶谷 和郎報

四角くて丸い男が見つからぬ 利恵子

四角に生きてきた父丸くなっている 洋次郎

方言が四角い言葉丸くする 崇史

四角いものも丸くおさめる老練さ 廣光

棋士聡太基盤があれば奮い立つ 正彦

コップより拵と決めてる父の酒 美恵子

先輩の名句なぞれば漢詩なり ひろし

円空仏の足跡なぞる夫婦旅 真核子

前例をなぞり時代を足す老舗 狸月

なぞり合い同じ歩幅で老いの坂 次郎

ああ米寿はちばち危ううなりました 美穂

ふたりだとはちばち話す反抗期 利子

故障でもばちばち行けばべつちよない 義明

親孝行やつとする気になった古希 恭子

程々の全力妻のアドバイス

公輔

一杯職務を果たし燃え尽きる

保弘

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

目の前のまずひとつだけ片付ける

正美

全力で母乳を吸つたい眠り

勝弘

鍋奉行出番もなくて二年過ぎ

里子

この国のかたちつくった志士がいた

美津子

切り株が愛しい僕と同年

理恵

破れ鍋の僕にもちゃんど蓋がある

佳子

来年は頼みませとタイガース

盛夫

千年株キミはちつとも威張らない

一歩

寒い夜は無口になってカニの足

克己

うどん県となりは愛媛みかん県

隆浩

相伝の技を重ねて塔が立つ

誠

鍋磨き女は謀叛考える

行兵衛

スマホの子お空が君を呼んでるよ

千賀子

切り株の樹齡無言で語る

昌代

皆巢立つ奉行も寂しうどんすき

ゆみ子

ああ禁酒ぐい呑みに白湯くすり飲む

和宏

ほんのりと酔って好きだと言ってみる

恭正

鮫鱈鍋幸せの音冬の音

志津子

耐震補強杖二本声高らかに

弘久

ほんのりと白酒に酔うわらべ唄

弘子

ことを経て洗みと丸み出る土鍋

保州

貫縁と思えば嬉し胴回り

光久

告白のほんのり匂う酒に酔う

雅美

青雲を抱いて都の隅に棲む

俊雄

大丈夫まだ悪知恵も湧く米寿

哲男

ほんのりと八十路の頬に紅を差す

淳子

ハグをするほどの仲ではないのだが

理恵

誌上では毎月お会いしてますが

正和

残照はほんのり命つきる迄

大子

花束を抱いて老兵去り行く日

玄也

今日も無事やれやれとフルトップ引く

和郎

茶を入れてほんのり香る里の味

もと子

抱きしめて大丈夫だよ大丈夫

直子

二度寝して昼寝早寝で日が替わる

勝弘

ほんのりと西方浄土光り出す

富子

疑問など抱かず支払う消費税

さくら

またキナ臭くなっている政界め

博

より添えばこんなにくい尉と姥

希久子

喜寿過ぎの内緒ないしょの夢を抱く

雅美

晴耕雨読でも賢治にはなれぬ

大久保眞澄報

国民に添った政治の見える化を

みつこ

子を抱いた温もり今も手に残る

大子

年輪が醸す言葉の慈しみ

ふりこ

鬼か仏かひとまはは添うてみる

いさお

タレントだけが盛り上がってるパラエティー

福貴子

仰ぐほどに年輪刻むいい笑顔

則彦

二人して苦勞乗り越え添い遂げる

裕之

ペビーカーに散歩の犬が乗っている

眞澄

年輪をほどけば洩れてくる吐息

和郎

意に添わぬレル外れる反抗期

崇之

預金利子いままは何にも買えません

崇明

趣味と恋の年輪積んでいる最中

堅坊

寄り添って歩く理由は変化化する

すみ子

どっちでもいい事ばかり気にしてる

裕之

百歳の年輪のよな笑い皺

ひろ子

失敗用スベアそつと添えてある

和夫

半額で買って食品ロスにして

和夫

俺の年輪八十八となりけり

昭篤

左手を添えて付度する握手

恭昌

主張だけしてるがルール守りなよ

まつお

年輪は頑張ったって嘘つけぬ

シマ子

人間の欲に添いかねると地球

すみえ

自己主張すれば会社にならまれる

廣子

見苦しい主張ばかりで無責任  
 だんまりも一つの強い主張です  
 主張する老舗の味に惚れました  
 きつねうどんのネギの主張を聞いてやる  
 ただひたすらに泣く赤ちゃんの主張  
 それぞれの主張を秘めた花言葉  
 赤や黄に自己主張して木々眠る  
 核ゼロの主張生涯押し通す  
 例えばで始まる友の自己主張  
 自己主張譲らぬ時は河内弁

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

漱石の猫にコラムを依頼する  
 コラム欄読んでほっこり茶が旨い  
 辛辣なコラム優しい句読点  
 コラム欄生きるヒントにおかず迄  
 さすが記者コラムに光るペンの先  
 共感をさせるコラムの熱いペン  
 コラムから世論をつくるひと半  
 囲み記事へウンウンと頷いた  
 新聞のコラムを読んでそうなんだ  
 窓際でコラムニストが背伸びする  
 コラム欄言いたい事が書いてある  
 山椒が効いて紙面が引き締まり  
 コラムには胡椒を振ってあるらしい  
 子の為の両手はいつもあけてある  
 土に生き土の匂いのする両手

反省のその後を見せてくれないか  
 反省のポーズが堂に入っている  
 反省のペン先はすぐ蛇行する  
 筆刀の切れ味コラムから学ぶ  
 悔しいと再チャレンジをしたくなる  
 人生が働き蟻のまま終る  
 反省はしますが謝罪はしません  
 両耳を塞ぐためには要る両手  
 凍える日両手を包む母の愛  
 愛だけを掴んだ眞子さんの両手  
 再会の友へ両手のグータツチ  
 悔しいが顔も頭も負けてます  
 栄光はあの日の悔し涙から  
 同級生皆さん偉くなっている  
 悔しさに至む若すぎる死に顔  
 食堂で注文したのが忘れられ  
 熱燗が悔しいほどにうまい秋  
 再会に両手も喋りだしている  
 磨かれた言葉がつまるコラム欄  
 忙しい時もかならず余禄読む

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

理 恵  
 扶美代  
 まさひろ  
 義 泰  
 信 子  
 珠 子  
 いさお  
 万 彩  
 規 子  
 恵 子  
 航太郎  
 敏 美  
 恭 子  
 達 彦  
 みつ江  
 繁 繁  
 政 雄  
 敏 治  
 麻 子  
 優 優  
 良 種  
 俊 雄  
 昭九朗  
 弘委智  
 水 筆  
 アマエビよコロナに暇を出してくれ  
 さまよっていますたつぷりある時間  
 そのまさかを期待して買う宝くじ  
 秋夕焼け赤い未練を滲ませて  
 美女三人まさかまさかのコップ酒  
 風になり光になって父母がいる  
 利権の壁崩させまいと古狸  
 柿の種ひとつずつ食べ暇つぶす  
 ポジョレの栓抜く音に味滲む  
 政解は一つじゃないよバカの壁  
 真っ白なシートに孫の日本地図  
 救われました君のやさしさ触れる度  
 住む人の人柄滲む庭の花  
 僕よりも健康だった妻が逝く  
 暇すぎて臍を眺めて一時間  
 壁ドンをしたいが相手外方向く  
 理屈なら草から肉が出来るはず  
 汗滲む妻の背そつとタオル出し  
 三十年前は細身の彼だった  
 たつぷりと有った時間が逃げていく  
 検温に消毒済ませ壁をパス  
 断捨離がドンと進んだ自粛中

川柳ねやがわ(大阪) 籠島 恵子報

悩んでも夜は明日を連れてくる  
 遺された言葉の意味が未解決  
 さっぱりと行くかお金も尽きる頃

敏 子  
 ひとみ  
 美津子  
 緑  
 富 次  
 富 次  
 野 次郎  
 洋次郎  
 ゆきみ  
 靖 夫  
 盛 夫  
 野 薫  
 廣 光  
 り こ  
 宏 造  
 隆 彦  
 正 彦  
 新 録  
 みよし  
 敦 子  
 紀 華  
 邦 男  
 勝 弘  
 和 夫  
 亜 成  
 鈍 甲

きれいさっぱり君の手紙で芋を焼く  
こちらから挨拶朝のさっぱり度  
断捨離の書架に残した「方丈記」  
天国もコロナでマスク要るらしい  
旅終えて母の待つてる無人駅  
年金暮らしが天国かも知れぬ  
神の手に還すいのちを日々洗う  
日米の交友サクラ花ミズキ  
類染めた人はその後も健やかか  
色っぽい葉はさんだ歎異抄  
ピンクのオーラ纏続けた寂聴尼  
真つ赤より淡いピンクの軽い嘘  
似合わなくなる頃好きになるピンク  
自叙伝の一ページだけピンクです  
異常気象孕む地球に生きている  
九条が孕ませている平和の帆  
夢多き風を孕んだ子のカイト  
ない知恵をやっと孕ませ生き延びる  
明日を孕む夕日に勇気づけられる  
悲しみを孕みつつけて秋の月  
待ちましたいよいよ発芽いたします  
出産も間近か牛舎で寝る夫婦  
オキシトシン孕むわたしにふりそそぐ  
胎に居る時から君は光の子  
天の川きつと泣いてる宇宙ゴミ  
瀬戸際に立たされている青い空  
国会に一人や二人宇宙人

和織 麗 朱夏 博文 典子 信子 賢子 彰一 楓楽 壽峰 眞澄 武人 蕉子 三十一 秀雄 和郎 美智子 ひとみ かずみ あかり はな 堅坊 弘子 郁夫 朝子

月に住む前は地球に住んでたわ  
本と酒しかない僕の小宇宙  
榮譽賞辞退オオタニの宇宙  
私の宇宙出入り自由としておくか  
川柳藤井寺(大阪) 鈴木いざお報

弘一 完司 心咲 蘭幸  
ときばきと済まそうボジョレーが待つている  
ときばきと恋も別れも自分流  
ときばきと解決望む拉致家族  
ときばきとしたいが五体ついてこぬ  
口のわりには動かないうちの人  
独居ですてきばきやめてだらり生き  
大阪に行けばなんとかなるやろう  
見栄張らず安かつてんと自慢する  
気さくさがいいな大阪あたたかい  
大阪が故里商人根性胸に持つ  
新世界喧嘩しながら飲んでる  
元カノとひっかけ橋ですれちがう  
空堀で生まれたはずが街しらず  
閉会の辞大阪弁で頼りない  
大阪にすぐちのカジノいりまへん  
大坂人すぐにアホかが口に出る  
織田作の風に逢いたく法善寺  
名古屋で生まれ大阪で骨埋める  
豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報

日記帳綴れば過去となるこの日  
お姫様抱っこめざしてダイエット  
ゴール間近私の仕上げ念入れて  
十二ある便座スイッチ「流す」のみ  
オペレータープッシュユタツチの指捌き  
選ぶのは大きい方か重い方  
雨の日にマドンナ聴けば気も晴れる  
道草が好きで天国まだ見えぬ  
百歳の重量感を目差します  
怠け癖今日も一日はつととする  
確認のボタン押さぬと進まない  
ゴール前抜かれる私まだ青い  
スランプと思えば次も頑張れる  
久々の虹見どころ真つ新に  
ゴールキーパーは目配りの効く妻  
押印は減ったが書類減らぬまま  
ゴールしたベッタに皆が拍手した  
押すよりも一歩引いての物見高  
妻のいる団欒という安息地  
定年退職表彰状は妻の金の  
この際だ無くせ政党助成金  
平安な日を待ち太る家籠り  
想い出はいつも薄味アメリカン  
通過待ち楽しむ単線の旅路  
人生の重荷降ろした父の靴  
五十年緩む絆をちよつと締め  
にこにこへたな嘘つく介護の手  
挑戦は未知の自分に逢うチャンス

時子 真理子 (永)玲子 義明 健二 北舟 憲央 敏昭 英旺 千賀子 (岩)玲子 美津子 見清 (福)正彦 弘委智 一歩 勝弘 黒兎 洋志 武人 満彦 (初)正彦 昌代 則彦



一日のゴールシチューの待つ我が家  
十二月八日忘れてクリスマス  
知り合いはどうも地獄に多そうだ  
気遣い読んで二番手ゴール切る  
責任は全て僕だと言いつつた

和歌山三幸川柳会 西川 千鶴報

逆風が負けし魂呼び起こす  
取り敢えずこれ飲んどけと医者が言う  
風唸る夜は独り居の母思う  
和解した帰りは風がやわらかい  
転んでも夢追いかける向こう脛  
前進の筋肉緩む里の風  
うつさない大和心の素晴らしさ  
いい夢を見たぞ未来に羽撃こう  
たそがれの坂で聞いている風の音  
外連味のない芸風が座を沸かす  
エコロジ自負して凜と立つ風車  
夢を盛る両手はいつも温かい  
風下で拾うまさかの遣り福  
粋なコメント苦勞話で笑わせる  
切手まで選び届けと彼の人へ  
太平洋ひとりぼっちが夢である  
じつくりと聞くと小言も役に立つ  
朝の窓に風が季節を連れて来る  
病院へ行く為体調整える  
秋の風ノルマを終えて漱洗う  
正夢が今日の予定を狂わせる

宏造 哲男 眞澄 野鶴 ひとみ 敏照 昇 俣子 菜摘 幹子 宏枝 一雄 准一 昭枝 碧 純子 富香 八重子 理恵 和子 保州 起世子 まき ひろ子 悦男 眞智子

ああ僕が光源氏になった夢  
再起への夢は手すり黒光り  
パンの耳夢を語っていいですか  
無風地帯わたくしの湿気が溜まる  
三度の食事薬飲むた飲食べます  
置き薬期限切れでも飲んで  
追い風に天下無敵と有頂天  
入院の特効薬は母の顔  
百葉の長と名を変え飲み続け  
句作りは老化予防の薬です  
風読まず愚直に生きて明日は晴れ  
美人の湯うちの風呂もと妻が言い  
褪せぬ夢あつて余生が忙しい  
ヒト科にもあつたらしいなシエネリック

川柳塔なら(前月分) 大久保眞澄報

アクシデント日常突如崩れさす  
平穏な普段がなによりの宝  
躓いて立ち止まるまた歩き出す  
茶飯事に慣れて大事を見失う  
道なりはいいなストレス溜まらない  
平凡な日常こそがもうけ物  
穏やかに今日の会話の刺を抜く  
普段着のつもりが妻に見抜かれる  
粥すすり目刺して立てたこの御殿  
天運のもとで流れに逆らわず  
今日もまたありがとうねを積み重ね  
ガハハハとやつと笑えるようになる

義泰 あき子 明子 知香 和美 彦弘 康則 孝雄 弘子 宏美 満喜子 俊介 幸 千鶴

ノルマだと思ふ頭を下げている  
金払う方がペコペコお医者さん  
生きるため米搗きバツタにもなった  
携帯に何度もお辞儀する息子  
先輩に媚び諂つてやつと今  
羊皮紙がペコペコ誘う考古学  
ペコペコのわが青春にパンの耳  
尻尾振る犬に私を見てしまふ  
へつらつて遂に弾ける鳳仙花  
阪急の優勝六甲山笑う  
初孫のピリでも映える徒競走  
白髪にびつたり映える哲学者  
カスミ草添えて花束映えている  
白髪が映える最後のクラス会  
夕映えの中ブランコを蹴るもの想い  
取れ立ての魚に地酒映える酔い  
笑顔が映えるそんな婆ちゃんになりたい  
映えていたミヨちゃん孫に手を引かれ  
息子から借りたネクタイよく映える  
バンクシーよ映えさせてくれうちの孫  
黒枠に映える遺影を準備する  
見映えより味で勝負と母強き  
他人よりヘッドピカピカ映えている

川柳藤井寺(大邸)(前月分) 鈴木いさお報

新庄はいつも前向き凄いです  
大菩薩峠再読思い立ち  
永遠のチャレンジ戦ない地球

(平)美智子 堅坊 かずお 江里子 裕天 羅之 寿之 保州 敬介 一歩 行久 富子 ひろ子 則彦 希久子 史郎 美智代 楓 楽 誠 克己 勝弘 まつお みつ江

宇宙旅行やってみたいが金がない  
 定年後案外似合うフライパン  
 チャレンジをしてもスマホに遊ばれる  
 スケボーにチャレンジしたい老いの足  
 一年振り筆は私を馬鹿にする  
 一本のザイルに命山男  
 とことんする我慢これもチャレンジだ  
 ごそごそとキップ探している車中  
 ごそごそと起きる間に佳句が消え  
 ごそごそと入る身の丈ほどの穴  
 チャレンジへみなぎる力輝く目  
 命ある限りチャレンジは続く

川柳ねがわ(大阪(前月分) 籠島 恵子報

ビジネスも恋の成就もタイミンク  
 赤ちゃんポストお守りつけて詫びつけて  
 爆笑を引き出す道化師の涙  
 訪問の手提げ袋にある打算  
 コロナ終わればきつと万歳するだろう  
 切り札は運命開くタイミンク  
 赤い糸ちよつとはずれたタイミンク  
 退院へ新米届くタイミンク  
 置き去りにされた案山子が泣いている  
 敬老が置いてきぼりになる時世  
 置き去りにされてもやはり母恋し  
 置き去りの子犬に孫がかわいそう  
 騙されて陸の孤島に猿と僕

一歩 ひろ子 かずお シルク 喜代子 倅子 扶美代 みつこ 久仁雄 瑠美子 大子 いさお

かくれんぼ鬼さん残し夕暮れる  
 友が近く精根句集置き去りに  
 香に酔って明日の答を引き出せぬ  
 いいコーチ能力フルに發揮さす  
 引き出しは電子辞書からスマホへと  
 怒りから本音がポロリこぼれ出る  
 拘りを捨てれば新しい自分  
 6Bが引き出す才の瑞瑞し  
 唾涎の味を引き出すさ・し・す・せ・そ  
 才能の開花は一言の暗示  
 病床の友を見舞って囲碁談義  
 本当の僕を引き出す深呼吸吸  
 東山訪ねて秋の芭蕉庵  
 来訪者絶えぬ長寿の趣味楽し  
 まず一献心の扉ノックする  
 将棋盤出した所へ鴨が来た  
 巣ごもりへ皮肉なまでの青い天  
 敬老日ホームへ今も贈り物  
 斜めに構え選挙公聴聴いている  
 ウォーキング五感を揺する秋の天  
 ふじばかま目立たぬように恋をして  
 正直に話せば返ってきた答え

あかり 弘委智 仁 かずお 勝弘 千鶴子 武人 寿之 壽峰 欣之 高鷲 和織 鈍甲 千賀 常男 彰一 賢子 ルイ子 信子 弘子 亜成

漁火にイカの舞う日は夢の事  
 光り好きブランドトンが呼ぶ魚  
 身を焦がす恋をした人いますかあ  
 漁火を肴にして呑む露天風呂  
 漁火を見て丘の海難碑  
 漁火に満月だつて目が眩む  
 漁火にイカ誘われて宿の膳  
 漁火を独り占めする無人駅  
 漁火に踊る貴方の影法師  
 漁火の感動分かつ鶏飼の匠  
 漁火を見守っている宇宙の犬  
 艶歌には漁火似合う歌詩がある  
 漁火を見守りパワー送る妻  
 ぴつちりめのドレス健在八代亜紀  
 漁火で釣れた活イカ酒に飯  
 漁火の向こうは黄泉の国である  
 漁火のほのかに明日の種火なる  
 漁火と書いてなかにし礼と読む  
 吊り革の爪のかたちがややみだら  
 通じたか睨み合つてる英会話  
 みぎひだり時時迷つているわたし  
 コロナ禍の闇へ螢は灯を灯す  
 セクハラが愛情なのか危険ですか  
 かざす手によくくり告白する緋鯉  
 鮮やかな剪定技術秋残す  
 留守番の部屋で時計と語り合う  
 眼に見えぬこの世の怒り新コロナ

澄子 義明 孝子 英子 慕情 洋子 ひろ ひとし 吹喜 柳子 ちづ子 友二 初枝 和香子 重虎 霜石 隆樹 規子 黙人 龍馬 ふさゑ 一呑 風来坊 真由美 花峯 吞舟

# 第45回全日本川柳2022年富山大会

日時 令和4年6月12日(日) 午前9時開場  
会場 富山国際会議場  
〒930-0008 4 富山市大手町1-2

TEL076(424)5931

## 交通機関

JR富山駅から、徒歩：城址大通り南へ約15分  
市内電車(セントラム)：約7分(国際会議場前)下車

宿題 第一部(事前投句・4月15日締切 当日消印有効)

一般(高校生も含む)部門

「一 滝」長谷川酔月 選 「ひとり」大嶋都嗣子 選

「立」高橋みつちよ 選 「アルプス」上野多恵子 選

ジュニア(小中学生)部門 「一 傘」八木せいじ 選 「鈴」板尾 奏子 選

※専用紙のない方は2×16cmの句箋紙一枚に一句を記入、各題二句無記名。封筒の裏面に住所、氏名明記。

投句料 一、〇〇〇円(定額小為替・現金書留)を同封して左記あてに郵送または郵便振替口座へ送金のこと。(当日消印有効)

投句先 〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目北1-11-905  
一般社団法人全日本川柳協会 宛  
TEL06(6352)2210 FAX06(6352)2433

郵便振替口座 009701913575

講演 「瑞龍寺と前田家」 国宝 瑞龍寺 住職 四津谷 道宏 様

宿題 第二部(当日投句・11時締切) 「離れる」伊東 志乃 選

「水 河」高鶴 礼子 選 「久しい」牧野 芳光 選 各題二句、当日配布の句箋に記入

第二次選者 江畑 哲男 今田 久帆 平田 朝子  
福本 清美 大野 征子

参加費他 三、〇〇〇円(参加費二千円・昼食代千円)

全日本川柳富山大会実行委員長 坂下 清

## 〈表彰式典・懇親会〉(案内)

◎表彰式典Ⅱ令和4年6月12日(日)午後から予定

(川柳文学賞・功労者・大会10回連続参加者)

◎懇親会Ⅱ大会終了後

会場 ANAクラウンプラザホテル富山

〒930-0008 4 富山市大手町2-3 ☎076(4995)1111

参加費 九、〇〇〇円(会食・アトラクション)

大会・懇親会の問い合わせ先

〒933-0807 高岡市井口本江528-13 ☎090(2833)4361

坂下 清方

全日本川柳2022年富山大会実行委員会事務局

大会・懇親会参加費の送金先(4月15日必着)

郵便振替口座 0076001108610 全日本川柳富山大会実行委員会

## 〈宿泊・観光〉(案内)

◎宿泊 (一泊朝食付き・一人部屋 シングル、税込)

①富山地鉄ホテル ②ダイワロイネットホテル富山駅前

③ダイワロイネットホテル富山 ④富山マンテンホテル

⑤ホテルグランテラス富山 ⑥アパホテル富山駅前

※宿泊料金 税込み 8,800円〜12,650円

◎観光

A 6月13日(月)午前8時〜午後1時

世界文化遺産・五箇山合掌集落と井波彫刻コース

参加費 1,1000円(お一人様) 募集人員 最少催行15名様

集合場所 富山駅 午前8時

B 6月13日(月)午前7時30分〜午後4時

大自然満喫!国立公園立山(室堂)と称名滝コース

参加費 1,7000円(お一人様・昼食込み) 募集人員 最少催行15名様

集合場所 富山駅 午前7時30分

宿泊・観光の申し込み、問い合わせ先

〒930-0001 富山市明輪町1-230

㈱日本旅行 T i S 富山支店 担当 花岡・滝川

☎076(433)1184

※宿泊・観光に関する詳細は、資料をご請求ください。

## 編集後記

★淡雪のいつから君を知りそめし 薫風

★某月某日、NHKテレビ「こころの時代」宗教・人生」のシリーズ放送は「それでも生きる 旧約聖書コヘレトの言葉」がテキストであった。……天の下では、すべてに時機があり、すべての出来事に時がある。生まれるに時があり、死ぬに時がある。(中略)泣くに時があり、笑うに時がある(後略)：クリスチャンではないが「コヘレトの言葉」は私の座右の銘である。

★二年ぶりに「こんにちは新同人です」を特集しました。川柳を始めたきっかけ、動機は人それぞれ。けれども共通していることは、みなさんにコヘレトのいう「時機」が至ったということでしょう。新同人のみなさん、

新しい血を、パワーを、川柳塔に注いでくださることを期待しています。

★今現在、私たち人類はコロナウイルスとの戦いの最中にある。何故、何故と、神に問い質したい理不尽な日常を強いられて二年。試練に耐えながらも「待つ」ことに意味があると、コヘレトは言う。待つことのなかに見いだせるもの、希望があるという。「笑う時」はそこまできているだろうか。

★オミクロン株という新種にデルタ株が乗っ取られ、コロナ感染症拡大は第6波に突入も懸念されていた1月6日、本社旬会が再開された。令和2年3月旬会休止以来、待ちわびた旬会である。アクリル板で仕切られた会場、マスク越しの披露、以前とは異なる雰囲気の中で旬会は始まったが、元気な呼名をお聞きしているうちに、静かに喜び

## ひとこと

### 親友のひとこと

65年生きてきて振り向けばいろんな事がありました。楽しかった事、嬉しかった事もありましたが、私の場合、辛かった事、苦しかった事、多い人生でした。でも今になって、可も不可も皆なつかしい思い出です。

私が落ち込んでいた時に親友の言った言葉があります。

「柏原さん、人生で無駄な事は

ひとつもないんやって」ありがたひ言葉でした。私は救われました。

こんな聡明な女性が、私の親友で居てくれる。只々感謝です。そう言えば辛かった事、苦しかった事のほうで、私の心を豊かにし、他人様に対してやさしい気持ちを持たせてくれたような気がします。これからも、特に不可の経験を活かして、歩んでいきたいと思えます。

(柏原 夕胡)

が沸き上がってきた。しかし今後無事に旬会が開催されるという保証はない。マスク、手洗い、消毒、三密を避けるという基本を守り、身の安全を語りつつ、コロナ終息を待ちたいと思います。

(朱夏)

△ある記事によると、一瞬にして心身のストレスを解消する「クンバハカ(満ち足りた態勢)」というポーズがある。尾籠だが「肛門」を締め「肩」

の力を抜き「丹田」に力を込めると、呼吸が整い精神安定・血流改善に効果がある。簡単だから高齢者にも最適だと言う。

△ヤフーで調べると、これは大谷翔平が渡米前に熟読したという中村天風氏発案の「心身統一法」。古来武士の胆力を練る為の「臍下丹田の息」ヨガポーズの「止める息」と同種の健康呼吸法です。△いつでもどこでも、思いついた時に、一瞬でも、

①肩を落として力を抜き、②肛門をキュッと締めるだけでOKとは便利。

△日頃太極拳をしている私もこの「クンバハカ」の心身統一法は共感できませ。便秘、尿漏れ、姿勢矯正、自律神経改善に効果があると思います。是非皆様も、密かに実践されては如何でしょうか。

△川柳の句作に煮詰まつたら、キュッと肛門を締めてみようと思います。

(憲彦)

# 川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

氏名		住所	電話	紹介者
		〒 -		
年	年			
月	月			
から	から			
一年	半年			
9	5			
8	0			
0	0			
0	0			
円	円			

該当の方に○をつけて下さい

〒543  
-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201  
川柳塔社(電話 06-6779-3490)

振替 009804-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

## 作品募集

4月号発表表(2月15日締切)

川柳塔(8句)	小島幸選
水煙抄(8句)	川上大輪選
愛染帖(2句)	新家完司選
檸檬抄「抱く」	久保田千代共選
インスペレーションナビ(2句)	大西泰世選
一路集「耳寄り」	清水英旺選
一路集「せかせか」	原田すみ子選
初歩教室「遊ぶ」(3句)	高瀬霜石担当
初歩教室「遊ぶ」	は5月号発表

5月号  
 檸檬抄「ユニーク」  
 一路集「とにかく」「重い」  
 初歩教室「庭」

## お知らせ

本社2月句会は、1月7日(月)開催予定でしたが、残念ながら急遽中止と決定しました。  
 ワクチンを2回接種しても感染の例も報告されています。三密を避けマスク・手洗い・消毒そして換気を心掛け、ご安全にお過ごしください。  
 なお2月句会の兼題、お話は4月句会に移行致します。

本社3月句会  
 7日(月) 午後1時から  
 兼題「サービス」「灰」「育つ」  
 「過ち」「相性」

## 川柳塔柳篋

3冊 送料共 1,000円  
 事務所あてお申し込み下さい。

定価 八百円(送料100円)  
 半年分 五千円(送料共)  
 一年分 九千八百円(同)

二〇二二年(令和四年)二月一日発行

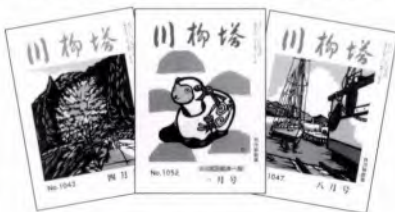
発行人 小島和幸  
 編集人 木本朱夏  
 印刷所 美研アート

〒543-0052 大阪市天王寺区大道一―一四―一七  
 花野ビル201号室

発行所 川柳塔社  
 電話(〇六)六七九一三四九〇番  
 振替〇〇九八〇一四―二九八四七九番

川柳・俳句・エッセイ・小説  
 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



## 美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10  
 TEL (06) 4800-3018  
 FAX (06) 4800-3028  
 E-mail: bikenart@ea.mbn.or.jp

# 箸がとまらん 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ

職人の技術で、超とろ火の火加減により、

秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE  
QRコード

舞昆のお友達に  
なって下さい。

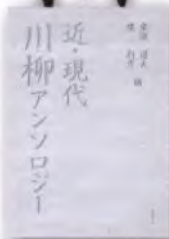
## 舞昆のこうはら

商品のお問い合わせはこちらまで（ご試食承ります）

フリーダイヤル 0120(11)5283

# 近・現代 川柳 アンソロジー

川柳愛好者の座右の書



各作家作品 25句と  
プロフィール収録

定価（本体 2,700円＋税）

A5判ハードカバー／320頁

ISBN978-4-8237-1071-1

お求めは全国の書店、オンライン書店、著者まで

## 楽原道夫・堺利彦 編

編者・楽原道夫と堺利彦が約3年をかけて選定した明治から現代にいたる著名川柳作家とその代表作が集成された、近・現代を通じた最大の川柳アンソロジー。

《主な収録作家》

- ・川柳中興の祖・井上剣花坊と阪井久良俊
- ・昭和黄金時代を築いた六大家（川上三太郎・前田雀郎・村田周魚・麻生路郎・岸本水府・楢元紋太）
- ・昭和後期から平成までカリスマ的存在で一時代を築いた時実新子・尾藤三柳・斎藤大雄など
- ・現代の川柳界を率いる大野風柳、森中恵美子、小島蘭幸、新家完司、高瀬霜石、やすみりえなど多数